

全シ起坐シ、衣裳ヲ着ケ、机卓ニ對シテ、坐チ占メ、其業ニ從事セルヲ見タリ、故ニ是其自己ノ手ナリケレド、自己ニハ、全ク意識ナクシテ、其業ニ服事シ、シガモ、其畫法ノ妙、醒時ニ在テハ、曾テ近ヅクコトヲ得サリシ所ニテ、遂ニ其時ノ爭競者中ノ秀逸タリシト、而テ、其畫ハ、其女子、自ラ自己ノ手ニ非スト、拒ミタレド、褒銀ヲ得タリト云ヘリ

其疑問

今、此女子、晝日ニ於テ、兩眼ヲ開キ且、他ノ官ト、其意ヲモ、十分ニ管束使用シテ、晝キタル所ニ比スレハ、睡中ニテ、其兩眼ハ、蓋シ堅ク閉合シテ、暗中、室裏ニテ、其筆ヲ使用スルコトニ、更ニ勝レタルハ、是何ノ故ソヤ

其理由ヲ

解スヘキ  
諸種ノ事  
ヲ論ス

此事ニ就テ、其理由ヲ解スヘキ者ハ、實ニ諸種ノ事ニ涉レリ、總テ醒遊者ノ、陽ニハ、熟睡ノ狀ニテ、起立徘徊スルハ、何ノ故ソヤ、其女子ノ描キタル所ハ、頗ル靈知ノ高度ヲ要スル所ナルニ却テ意識アルナシト見ユルハ、何ノ故ソヤ、其人、醒時ニ在テハ、大危害ヲ犯サスシテハ、瞬間モ立チ得サル處ニ、危懼スルナク、安全ニ行步シ得ルハ、尤尋常ナル所ナレド、是何ノ故ソヤ、其女子、目ヲ用、非スシテ、見得、又、眞ノ暗黒裏ニテ、至密ナル注意ト至精ナル視力トヲ要スル事業ヲナシ、且、又、唯之ヲナシ得ル耳ニ非ス、其

巧、同一ノ人、醒時ニ在テ、諸事皆便利ナル時ニ於テ、ナシ得ル所ヨリモ、遙カニ、之ニ勝レタルハ、何ノ故ソヤ

第一ニ其  
運動ニ就  
テ論ス

第一ノ事、即チ、睡中ノ運動行步ニ就テハ、其理由ヲ解スルノ法、二様アリ、吾人之ヲ假定シテ、全ク自動力ナリト、ナスヲ得、是、或ル有名ナル生理家ノ見解ナリ、其言ニ云ハク、意識アル靈魂ハ、絶テ此事ヲナスナク、絶テ運動ヲ知ラサルナリト、蓋シ云フ、意ハ、唯筋維ノ收縮ト、骨節ノ切斷ヲ、受ケタル時、怒張スルノ外、絶テ運動ノ事ニ、關スルナシト

此見解ヲ  
駁ス

既ニ、上ニ暗指シタル道理ニ因テ、吾輩ハ自動力ノ考定ヲ、取ルコト、能ハス、是凡テ、眞ノ心理學ヲ、傾覆スル說ナリト見ユ、形體ハ、神經ノ機關ノ、發作スル精力ニ從ヒ、自ラ運動スト、雖モ、其機關ハ、再ヒ、唯心ヨリ、起シタル發作ニ從ヒテ、發作スル者ニテ、心ハ、此機關ヲ活動シ、通徹シ、且、管束スル者ナリ、故ニ、醒時ハ、心裏ノ發用アリテ、而テ、後ニ、神經ノ發動而テ、後ニ、筋維ノ發動アリ、是皆意ノ、管束ヲ受ク、唯睡中ニハ、此管束、一時停歇シテ、思慮往來シテ、其變幻ニ任シ、伴性ノ理法ナラテハ、曾テ他ノ法理ニ、屬スルコトナシ、然モ、心ハ、猶發作シテ止マズ、思慮ハ、其無意ノ運動ヲナシテ、亦



自テ多事ナルナリ此運動チナスハ即チ腦髓神經ノ司ル所タルヤ明カ  
ナリ而テ今腦ハ自ラ思慮シ神經ト筋維トハ發作シ四肢百體依テ以テ  
自然ニ運動シテ曾テ心ノ精力ヨリ發動スルニ非スト云フハ誠ニ淡泊  
無味ノ假定ニシテ凡テ此心ノ世ニ知ル事實トカノ事例ノ明白ナル證  
徴トハ兩立ス可ラスシテ且凡テ心體相關スル正シキ考ヘトハ相敵視  
スル者ナリ

他ノ考定  
ヲ論ス

又他ノ一層理アルニ似タル假定ハ以謂ヘラク此意ト云フ者本來ハ  
睡中ニ心ト體トニ就テ管束チ失フ者ナレハ睡遊ノ狀ニ於テハ一ノ方  
法アリテ稍少シク其勢力ヲ復シ心體ヲ管束シ以テ其身體チシテ其時  
心ニ旺生シタル思慮ト感動トニ一致シテ起立徘徊スルニ至ルナリト  
故ニ此時ハ意アリテ思慮ト提起トヲ管束スルコトナク是皆無意無志  
偶然ニシテ只本來ノ伴生ノ理法ニ屬シタル耳然レ此時其提起ト衝動  
トノ活潑有力ナルコト一層倍シタルニ由ルカ若クハ感覺スル機關ノ  
離開シテ其一部分ノミ醒覺ノ情タルニ由ルカ孰レニシテモ意ハ此心  
ノ提起チ受ケタル狀ト一致シテ發作シテソレヲケ身體ノ機關ヲ管束

講究ノ第  
二點

スルノ勢力ヲ復取シテ以テ運動チ發スルニ至ルナリ是ヲ以テ此時ハ  
其夢只受動ニシテ體ノ起立シ手ノ筆ヲ把リ當然ノ運動チナシ作用チ  
ナスコト皆其夢中ノ心ノ理會ト相通シテ事ニ服シ了リテ恰合ナルニ  
至ルナリ

此答辭ハカノ睡遊者何ヲ以テ陽ハニ意識ナシト雖ヒ靈智ヲ要スル作  
用チ成シ得ルカト云フ第二ノ疑問ニ對フルニ足レリトス

此時ニ當リ意識アルコト疑ヒナシ是必ス無キチ得ス此瞬間ノ思慮ト  
感動トハ其瞬間ニハ我ニ知ラルナリ今思慮ト感動トニ意識チ有セ  
スト云フハ知慮セス感動セスト言フコトナリ今其舉動チ成ス彼カ如  
クニシテ後コ之ヲ記セスト雖ヒ是其事ノ起リシ時意識ナシト云フ明  
證ニハ非ス唯記性ノ存セサルニテ意識ノ存セサルニハ非ルナリ

記性ナキ  
ヲ論ス

或ハ解釋スルチ得ヘカラス是五官其一部分ハ發動ナキニ由テ其周匝  
ノ物體ト我カ身ト現實ノ關係チ知覺スルコトナキハ蓋然ノ理ナラス  
ト謂フ可ラス然レ此道理ヲ以テ此時ノ間是心ハ自己ノ發動ニ就テ意



第三ノ疑問

識ヲ有セサルコトヲ憑證ス可ラス、是固ヨリ有ル可ラサルノ事ニ屬ス」  
 第三ノ問題ナル、睡遊者ハ、何故ニ人ノ醒時ニ在テハ、到リ能ハサル處ニ、  
 到リ得ルカ、譬へハ、懸崖ノ端ニ沿ヒ、家ノ屋上ニ乗ルカ若キハ、何シヤト  
 云フニ至テハ、其解釋、單索ニシテ、容易ナリトス、兩眼ハ閉チタルヲ以テ、  
 觸覺ヲ無二ノ嚮導トス、故ニ其脚ハ唯其躡チ支フル爲ニ、數寸ノ地ヲ要  
 ス、之ヲ得レハ、其他ニ要スル所ナキハ、他ニ何事ノアルモ、總テ知サレハ  
 ナリ、吾人ヲシテ、他時跬歩ノ後危害アルヲ知ラシムル者ハ、目ニテ、是實  
 ニ却テ、現在ノ危害ヲ生スルナリ、今汝、地上ヨリ、一尺許離レタル板ノ上  
 ナラハ、僅カニ、二寸ノ幅ナリトシテ、走過シテ、安全ナルヘシ、故ニ若汝ヲシテ、  
 高卑ノ差ヲ知ラサラシメハ、地上ヨリ、百尺ノ距離ナルモ、同シク二寸ノ  
 板面ヲ走過シ得セシムルニ、筋維ノ努力ハ、同一ナルヘシ、カノ睡遊者ハ、  
 其眼ヲ閉チ、專ラ觸覺ノ性ニ、寄信スルカ故ニ、曾テ其危害タルヲ知ラサ  
 ルナリ

猶答辭ヲ要スル問

然ルニ、猶至難ノ問題アリ、是睡遊者ハ、暗黒裏ニ在テ、書ヲ讀ミ、文ヲ綴リ  
 畫ヲ描キ、走過スル等、他人ノ爲スヨリモ、一層能之ヲナシ、又自身他時、目

題

ヲ開キテ、爲スヨリモ、一層能之ヲ爲スハ、何故ソヤト、云フニ在リ、何カ故  
 ニ、睡遊者ハ見ルコト無クシテ、此等ノ事ヲ爲シ得ルヤ、又如何シテ、暗中  
 ニ在リ、視神ノ官具ヲ閉塞シテ、之ヲ見得ルヤ、此事實ハ、著明ナルコトナ  
 レト、容易ニ解釋ス可ラサルナリ、其形體ハ何カ故ニ、能運動シ、且頗安全  
 ナリヤ、又腦ノ發作ハ何カ故ニ、睡中ニテモ、進行シ、縦ヒ、後來之ヲ記取セ  
 サルモ、發作ハ、存セリヤ、是余能之ヲ解釋シ得タル所ナリト雖、其書ヲ  
 讀ミ、畫ヲ描キ、暗室中ヲ、前行スルモ、周匝諸物ト、相抵衝スルコトナク、迅  
 速ニ走過スルニ至テハ、是至密ナル視力ヲ、要スルノ運用ニシテ、本來視  
 神ノ官具ヲ、用非スシテ、能視得ルコトハ、何ニ由テ然ル、是余カ、明カナラ  
 サル所ナリ、今睡遊ヲ指シテ、自動力ナリトスルモ、此言以テ、此問題ヲ解  
 スヘキニ非ス、唯人ノ視ルコトハ、自動力ナリト謂フヲ得ヘキモ、目ナク  
 シテ、視ルハ、自動力ナリト謂フ可ラス、其考定ニテハ、一處ヨリ、一處ニ至  
 ル運動ハ、自動力トス、是其人、睡中ノ行歩ヲ謂フ、然レ、足ニ非ル舉動ハ、自  
 動力ナリト謂フ可ラス、又睡中ニ於テハ、靈魂ノ生活、形體ノ生活中ニ、混  
 在スト云フト雖、是此難問ヲ、解釋スル所ニ非ス、此言誠ニ然ルモ、形體



ノ目無ウシテ視目ノ光無ウシテ視ルハ如何  
一般性覺 無雙ノ考定ニテ、且稱スヘキ解法ヲ供シタリト見ユルハ、或ル日耳曼ノ性  
ノ考定 理家、又本邦ニテハ、老智ノ發明セル所ニテ、一般性ノ考定是ナリ、其言  
ニ云ク、凡テ各種ノ感性ハ、其源ニ溯レハ、唯一概通ノ覺性ニ約スヘシ、即  
チ感觸ノ覺性はナリト、其比喻トシテ、指ス所ハ、蟹ノ耳ノ若キ、蠅及ヒ、蠅  
牛ノ目ノ若キ、蠅ノ嗅ニ於ケルカ若キ、此ノ如キ種類ニハ、各自ニ視、聽、嗅  
ノ官具アルコトナク、唯感覺ニ供スル概通ノ神經、布筋ス、或ハ神經ヨリ、  
少シク織線支出シ、常皮ヨリ稍薄ク、一層細微ナル膜ト、相連接スル耳、是  
ニテ、吾人平常、物ヲ知覺スルノ道ハ、無二不易ノ道タルニ、非ルヲ知ルヘ  
シ、視聽等ノ各種ノ官具ハ、總テ知覺スル爲ニ、必要タルニ、非ス、況ヤ、感覺  
ニ於テヲヤ、カノ蝙蝠ノ若キ、ハ其目ヲ、全ク除キタル後ニモ、以前ノ如ク  
飛翔シ、正シク以前ノ如ク障礙ヲ避ケサル莫キハ、試驗ニテ、發見スル所  
タリ、此ノ如キ事例ニテハ、知覺ト云フハ、唯觸感ノ充極シタル者ニテ、特  
別ノ覺性、屢混合シテ、概通ノ覺性ヲ表シタルナリト、而テ又、睡遊者ニ於  
テモ、此事例ニ、外ナラヌト云ヘリ

此考定ヲ  
論ス

上ニ舉ケタル概說中ニハ、眞理ノ存スルコト疑ナシ、然レ、余未タ、カノ事  
例ニテ、解釋ヲ要スル者ハ、悉ク是ヲ以テ、其理由トナスヘキヤ、否ヤチ、知  
ラス、蓋シ、此理ニテ、視神ノ官具ナシト雖レ、一定ノ物體ヲ、曖昧混沌ト、知  
覺スルハ、此概通ノ覺性ヨリ、供シ得ヘキコトヲ、解釋スルニ、足レリトス、  
然レ、醒時、目ニテ視ルヨリモ、一層明亮ニ、視得テ、一層精密ニ、運用シ得ル  
ハ、解スヘキニ、非ス、是余カ未タ、曉解セサル所ナリ、或人ハ、假定シテ、以謂  
ラク、是或ハ、最内ノ一意識ニシテ、形體ノ機官ト、相待タスシテ、隱微ナル  
靈魂ノ生活存シ、依テ以テ、形體ト、靈魂ト、平素ノ關係、毀廢停止スル時、之  
ヲ時トシテ、發出表現スルニ、非ルヲ得ムヤト、是吾人、上説ト相反シテ、知  
ル所タリ、然レ、隱微ヲ解クニ、一層大ナル、他ノ隱微ヲ、以テスル者ナリ  
余謂フ、吾輩、如何ナル考定ヲ、取ルレ、若クハ、總テ取ルコトナキモ、此諸事  
例ノ事實ヲ、觀ル時ハ、從ハサルヲ、得サル者アリテ存ス、神經ノ諸機、一定  
ノ混亂ヲ受ケテ、甚シキ激動ノ狀ニ至リタル時、即チ、疾病ニテ、衰弱シ、尋  
常ノ事ニテモ、平日ヨリハ、一層強シ、神經ヲ、覺動スル時ハ、尋常ニテハ、耳  
目ニ知覺ス可ラサル物ヲモ、知覺スルヲ得、或ハ時トシテ、知覺スルニ至

如何ナル  
說ニ從フ  
ヘキヤチ  
論ス



リ加旃感性ニテ耳目ノ用ヲ兼子且他ノ官具ノ用ヲモ兼ルナリ是前ニ述ヘタル如ク睡遊即チ自然磁染ノ睡中ニ發スル者ニシテ吾人又神遊ノ狀ト或頗狂ノ種類トニ於テハ或ハ奇異ナル形狀ノ發スルヲ見ルコトアリ

其心裏ノ運用著明ナルヲ論ス

唯此現象ニ就テ專ラ心ノ運用ノミヲ論スレハ睡遊ノ心狀モ容易ニ解説ス可ラサル者ニハ非ス睡遊ニ於テモ又睡眠夢神遊又頗狂サヘモ總テ是ト密ニ連絡シタル諸狀ニ於テモ意ハ思慮ノ連絡ヲ管束スルノ勢カチ亡フ故ニ其時方ニ旺スル所ノ思慮感動ニテ其作用ヲ起シ全ク其作用ノ様法ヲ定メテ此狀ニテ之ヲ成シ得ルナリ此旺スル思慮感動ハ睡遊ノ事例ニテハ恐ラクハ多分前時源由ノ効驗ニテ前時ノ心意ヨリ其發作ノ續ク者ナルヘク而テ意ノ勢力停歇シテ五官閉塞シタル時モ其神經ノ流通性質固有ノ發作ノ類ニテ同一ノ管溝ニ注クコト前時ノ如キナリ其靈魂ニ至テハ蓋シ其瞬間ニ方テ此ノ如キ錯用ニ就テ意識ヲ有スヘシト雖モ後來之ヲ追思スル時ハ既ニ消滅スルナリ

第四章 錯亂セル心意ノ作用

關係

睡遊夢等ト密ニ親接シテ錯亂セル心意ノ一定形アリ是尋常頗狂ト名ク是亦總テ睡遊ト相通シテ一元行ニ出テ思慮ノ連絡ニ就テ意ノ管束全ク停歇失亡スル者ナリ總テ此諸種ノ心狀ニ於ケル現象ニハ意ノ亡失ヲ以テ品性ノ形容本體ノ基礎トナサハルヲ得ス

(第一) 一時ノ經過ヲ論ス

錯亂セル心ノ發作ハ其形狀諸種アリテ稍彙類ニ供ス一ハ一時ノ經過一ハ久時ヲ經皆靈智感性ノ一定ノ錯亂ヨリ生ス

人爲ノ發狂

此中ニテ或ハ人工ニテ揮發劑衝動劑麻醉飲等ヲ以テ發セシムル者アリ或ハ身體自然ノ原由即チ疾病等ニテ發スル者アリ  
心意ノ作用錯亂スル形狀中尤モ通常ナルハ麻醉飲劑ニテ發スル人爲一時ノ形狀是ナリ是本來發狂ト名クル所ニテ亞爾哥兒性或ハ麻醉性ノ衝動劑支那ノ阿片印度人ノ大麻ハチシト名クル如キ藥劑ニテ全ク醉ヒ若クハ少シク醉フ時モ發スル者ナリ是亦頗狂并ニ烏頭等ノ草木ニテモ發スヘシトス凡テ此等ノ事例ニテハ其毒最初ハ血分ニ浸入シテ毒血トナリ而テ神經腦漿ノ發作カ潰亂スルコト見ユ印度ノハチシハ東方ニテ尋常醉ヲ取ル爲ニ用ウル所ニテ蓋シ阿片ヨリモ多カル



ヘシ、亞爾哥兒性ノ飲料ハ、凡テ此ノ如キ衝動劑ノ、五官ヲ攪動スル様法ノ比喻トスルニ足レリ、初頭ハ、之ヲ用非タル人、心意ノ發動、増進スルヲ覺ニ、思慮迅速ニ往來シ、陸讃トシテ、愉快ヲ發シ、像想力モ發動シ、記性妄想、理性共ニ、醒覺ナリ、而テ漸次ニ、此心上ノ發作、増進シテ、竟ニ自然ニ、意ノ管束ヲ、免ル、ニ至リ、一事一物ニ、意ヲ注スルコト難クナリ、竟ニ爲ス可ラサルニ至リ、奇怪ノ念慮、胡亂ニ徘徊シ、一モ著明ナル源由ニ、出ルナク、又絶テ知ル所ノ、提起ノ理法ニ、由ルコトナシ、此念慮、其注意ヲ惹キテ、竟ニ、全ク我カ心ヲ、之ニ委スルニ至ル、是ニ至テハ、患者ハ既ニ、外界ノ物ニ就テ、意識ヲ有スルコトナキモ、同時ニ、又、外界ヨリノ、感觸發動ハ、之ヲ受クルコト、猶磁染ノ狀ニ於ケルカ如シ、此許多ノ所、カノ、睡遊、神遊、并ニ尋常ノ夢ニ於ケル心ノ狀ト、密ニ相似タルハ、余カ指示ヲ待タス、阿片ニテ、發シタル心ノ狀ハ、蓋シ、一層甚シカルヘシ、其腦漿ニ逼リ、實在ト相似タル照影ハ、一層眞ニ迫リ、一層數多ナルヘシ、然ルニ、其後ノ疲勞、反動ハ孰レニテモ、畏ルヘキ者ナリ、阿片ノ説話ニ就テハ、讀者應ニ、有名ナル徳間西ノ著ハセル、阿片人ノ識論ヲ見ヨ

狂病症ノ發

尋常發狂病モ、本體ニテハ、上ニ舉ル所ト、同一性質タリ、唯其症候ヨリモ、寧ロ原因、即チ誘因ニ於テ、異ナリトスル耳、是亦甚ク同一ノ症ヲ見ハスコト屢ニテ、心ノ發動、増進スルコトモ現ハレ、注意ノ難キコトモ、同シク奇快ナル照影、往來常ナシ、思慮ノ連絡、奇異ニシテ、且意ノ管束ヲ受ケス、其心竟ニ其照影ノ有トナリテ、自己ノ運用ヲナス爲ニ總テ管束ヲ失フ、是ニ於テ此心ノ理會スル所ノ事物ハ、總テ取テ、實在ノ形體トナシ、既ニ理會タルニ非スシテ、知覺トナス、譬ヘハ、畫圖ト思フ物モ、壁間ニ運動シ、平面ト思フ物モ、室内ニ充滿スルノ、想ヲナスカ如ク、之ヲ以テ、眞ニ見ユル物トナスナリ、故ニ、其感覺ハ、健康現實ノ視神ヨリ、異ナルコト無シト雖モ、唯其效驗ハ、全ク内部ヨリ、外部ヘ發作シ、感受官ヨリ、却テ視神經、網膜ノ方ニ發動シテ、現實ノ視神ト全ク顛倒ヲ相ナスナリ、聲モ亦聞ユト雖、同シク種々ノ音ニ聞ヘ、其誘因ハ、内部ヨリ、外部ヘ發シ、外部ヨリ、内部ヘ達スルニ非ルナリ

其夢ヨリ異ナルヲ

此狀ノ夢ト、異ナル所ハ、本主ノ、睡眠ヲ要セサルト、又諸能力ノ錯亂夢ヨリモ、一層大イニ、一層甚タシク、且其時間モ、一層永キナリ、其幻景モ、恐ク



論ス

ハ、一層的切ニテ、外部ノ眞成本體ト理會スルコトモ一層活潑ナルヘシ  
 其夢ト同シクシテ、磁染ノ時ノ理會ト、同シカラサルハ、頓狂ノ念慮幻景  
 ハ、後來之ヲ追思スルコトヲ得ルニテ、多分ハ然ル者ナリ、然レ唯、其心ニ、  
 之ヲ虚誕ト見現實ノ事件ナラスト、思フコト難シトスル所ナリ  
 夢ニテハ、吾人視聽シタリト、見ユル物、腦漿、若シハ、他器ノ感動ニテ、感受  
 官ニ、生シタル變他ナリ、發狂ニテハ、其感受官、自錯亂シテ、虚妄ナル形容、  
 幻象ヲ呈スルナリ

心風ヲ論ス

心風ト名クルモ、亦心ノ作用ノ、錯亂セル狀ナレトモ、上ニ擧ル所ト異ニシ  
 テ、是ハ、靈智ノ錯亂ニ兼ヌルニ、多少情ノ次序ヲ失シタル者ヲ以テセリ、  
 其患者ハ、總テ何ニテモ、深ク感動スル者ニ逢ヘハ、甚シク發スル者ニテ  
 此感發ニ伴ヒ、多少亦靈智ノ紛亂アリ此二ツノ形容ハ、實ニ交互ニ相繼  
 キテ、殆ト定體ナク、相連絡スル者ナリ、其主本タル元行ハ、何レモ、同一ニ  
 テ、思慮感動ヲ、意ニテ管束スルコトヲ、亡フニ在リ、是皆、身體ノ原因ヨリ、  
 發スル者ニテ、一時經過ノ症ナリ  
 提起ノ勢 上ニ擧ル、總テ諸種ノ發狂ニ於テハ、人爲ニテモ、自然ニテモ、其心ハ、外

(第二)久時ヲ歴ル形狀ヲ論ス

界ヨリノ提起ヲ、受ルニ供シ、其提起シタル物、屢、念慮ヲ、管轄スル者トナ  
 ルナリ、是ヲ以テ、看侍ニ供スル者ハ、患者ノ面前ニテ、言行スル事ニ、深ク  
 戒慎ヲ、加フルコト、必要ノ嚴規ヨリ學士加爾偏多ノ說話ニ、此事ノ例ヲ、  
 擧ケタリ、其中ニ、或ル有名ノ國手、熱病ノ患者ノ、窓ヨリ跳下シテ、命ヲ失  
 フニ至ラシメシコトハ、多數ナルヲ、擧ケ、患者ノ面前ニテ、此ノ如キ事件  
 ヲ防クヘキコトヲ、侍者ニ命スルハ、其醫モ、亦極メテ、鈍漢ナリト、是此事  
 ニ就テ、說話セル事實ナリ

靈智ノ錯亂ヲ論ス

余將ニ、心時錯亂ノ、一層永久ナル形狀ヲ表章スヘシ、是尋常癲狂ト名シ  
 ル者ニテ、本來心意ノ發動、常例ニ異ナルヲ、徵スル名ナリ、此條ハ、心風、若  
 シハ、痲疾等ノ、續イテ攻惱スルニ因テ、腦漿衰弱シ、或ハ靈智ニ、一定ノ錯  
 亂ヲ致シ、或ハ情ノ感發、錯亂シテ、永久ノ偏癖ヲ、ナス者アリト見ユ  
 其靈智上ノ能力、錯亂シタル者ニ於テハ、其症候ノ首本タル形容ハ、前ニ  
 述ヘタル所ト、同一ナリ、即チ心ノ運用ニ就テ、意ノ管束ノ失亡ナリ、是既  
 ニ云ヒシ如ク、此ニ表章スル心意ノ異常ナル作用ニ、諸種アル病症ニ於  
 テモ、性理上ノ基礎タルナリ



記性ヲ攪  
論スルヲ  
論ス

此論題ナル事例ニテハ記性ノ能力ノ誤欠ヲ多分第一ノ徵候トシ、殊ニ、  
記性ノ中ニテ嚴ニ有意ニ屬スル者、即チ追懷ヲ甚シトス、是ニ由テ過去  
ノ經驗ハ、溯ル可ラサルノ境外ニ在テ、之ヲ利用スルコト、能ハサルカ故  
ニ、論辯辨決ノ作用、欠ケタリトス、其思慮ハ、附着ト、連絡トチ失ヒ、過去ノ  
基礎ヨリ、切斷シタルカ如ク、既ニ之ヲ伴生ノ理法ニテ結合スルコト能  
ハス、一往一來、自動力ノ類ニテ、奇怪ナル運動チナシ、之ニ就テ、其心ハ、恒  
ニ其力ノ微弱ナルヲ覺ルナリ、其記性、漸次ニ衰萎シテ、意既ニ、前時ノ如  
ク、心ノ發動ニ就テ、正シキ管束チ行ハス、其威光モ、微弱ニナリ、其權力モ  
去リ、心、自己ノ管轄ヲ失フコト、猶船ノ、其錨チ離レタルカ如ク、事々無聊  
ニシテ、一定癡狂ノ迅流ニ期スル處ナクシテ、漂蕩ス然ルニ、其心ノ發動  
ハ、猶全ク、其分量ヲ減スルナク、恐クハ、甚シク増進スルコト、アル可シト  
雖也、唯夢ノ如ク、發動スルノミニシテ、總テ其理會ハ、實在トナリ、現在ノ  
眞生界ニ至テハ夢ヲ以テ、之ニ混シ、夢ヲ以テ、之ヲ作ルカ故ニ、唯茫然ト  
シテ、其心裏、自己ノ理會混合セルノ媒介ニ因テ、之ヲ曉解スル、極メテ糺  
糊ナルニ至ル總テ、其情ノ發起スルコト、全ク欲亡シテ、意ニ此ノ如キニ、

至リ得ルコト、屢、ナリ

容易ニ療  
ス可テサ  
ルヲ論ス

上ニ擧タル症ハ、以前ニ述ヘタル心狀ヨリモ、醫療ニ供スルコト甚々稀  
ニシテ、腦中ノ一定ノ錯亂ヨリ、發スル癡狂ニ至テハ、實ニ全愈ノ望、甚々  
少シ、時トシテハ、自然ニ、快復スルコトアレ也、全ク治スルコトナシ、是年  
齡、資質、預定ノ諸原因、總テ人ノ管束ス可ラサル境遇ノ、諸種ナル事ニ、關  
スル者ナリ

感性ノ錯  
亂セル作  
用ヲ論ス

癡狂ノ他ノ形狀最初、靈智上ノ諸能力ノ、錯亂ヨリセシテ、唯情ノ感發、  
錯亂セル偏癖、ヨリ發シ、之ヲ主症トスル者アリ、時トシテハ、其錯亂セル  
コト、一般ニ、諸情ニ及フ者アリ、此症ハ、精密ナル治療ヲ要スル者ニテ、其  
患者ハ、小兒ノ如ク、之ヲ待スルコト、尤モ柔温ニシテ、且智略ヲ要スヘシ、  
此症ハ、其自己管束チ、助クル論證ト、其動機ヲ促カスコトニ、供スル者ナ  
リ、或ル事例ニテハ、諸情ノ中ニテ、一情、殊ニ此錯亂ヲ致シ、中央ノ座位チ、占  
ル者アリ、又或ル事例ニテハ、頗ル穩靜ナル者アリ、總テ此ノ如キ事例ニテ  
ハ、其情、殊ニ甚烈ナル時ハ、自殺、兇殺等ノ一種別ノ行事ニ、誘フコトアリ、  
之ヲ任氣ノ癡狂ト名ク、此時ハ、其旺スル念慮、即チ、其氣ノ衝動、此心チ虐



使シ其凶命ニ抗ス可ラサルカ如ク之ヲ驅テ罪ヲ犯サシムルニテ其患  
者モ此衝動ニ就テ意識ナキニ非ス畏懼ニ因テ之ヲ轉セムト欲スルコ  
トナキニ非ズ且此所行ト伴ヒタル快樂ト欲心トアルニ非レモ之ニ抗  
スルコト能ハサルナリ是猶那伊亞加羅ノ急流ニ浮ヘル小艇ノ如シ嗚  
呼人ノ身世ニ於テ理性其王位ヲ廢セラレ意君主ノ權ヲ失フ時ハ笈々  
乎トシテ豈危カラスマヤ恐ルヘキノ甚シキナリ

心理學上卷 大尾

心理學下冊目錄

第二區 情ヲ論ス

發端題目

第一篇 此學ノ此部ノ旨趣難易并ニ切要ナルヲ  
論ス

第二篇 感性ノ分解并ニ彙類ヲ論ス

諸家感性ノ大部分記傳ノ略

第一部 單純ナル情緒ヲ論ス

第一情 本能上ノ情緒ヲ論ス

第一章 愉快并ニ其反對タル悒鬱ト名クル心  
意上ノ一般ノ形狀

第二章 朋友ノ死ニ於ケル憂悶

第三章 他人ノ幸福憂患ニ就テ生スル同感

第二篇 道理上ノ情緒ヲ論ス



第一章 自己優劣ノ觀ヨリ發スル歡喜悲哀ノ

情緒

第二章 笑樂ノ享樂

第三章 新珍奇異ノ享樂

第四章 美妙高妙ノ享樂

第五章 躬行ノ正直ナルニ於テノ自得悖戻ナ

ルニ於テノ悔恨

第二部 情款ヲ論ス

第一篇 善意ノ情款

第一章 親族ノ愛

第二章 朋友ノ愛

第三章 恩人ノ愛

第四章 住處并ニ本國ノ愛

第二篇 惡意ノ情款ヲ論ス

第一章 怨恨并ニ其諸類、嫉妬猜忌、報復

第三部 欲ヲ論ス

第一篇 欲ノ情狀并ニ彙類ヲ論ス

第二篇 形體ノ資質ヨリ生スル諸欲ヲ論ス

第三篇 心意ノ資質ヨリ生スル諸欲ヲ論ス

第一章 幸福ヲ願フノ欲

第二章 知識ヲ求ムルノ欲

第三章 權勢ノ欲

第四章 權勢ノ欲一定ノ變化ニ因テ勝ヲ好ミ、

所有ヲ好ムノ欲トナル者

第五章 結交ノ欲

第六章 貴重ヲ受ル欲

第五篇 希望并ニ恐懼ヲ論ス

第三區 意ヲ論ス

發端總論

第一篇 意ノ情狀ヲ論ス



- 第一章 意ノ發作中ニ含メル元本
- 第二章 此元本ノ講究
- 第二篇 意ト他ノ心裏諸勢力トノ關係ヲ論ス
- 第三篇 意ノ自在ヲ論ス
- 第一章 意ノ自在ノ説ヲ執ル考
- 第二章 其直チナル據證
- 第四篇 前論ト相係ハル疑問ノ一説ヲ論ス
- 第一章 意ニ反スル撰擇
- 第二章 吾人行フヘキ偏向ナキ事ヲ行フ勢力
- 第三章 動機ノ響動
  - 第一 意ハ必陽象ノ自然ニ向フ者ナリヤ
  - 第二 意ハ動機ノ最強キ者ニ因テ定メラル者ナリヤ
  - 第三 動機ハ源因ニシテ執意ハ應效ナリヤ
- 第五篇 教門中一定ノ真理ト一連絡ニ於テ概メ

引用書

- ル意ノ説ノ一派ヲ論ス
- 第一章 人ノ心意上ニ上帝ノ及ホス所ノ力
- 第二章 人已カ身上ニ及ホス力
- 第六篇 意ノ強弱ヲ論ス
- 第七篇 配傳ノ略○意ノ自在ノ説ニ就テ爭論ノ概略

下冊目次畢



亞墨利加聯邦神教學士約瑟奚般著

日本

西 周 譯

第二區 情ヲ論ス

發端題目

第一篇 此學ノ此部ノ旨趣難易并ニ切要ナルヲ論ス

分解ノ端 此科學ノ新ナル一部ヲ講究セムト欲スルニ臨ミ、此書ノ緒言ニ既ニ論  
緒 シタルコトナレド、心ノ此勢力ニ就テ、尙暫時、其分解ト、彙類トニ復歸シ

テ、論スルヲ良トス、讀者須ラク、追懷スヘシ、心ノ能力ハ、其分解ニ於テ、智、  
情、意ノ三大部ニ分チ、第一部ニハ、思慮知識ノ諸勢力ヲ包含シ、第二部ニ  
ハ、感動ノ勢力、第三部ニハ、意ノ勢力ヲ、包括セシコトヲ、而シテ此三大部  
ノ中、第一ノ勢力ハ、既ニ前諸篇ニ、論究シタルヲ以テ、今ハ將ニ第二ニ說  
キ至ルヘシ

二大部ノ  
差異ヲ論

心ノ發動ノ中ニテ、此部ト、前ノ部ト、異ナルハ、猶感スルコト、思慮スル  
コト、異ナルカ如ク、其區別ハ、大ニ、且較著ナレハ、人苟モ、自己ノ心ニ就



ス

キテ、其運用ノ如何チ、知ル者ハ、誰カ之ヲ誤解スル者アラシ、縦、人皆之ヲ  
 解釋スルコト能ハズトモ、又所謂情ハ、何如ニシテ生スルト云フチ、審ニ  
 說話レ得ズトモ、其差異アルチ知ルハ、人皆然ラサル莫シ、故ニ、吾人、其意  
 ヲ定メ得ルト、然セサルトニ拘ハラヌ、思慮スルコトハ、感スルトハ、其行  
 爲ニ差異アリテ、心ノ情狀中、全ク別ナル意識ヲ有スルハ、十分ナリトス、  
 今日生平ノ言語ニモ、固ヨリ此差別アリテ、教育アル人モ、教育ナキ人モ、  
 同シク之ヲ用非農夫モ學者モ、均シク之ヲ認メ世界ノ文章ニハ、總ヘテ  
 之ヲ識セリ

二者ノ管  
 係ヲ論ス

此二部ノ勢力、交互ニ、相關スル理ニ就キテハ、智ハ本來、情ニ先タナ、情中  
 ニハ智アリテ、智ニ頼ル者ナリ、故ニ預メ、或物ヲ認識スルコトナケレハ、  
 感動アルコトナシ、感動ハ、物體ヲ觀ルニ因テ、提醒セラル、者ナリ、但シ、  
 余爰ニ感動ト云フハ、勿論心上ノ感動ヲ指スニテ、單索ナル形體上ノ感  
 覺ヲ指スニハ非ス、故ニ、一ノ情愛アレハ、必情愛ノ目的アリ、一ノ好欲ア  
 レハ、必好ニ欲スル物體アリテ、其物體ハ、情ノ心裏ニ、提醒セラレサル前  
 ニ、先ッ初頭ニ、智ニテ、之ヲ理會スル者ナリ、吾人、今愛スル時ハ、或物ヲ愛シ、

感動ノ強  
 弱ハ智ノ  
 強弱ニ關  
 スルヲ論  
 ス

欲スル時ハ、或物ヲ欲シ、或ハ恐レ、或ハ願ヒ、或ハ惡ム時ハ、必其物アリ、而  
 シテ其物タルヤ、多少明亮ニ、定メ得ヘキ形質アリテ、以テ此感動ヲ提起  
 シ、且、其智ニテ、此物ヲ理會シ、若クハ、知覺スルコトノ、明亮活潑ナル度ニ  
 準シテ、感動ノ強弱モ、生スルナリ

是ヲ以テ、感性ノ品級、勢力、即、此心ノ感動ヲ受クル強弱ハ、靈智ノ勢力ノ  
 品級、健俊ニ關シ、一定ノ界限内ニテハ、其一ト、他ノ一ト、其差等、司等ナリ  
 トス、故ニ、人、其心、強剛健俊ナル者ハ、其情ノ、感動、萎靡、么麼ナル人ヨリモ、  
 一層強ク、美爾頓、格朗空、拿破崙、空丕斯、若キ、皆尋常ノ人ニ、超脱セル  
 ハ、特、智ノ知覺ノ、明亮強健ナルノミナラス、感動ノ力モ亦相若ケルナリ、  
 蓋、此中ニ、彼ノ諸人ノ、俊傑タル秘密ノ存セルハ、亦尠少ニ非ルナリ、凡、古  
 今、說術ノ、大家ノ、雄辯ナル文段中ニテ、吾人ノ意思ヲ挑起シ、其言辭ノ我  
 ニ貫徹スルハ、特ニカノ、嚴正ナル致知學ニ依テ、抗拒ス可ラサルノ、權力  
 チ以テ、刻薄ニ辯倒シタル所ニハ、非ス、凡、ヘテ其、熾クカ如キ、憤怒ヲ以テ、  
 其敵手ノ、詭論ヲ挫折シ、偽題ヲ粉齧ニシテ、其論證ト抗論トチ、悉皆掃蕩  
 シ盡シテ、火ノ原ヲ焚クカ如シト云フニハ、非ス、德謨斯、底尼斯、波哥、空丕



斯等ノ談論ニハ此例トナスヘキ所許多アリ

靈智ニ感  
動ノ波及  
スルヲ論  
ス

又一方ニ就キテハ、智ノ形容ニハ、何レノ時ニテモ、此心ノ感動ヲ受クル形質強弱ニ關スルコト、少カラスト云フモ、亦真ナラスト謂フ可ラス、其感性敏捷活潑ナル者ハ、靈智上ノ理會ニ於テモ、亦均シク、一層速ニ、一層強クシテ、想像、知覺妄想、且論辯スラ、依テ以テ、速カニナリ、恰モ電氣ニ抵觸スルカ如ク、因リテ以テ、活動スルニ至ルナリ

其感性ノ遲鈍緩慢ナル人ハ、其智モ、殆ト必、愚蠢蒙昧ナリ、若吾人、奇怪ナル事ナレハ、感動ナキ人ヲ見ルヲ得ハ、其靈智ノ度、禽獸ニ勝サル、極メテ僅少ナルヘシ

心ノ能力  
中ニテ此  
部ノ切要  
ナルヲ論  
ス

感性ノ性質ハ、此ノ如キヲ以テ、此心ノ作用中ニテ、此部ノ切要タルハ、二目ニシテ瞭然タリ、蓋シ人々、行爲ノ源ハ、斯ニ在リテ、總ヘテ人性ノ學、即吾徒ノ從事スル所ニ就キテハ、斯ニ頭緒アルヲ知ルナリ、凡ソ人生行爲ノ問題中、其組織シテ、異常ナル者ニ、通曉セムト欲シ、歷世ノ史乘、社會ノ情狀、凡ヘテ、吾人ノ性情ニ、通曉セムト欲セハ、能感性ノ性質ニ通シ、其理ニ明ナラサル可ラス、此中ニ、此世界紛錯ノ事ヲ、行爲ニ施サシムル動機存シ、

又此中ニ、人ヲシテ、人生ノ大劇場ニ於テ、繽紛交錯變化已マサルノ戲臺中ニ、居ラシムルノ源由、存スルナリ、故ニ總ヘテ、人々ノ氣力ニ、衝動ヲ發揮シ、其方向ヲ指定シ、人々ノ品性ヲ調成シ、人々ノ履歷ヲ造爲シ、人々ノ運命ヲ定ムル者ハ、人々ノ情欲ヲサレハ、莫シ、是ヲ以テ、人ヲ知リ、世界ヲ知ルト云フハ、之ヲ、有力的ニ説話セハ、人ノ心勝ヲ知ルニ、在ルノヨ  
トラスアラシ  
人性ニ在リテ、此部ノ切要タルコトハ、次ノ學士、多馬丕羅昂ノ文段中ニ、能叙述セル所ナリ

丕羅昂ノ  
説ヲ引ク

曰ク、吾人、性ヲ稟ケル、此心ノ靈智ノ形狀ニ就キテ、視レハ、蓋ソ所謂情ナル者、ナシト雖、記念、辨決、想念ノ爲ノ若キ、凡ヘテ其諸種ノ形狀ヲ、具セル者タルヘシ、然レモ、凡ヘテ此等ニ伴フニ、情ヲ以テセサル時ハ、唯靈智ノ官能ノミニシテ、其貴重チ欠クコト、ハ、幾何ナルヘキ、凡ヘテ吾人、此活潑ナル感動アリテ、而シテ後ニ、細密ナル注意ヲ提起シ、記念ヲシテ、永シ懷裏ニ、保タシムルコトアリ、又此活潑ナル感動アリテ、而シテ後ニ、眞理ヲ愛シ、榮華ヲ愛シ、衆人ヲ愛シ、辨決ヲシテ、倦ムコトナカラシムルコトアリ、若此愛微リセハ、吾人、知識ノ開達宣布ヲ要スル、之ヲ稱揚スルニ、陸



續トシテ、辨決ヲ勞セハ、豈其中心ニ歡フニ至ラムヤ、又此活潑ナル感動アリテ、吾人、カノ想像力ノ奇觀ヲ觀察シ、又カノ天然不易ノ、一層奇觀ナル美妙ヲ觀察シ、心ニ感興悅樂スル所アリ、蓋天然ノ美妙ノ若キハ、常ニ存スル所ナリト雖、所謂之ニ模倣スルハ、即此感動ヨリ、生スル所ニシテ之ヲ真ノ模倣トナスナリ、是ヲ以テ吾人、心上ノ他ノ官能ノミニ依レハ、唯寰宇中、動靜機關ノ、看客タルニ過キス、唯此情アリテ、始メテ能、吾人ヲシテ、天地ノ大ナルヲ感シ、人ヲ愛シ、神ヲ尊フコトヲ、知ラシムルナリト云々

情ノ好ミ  
ヌ可ヲサ  
ルヲ論ス

丕氏又曰ク、然ルニ、余上ニ論シタル所ハ、吾人ノ情ヲ、比喻シテ、其至好ノ形容ヲ、述ヘタルナリ、此等ノ情ハ、極メテ好ミスヘシト雖、又其好ミスヘキヲ以テ、隨テ又恐ルヘキ形容ニ、出ルコトアリ、然レ、其恐ルヘキ所モ、亦吾人ノ觀察ニ供シテ、切要ナラサルニハ非ス、蓋情ハ、吾人ノ敵ニシテ、吾人、畢生ノ戰ニ於テ、之ト死闘ヲナサ、ルヲ得ス、故ニ、此吾人ヲ、攻撃スル敵ニ就キテハ、吾人、先其以テ、我ヲ攻撃スル軍器兵略ニ、悉ク通曉スルヲ、善シトシ、又吾人、若敗ヲ取ラハ、其以テ我ヲ待ツ所ノ苦楚、何如ヲ知悉

シ、並ニ若ク捷ヲ獲ルトキハ、我カ福祿、何如ヲ知悉シ、以テ能ク、我カ戰爭ヲシテ、強クシテ、撓マヌ我カ勝利ヲシテ、一層必然ナラシムルヲ、善シトス」吾人ノ情中、此殊ニ怖ルヘキ種類ノ、目錄中ニハ、何レニテモ、所謂情欲ト云フ者ヲ兼、此欲、即人生ニ、罪業ヲ生シ、慘苦ニ陷ラシムル者ニシテ、寸陰ト雖、其疆域ヲ管轄スルニ、懈ルノ時アレハ、常ニ我カ福祉ヲ蠶食シ、竟ニ悔恨以テ、其暴威ヲ怖ル、ニ至ルノ外、我カ徳域、削シテ、毫モ餘地ナキニ至ル、此ノ如クニシテ、猶未ダ全ク壞爛セサル者ハ、其心腸、猶善ヲ好ムノ意ヲ存シ、逡巡躊躇、猶恢復ヲ、望ムヘキ者アリト雖、悲哉、此情欲ハ、孱弱ナル犠牲ヲ、屠殺ニ促シテ、竟ニ凋衰萎靡、再萌生ス可ラサルニ至ル、譬ヘハ、カノ渺茫タル沙漠ニ、暴烈ノ大風起ルカ如シ、特リ目前觀ル所ノ沙堆ヲ、飛揚シ、旋渦ヲナシテ、天ニ朝スルノミナラス、其蒼然、僅々ノ地ヲ存シ、礪礪一望ノ中ニ、稍藹然タラト欲スルモ、之カ爲ニ、嫩葉枯殘シ、再其萌芽ヲ、望ム可ラサルカ如シ

此講習ノ  
難キヲ論

吾人ノ性中、此感性ノ部ヲ、講習スルニハ、一難事アリト云フ説ニ就キテ、姑ク一言ヲ載スルコト、切要ナリ、感性ハ、其真個ノ性質ニ於テ、感發興起



ノ品性ヲ有ス、故ニ正シキ辨決ニ必用タル、淡靜ニシテ、不偏ナル視察省察ヲナスニ、一ノ阻礙ニシテ、心ノ發動中ニテモ此部ノ講究ハ、成功ヲ得ルニ、特別ノ難事タリト謂ヘリ、今願望、恐懼、憤怒等ノ如キ、活潑ナル情ノ發動スル瞬間ニハ、此心詳細ニ反省ヲナサムトストモ、殊ニ混亂ニ屬シ、而テ其感發ヲ制克スル時ハ、切要ナル時間ハ、既ニ已ニ過クルナリト、是士低瓦的氏カ、其決行道徳力緒言中ニ、殊ニ此難事タルヲ表章シテ、其證ニ、<sup>ヒユモ</sup>虎謨ノ説ヲ引カレシ所ナリ

是此科學ノ此部ニ限ルコトヲ論ス

然ルニ問題ナル難事ハ、其實凡ヘテ心理ノ化學ニ屬シ、獨其中ノ、此部ニノミ、限ル事ニ非ルノ一タリ、而シテ士低瓦的氏ノ援ケル文段ニ於テ、虎謨ノ意モ、然カナリト見ユ、今吾人、何ニテモ、情ノ方ニ興起セル時ニ、辨折ノ眼力ヲ以テ、我カ自己心意ノ作用ヲ、視察スルニ、固ヨリ便法ヲ得ス、又機會ニ非スト謂フハ、固ヨリ眞ニシテ、是獨、備ニ感發セル時ニ、之ヲナシテ其當ヲ得サル耳ナラス、論辯ノ如キ、想像ノ如キ、追懷ノ如キ、靈智ノ作用ト雖、專心ニ注意ヲ要スル時ハ、亦爲ス可ラサル事ニ屬ス、此ノ如キ時、吾人、自己ヲ、視察セムトスル瞬間ニハ、此心ノ用、既ニ已ニ前時ノ如クナ

ラスシテ、我カ視察セムト、欲スル經驗ノ目的ハ、既ニ間歇シ、論辯、想像、追懷ハ、歇ミテ、我ハ、唯我ヲ視察スルノミ、故ニ吾人、智ト情トニ拘ハラズ、無ニ脚基ト頼ムヘキ者ハ、平日、記性ニ據ルカ如ク、後來能、尋思シテ、其時ノ心ノ發動情狀、其作用ノ云々ナリシコトヲ、拾集スルニ在リ、是吾人、感性ノ作用ニ就キテモ、又靈智ノ作用ニ就キテモ、情與感發ノ度、殊ニ甚シクシテ、現時ノ意識ヲ攪擾シ、自己心裏ニ經過セシコト、後來追想スルコト、能ハサルニ、至ルニ非ルヨリハ、皆能ナシ得ヘキ所ナリ

報知ヲ得ルノ源由ヲ論ス

又且、吾徒、全ク自己ノ視察ニノミ、依頼スルヲ必トセス、之カ報知ヲ取ルルノ源由ハ、二様アリテ、一ハ、我自己ノ心ヲ視察シ、一ハ、他人ノ上ヲ視察スルナリ、此後ノ源由ヨリシテ、吾人此心ノ作用中ニテ、此部ノ性質ニ、通曉スルコト、極メテ多シ、蓋他人ノ感性ハ、吾人ノ監視ニ供スルコト、一層多クシテ、他人ノ靈智ノ情狀ヲ視ルヨリモ、誤謬ニ落ルコト鮮シ、此等ノ時ニハ、縱ヒ其瞬間ニ當リ、情欲旺盛ナル者ハ、自監視セムトストモ、感慨甚シク、之ニ堪フ可ラスト、雖、傍觀者ニ在リテハ、平心仔細ニ、其情ノ効驗ヲ視察シ、其現象ヲ表出シ得ヘシ故ニ、自己省察ト、同一ノ難事ヲ見サル



第二篇 感性ノ分解并ニ彙類ヲ論ス

一定ノ差別ヲ表シ得ヘキヲ論ス

感性ト云フ語ノ意中ニ以前示セル定義ニ準シ何ニテモ感動ノ性質ナル者ヲ包括シテ一ニハ思慮認識ヨリ之ヲ差別シ又一ニハ此語ヲ亦嚴ニ心ニ興ル感動ニ限り唯形体上ノ感覺ト云フ者ヨリ區別スレハ乃此中ニ一定ノ首タル區別アリテ吾人心ノ情狀中ニ此一類存シテ其中ニ又甚著ルキ大區別大差異ノ在ルヘキコト明ナリ此差別ニ依リテ吾人之カ位置ヲ定メ之カ分類ヲナスニ至ルナリ吾人ノ感動ハ其數許多其種諸様アリ故ニ十全ノ精確ヲ以テ之ヲ枚舉彙類スルハ爲シ得可ラサルノ事ナリト雖也其中交互ニ類似差異ノ所一定シ自然ニ區分シテ一類一種トナルヘシ

普通ノ差別ヲ示ス

感性ノ諸狀諸様ヲ一貫シテ普通ノ一區別アリ是初頭ニ於テ明亮較著ナル者ニテ即稱意不稱意ノ別ナリ凡ヘテ各種ノ感動ハ其眞個ノ性質中ニ必此一ツヲ具ヘサルコトナクシテ一ハ我ニ快樂タリ一ハ我ニ痛苦タリトス此別或ル時ヨリモ甚較著ニシテ烈シキコトアリ又或ル時ハ孰レ

單純ナル情ヲ論ス

ニ在リテモ其度極メテ僅少ニシテ之ヲ覺ユルコトモ難ク之ヲ定ムルコトモ難ク論題ナル感動快樂痛苦ノ品性ヲ含マサルニ非レ也其度極メテ薄キ者アリ又或時ハ二ツノ元行兩ナカラ混合シテ同一ノ感動ナレ也之ヲ受ル必ニ一次ニ快樂ト痛苦トヲ含ムコトアリ然レ也其感動ノ意ニ稱フニモ非ス意ニ稱ハサルニモ非スシテ正シク中立不偏ナリト云フ者ニ至リテハ余之ヲ理會スルコト能ハス中立不偏ノ情ハ感性ノ發シタルニ非ス唯其欠ケタルニテ所謂無情(希臘語アパテオスト)云フ語ニテ徵スル如ク心ノ此ノ如キ情狀ヲ表シテ尤適當ナリトス

此普通較著ナル差別ヲ論過スレハ吾徒感性ノ中ニテ單純ナル情ト名ツケ得ル一種ノ大類別ヲ見ル此中ニ人生上ノ喜憂二情ヲ含ミ之ヲ攪動スル目的ノ異ナルニ從ヒ諸種ノ變態ト諸種ノ度ヲ兼テタリ凡ヘテ心ノ情狀中ニテ一定較著ノ形容ヲ占ムルコトナクシテ吾人ノ發動中ニ喜悅若クハ愁鬱ノ色澤ヲ帶ヒサスル者ハ概シテ此中ニ入り而シテ又其感動一層特別ナル形容ニテ朋友ヲ喪シテ感スル悲哀幽鬱ノ若キ他人ノ幸福ニ就キテ同感ノ歡喜又其不幸ニ就キテ同感ノ憂悶ノ若キ



自己ノ勝レタルコトヲ察シ、若クハ其告示ヲ受ケテ、生スル享樂ノ若キ、  
譏刺ヲ受ケテ、慣怒スルカ若キ、或ハ笑諠或ハ新奇、或ハ美妙ノ享樂ノ若  
キ、皆此中ニ包含スル耳ナラス、猶之ニ加ヘ、行事ノ正シキ意識ヨリ、發ス  
ル鑿足ト、カノ邪行ニ就キテ、悔恨ノ熱情、其度ノ甚シキハ懊惱ト名ツケ、  
地上ノ生路ニ、艱險ヲ生シ、凍雲寒影ノ凋殘ヲ、促スカ如キ、凡ヘテ此等皆  
單純ナル情ニシテ、之ヲ生セシムル目的ノ、異ナルニ準シ、種々ノ狀アリ  
ト雖用、約マル處、唯喜愛ノ諸形タルニ、過キカル耳

其他本能  
上ノ情ト  
理性上ノ  
情ノ差別  
ヲ論ス

錯綜セル  
品性ノ諸

然ルニ又、此單純ナル情ニ、諸種特別ノ形狀アル上ニ、其一ハ、他ノ者ヨリ、  
品位ノ一層高キコトヲ、知ルヘシ、上ニ枚擧セシ中ニ、後ニ示シタル諸情  
笑諠ヲ視、新奇ヲ視、美妙ヲ視、正直ヲ視テ、興起セル感動、且、一般ニ、美妙學  
上道德學上ニ、屬スル情ノ如キハ、是皆、其品位一層高クシテ、靈智開達ノ  
高度ヲ含メリト、見ユルニ由リ、之ヲ稱シテ、理情上ノ情トシ、以テ他ノ單  
純ナル情ニテ、區別ノ爲ニ、本能上ト名クル者ト、差別スルナリ  
上ニ、分解ニ從事シ了シタルヲ以テ、今ハ次ニ、既ニ論シタル者ヨリ異ナ  
ル、一種ノ情ニ、至ルヘシ、是即錯綜セル品性ノ情ナリ、是既ニ已ニ、目的ニ

情ヲ論ス

於テ、好樂、鑿足、若クハ、然ラサル若キ、單純ノ感動ニ非スシテ、情ヲ挑發ス  
ル目的ニ、善ヲ願ヒ、惡ヲ欲スルコト、多少定體アリ、且、太甚ニシテ、單純ノ  
情ト、混スル者ナリ、故ニ此感動ハ、能動ノ狀ヲ取り、客觀トナリ、此情ヲ蓄  
フル胸臆ヨリ、之ヲ喚起セシ、目的マテ、自然ニ經過ス、然ルニ、其目的ニ就  
キテ、善ヲ願ヒ、惡ヲ欲スル欲ヨリ、カノ主觀ナル喜愛ノ元行モ、屢之ニ混  
同一和シテ、知ル可ラサルニ至ル、然レ用、此元行ハ、此錯綜セル情ノ中ニ、  
必少ク可ラサルノ、本體トシテ存スルナリ

此種類ニ  
猶小區別  
アルヲ論  
ス

此種類中ニ、通常情款ト名ツクル諸情アリ、是亦、小別シテ、善意ト惡意ト  
ニ區分シ、以テ此情ニ依リテ、各自ノ目的ノ善ヲ願ヒ、惡ヲ欲スルヲ、表ス  
ヘシ、カノ單純ナル情ハ、總ヘテ喜悅ト、其反體タル愁鬱トノ、諸體諸様ア  
ルカ如ク、情款モ又愛情ト、其反體タル憎恨トノ、包涵セル一本ヨリ、多般  
各種ノ變化ヲ、生スル者トス

款情ニ諸  
種ノ目的  
アルヲ論  
ス

情款ハ、之ヲ寄スル目的ノ、異ナルニ從ヒテ、亦異ナル者ナリ、其善意ノ種  
類中ニテ、尤モ勝レタルハ、親族ノ愛、朋友ノ愛、恩人ノ愛、家國ノ愛ナリ、又  
惡意ノ情款中ニテ、世ニ、尤モ切要マリト呼フ者ハ、自己ノ傷害ヲ厭惡ス



ルノ感動、他人ノ邪行ヲ見テ、憤怒スルノ情、嫉妬ノ感動、及此等ノ諸類ナ

情欲ヲ論ス 此諸種ノ情款、惡意善意共ニ、其生スルコト、常度ニ超エ、激昂、勒スルニ堪

ヘスシテ、業ニ已ニ、道理ノ管束ト、安定ナル省察トヲ受ケス、其情獨、人身全體ノ司令ヲ、掌握シテ他ニ、一層高キ切要アルニ、拘ハラヌ、其人ヲ逼迫シテ、漫ニ欲スル所ノ目的ニ、從ハシムルニ至リテハ、直ニ變シテ、我カ性ノ、情欲トナル、此ノ如キニ及ヒテハ、吾人此肉身ノ生ノ爲ニ、自家心裏ノ、戰鬥ト、紀律トニ、因リテ、之ヲ維持セムト、欲ストモ、亦一モ、存スル者ナシ

欲ヲ論ス

又諸情ノ中、其他ニ、一種類アリテ、其性質、前ニ舉ケタル、首タル二區分トハ、其本體ヨリシテ、異ナリトス、是即、吾人ノ欲ナリ、此欲ハ、二種類ノ者ニテ、其一、人ノ形體ノ性、其官具ノ情ニ本ツク者ハ、飲食ノ欲、筋維發動ノ欲、休憩ノ欲、等ノ如ク、何レニテモ、肉體ノ性ト、其需用トニ、供スル者ヲ、世ニ之ヲ、肉性欲ト名ツケタリ、其一ハ、此形體ノ性ヨリモ、却テ、此心ノ性ト、需用トヨリ、生スル者ニシテ、肉體ノ欲、即肉性欲ヨリ、區別スル爲ニ、理性欲ト名ツケ得ヘシ、此中ニテ、尤切要ナルハ、幸福ノ欲、知識ノ欲、權勢ノ欲、社

交ノ欲、名望ノ欲ナリ

喜悅ハ、其反體ニ、愁鬱アリ、愛情ハ、其反體ニ、憎恨アルカ如ク、好欲ニモ、亦其反體タル厭忌アリテ、其目的モ、亦好欲ノ目的ト同シク、其數、許多ナリ、富饒ノ欲ニハ、其對面ニ、貧乏ノ厭忌アリ、生存福祉ノ欲ハ、困難死亡ノ厭忌ト、相對シテ立ツカ如シ、蓋此二ツノ者ハ、譬ヘテ言ハ、一感動ニ、積極消極ノ二アルカ如シ

願望恐懼

ヲ論ス

又、吾人ノ情中ニハ、其他尙、一種ノ切要ナル者アリテ、人生ノ禍福ニ、關スルコト、殊ニ甚シク、吾人襁褓ヨリ、以テ墳墓ニ至ルマテノ、徑路ニ於テ、此光陰中ニ往來スルヲ、蓋甚少ニ非ス、是即チ願望ト、恐懼ナリト、然ルニ、此二者ハ、其用タル、切要ナリト雖モ、要スルニ亦、好欲厭忌ノ本體、稍變化チ受クル者ニ、過キヌシテ、感性ノ總別ニ於テ、同區ニ繫クヘク、即、願望ハ、或ル善チ期シ、冀望スルノ欲トシ、恐懼ハ、或ル惡チ兆シ、之ヲ厭忌スルノ情トス、上ニ舉ケタル三大種ハ、情緒、情款、欲ニシテ、余ノ指ス所、果シテ人性上、感性ノ諸種ニ、誤謬ナカラシメハ、縱ヒ、其分解ト彙類トヲシテ、全然網羅シ悉スニ、至ラズトモ、吾徒、當今ノ目的ニ、供スルニハ、稍精密トスルニ、足ル

分類ノ總目ヲ論ス



諸家感性ノ大部分、記傳ノ略

諸家ノ取  
ノ本則ヲ  
知ルノ項  
要ナルヲ  
論ス  
此題目ノ講究ハ、此事ニ係ハレル記傳ヲ、一瞥スルニ非レハ、全備ト謂フ  
可ラサルニ、似タリ、吾徒、自己ノ講究ニハ、稍確定ノ、效驗ヲ得テ、其斷言ニ  
至ルヲ、得タレト、尙又、此事ニ就キテ、諸家ノ見解ト、斷言トハ、何如ナリヤ、  
之ヲ知ルハ、亦有益ノ事タリ、諸家ノ取ラレシ所モ、猶靈智上ノ勢力ニ、於  
ケルカ如ク、感性ノ部ニ至テモ亦、其區分、彙類ノ本則ニ於テハ、其說、種々  
アリ、今此書ニテハ、唯其中、一層切要ナル者ヲ、吾徒ノ一覽ニ供スル耳

彙類ノ總  
本則ヲ論  
ス

感性ノ事ヲ、論著セル諸家ノ中、或ハ、諸情ヲ、願望ト、恐懼ト、愛情ト、憎恨ト  
等ノ如ク、交互ニ相對シテ、配置シ、以テ此區別ノ本則ト、ナセルアリ、又或  
ハ、之ヲ人身上、社交上等トシテ、彙類セルアリ、又他ノ著者ハ、時ヲ主トシ、  
過去、現在、未來トシテ、類集セルアリ、又或著者ハ、本能上、理性上トシテ、分  
類セルアリ、然ルニ、吾人心性上ノ此部分ニ就キテ、論述スルニ、至リシ諸  
家ハ、專又、然ラストイヘトモ、大率、之ヲ以テ、尋倫學、即道德上ノ事ヲ、目的  
トシテ、論セルコト多キカ故ニ、此ノ如キ目的ニハ、上ニ舉ケタル如キ區

別ト、順序トヲ以テ、尤モ適當ナリトシテ、取ラレタルコト、凡ヘテ特ニ、性  
理學上ノ事ヲ、本旨トセルニ、非ルナリ

希臘ノ諸  
學派ヲ論  
ス

希臘人中ニテ、伯拉多派ノ諸人ハ、諸情ヲ、恐懼、好欲、喜悅、憂愁ノ四首情中  
ニ、含蓄ストナセリ、即、失望、厭忌ハ、憂愁中ニ含ミ、願望、勇敢、憤怒ハ、好欲中  
ニ包含セルカ如シ

凡ヘテ希臘ニテハ、外物ニ攪挑セラレ、情ヲ動かカスハ、此心ノ受動ノ狀ナ  
ルヲ以テ、一般ニ情欲ヲ名ケテ、パドスト云ヘリ、其意ハ、苦ヲ被ムルト、云  
フコトニテ、此語ヨリ、英語ノパスホス憤、又パスヘナツク激等ノ語ハ、來  
リ、又此語ヨリ、拉丁ノパッシオ煩及、パチオルム惱ト云フ語出テ、而シテ、  
英語ノパスシウン情、欲ト云フ語ハ、來レルナリ、士德衣加派ニテハ、特ニ總  
ヘテノ諸情ヲ徵シテ、パダイ疾病トシ、以テ、此心ノ、紛亂ト視タリキ

豪多黎ノ  
區別

豪多黎ノ著者中ニテ、豪多黎ハ、感性ヲ、二大類ニ分チ、喜悅ト、不喜悅トシ、喜  
悅中ニ、愛情、好欲、願望、歡樂、愉快ノ追懷ヲ括シ、不喜悅ノ中ニ、上ノ諸情ノ  
反對タル、憎惡、厭忌、恐懼、憂愁、不愉ノ追想ヲ、包ネタリ

本源分派

英吉利ニテ、或他ノ著家、瓜側、克樓丕ノ如キハ、諸情ヲ窮メ、畢竟、驚、愛、惡、ノ



ノ別ヲ論 三本源ヨリ枝別シタル者トシ此三ツヲ第一元ノ情欲トシ餘ハ皆其分

哥顏ノ區別

哥顏ハ其情欲論ト云ヘル極メテ有益ナル書中ニ感性ヲ分チテ情欲情、情款ノ三ツトシ此第一語ヲ以テ此心ノ或衝動スル源因ヨリ受ケタル、初頭ノ印象ヲ徵シ第二語ヲ以テ第一ノ印象ニ繼ケル一層永キ感動ヲ徵セリ是顔色ト容貌動作トノ上ニ露洩シテ外ヨリ觀ルヘキ徵標アル者ナリ而シテ情款ト云フ語ニテハ其目的タル物體ヨリ此心ニ響動シタル緩弛ナレハ一層永續スル者ヲ指セリ又情欲ト情款トチ此著家ハ尙區別シテ自愛ヨリ發スル者ト倫交ノ理ヨリ生スル者トノ二ツトセリ

學士來德ノ彙類

學士來德ハ名ヲ創シテ情ヲ能動ノ本元トシ之ヲ三種ニ分チ機關上肉體上理性上トナシ第一種ニ本能并ニ慣習ヲ括シ第二種ニ吾人ノ肉欲、第三種ニ吾人作用ノ一層高邁ナル本源ヲ位置シタリ

士低瓦的ノ區別

獨格拉士低瓦的ハ本能上即天賦ノ本元ト理性上即管束ノ本元トノ二種トナシ天賦ノ中ニ肉欲好欲及情款ヲ包括セシメ管束ノ中ニ自愛及、道德上ノ能力ヲ列シタリ又好欲ヲ肉欲ヨリ區別シテ好欲ハ肉欲ノ如ク形體ヨリ生スル者ニ非ス又時期ヲ定メテ一定ノ間歇アリテ發シ其目的ヲ達スルニ及ヒテハ止息スル如キニ非ストセリ又情款ノ各目中ニ凡ヘテ人情上其目的トシテ他人ニ對シ或ハ善意ヲ示シ或ハ惡意ヲ示ス所ノ諸本元ヲ包括セシメタリ

丕羅昂ノ區別

學士丕羅昂ハ情ト云フ總名ヲ命シタル感性ヲ分チ時間ト其發作トノ關係ヲ主トシ直接反顧期望ト立テタリ而シテ直接ノ中ニハ道德上ノ感動ヲササル者ハ愉快幽鬱驚動及其對美妙ノ感動及其對高妙ノ感動、笑樂ノ感動ヲ類集シ又道德上ノ感動ニテハ德ト不德トチ差別スル情、愛惡ノ情動感ノ情驕傲恭謙ノ情ヲ布列シタリ而シテ反顧ノ中ニ憤怒、感恩、悔恨、得意ヲ含メ期望ノ中ニ凡ヘテ吾人ノ好欲恐怕ヲ包ネタリ

阿威ノ區別

博士阿威ハ感性ヲ二大部ニ分チ天然ト道德トナシ天然ノ中ニ情ト欲トチ含マシメ道德ノ中ニ德義ノ情操ト獨知トチ包チ而シテ欲ノ種類中ニ本能肉欲偏癖情款ヲ括シタリ

喜確ノ區

學士喜確ハ感性ヲ肉性理性精神ト云フ三ノ受性中ニ類別シ肉性中ニ、



別

本能、肉欲、天然ノ情款、私利ノ感動、不利ノ感動ヲ、擧列シ、理性ノ中ニ、美妙、學術、辯論、敬神ノ感動ヲ、挿入シ、最後ノ精神受性ハ、此二者ヨリ、異ナリテ、此二ノ如ク、其性分ニハ非ス、寧ろ、其人ノ氣質品性ヨリ、生スル者トセリ、此彙別ノ種々ナル撰範ヲ、講究シテ、辨析チナスハ、此書ノ疆界ニテ、禁スル所亦此書ノ旨趣ノ要スル所ニモ、非ルナリ、然レド、唯之ヲ正言セハ、此分類ノ方法、諸種アリト雖モ、一モ全ク、決洽セリト、謂フ可ラス、是皆、嚴ニ學術上ノ態度ニ、合セスシテ、譬ヘハ、哥顏ノ方法ノ如キ、吾人ノ感性ヲ、擧リ、推窮レテ、自愛ト、社交ノ性トノ、二大本ニ出テ、タリトシ、一ハ、我カ自己ノ福祉ヲ、願フノ欲トシ、一ハ、他人ノ景況品性ニ、渉ル者トシ、而シテ、此第二ノ者ヲ、分解シテ、愛惡ト云フ、二ノ元首タル情款ニ、歸セリ、是此著家ノ説トスル所ナレド、其區別ノ專擅ナルカ故ニ、辨駁ニ、屬スヘキハ、一目ニシテ、亮然タリ、是寧ろ、性理トシテ、論スルヨリモ、藝倫學ニ、屬ス可シ、今ソレ、單純ナル情ハ、本來此二大本ノ何レヘモ、歸ス可ラサル者多ク、且又、一ニハ、情ト欲トノ、性理上ノ別異ハ、此類別中ニ、全ク脱却セルナリ、總テ上ニ、擧ケタル方法ハ、其他ノ諸種モ、實ニ、此同一論

以上ノ諸區別ヲ論ス

ニ、當ルナリ  
士低瓦的氏ノ分類ニ於テ、其論駁スヘキハ、自愛ノ元ト、并ニ又、道義ノ能力トハ、両ナカラ、實ニ吾人ノ性中ニ、賦與セラレタル者ナルコト、他ノ性分本能上ノ者ニ、異ナルナシ、然ルニ、士氏ハ、道義ノ能力ヲ、他ノ情ノ天賦、即、本能ト、稱スル者ヨリ、區別シテ、之ヲ、理性ノ元トシテ、類列セリ、且又、肉欲ハ、唯欲ノ一種、其一異狀ナリ、而シテ、自愛モ、唯其一異狀ニテ、吾人自己ノ福祉ヲ、欲スル者ナルニ、併セテ、之ヲ、混合セリ、阿威氏ノ區別ハ、同一理ニ據テ、尙一層論駁ニ、供スヘキ者ナリ、其感性ヲ分チテ、二大類トシ、天然ト、道德トノ情操トナセリト雖モ、是事實ニ於テモ、又名義ニ於テモ、差別アルコトニ非ス、其道德ノ情操ト、稱セル者モ、亦吾人ノ性分上ニ本ツキテ、眞實ニ、天然タルコトヲ失ハス、亦猶吾人ノ欲ト、情款トノ如シ、又天然ト云フ語ハ、本來道德ト云フ語ト、相對シテ、差別アリテ、相反スル意ヲ、徴スルニ非ス、士氏ノ用キタル本能ト、理性トノ若キハ、辨駁ス可ラスト、云フニハ、非レド、果シテ、此ノ如キ差別ノ、存スルアラハ、其見解ノ區別ヲ、尤モ能ク精密ニ、名狀シタル者ト、謂フ可シ

士低瓦的ノ區別ヲ論ス

ニ、當ルナリ  
士低瓦的氏ノ分類ニ於テ、其論駁スヘキハ、自愛ノ元ト、并ニ又、道義ノ能力トハ、両ナカラ、實ニ吾人ノ性中ニ、賦與セラレタル者ナルコト、他ノ性分本能上ノ者ニ、異ナルナシ、然ルニ、士氏ハ、道義ノ能力ヲ、他ノ情ノ天賦、即、本能ト、稱スル者ヨリ、區別シテ、之ヲ、理性ノ元トシテ、類列セリ、且又、肉欲ハ、唯欲ノ一種、其一異狀ナリ、而シテ、自愛モ、唯其一異狀ニテ、吾人自己ノ福祉ヲ、欲スル者ナルニ、併セテ、之ヲ、混合セリ、阿威氏ノ區別ハ、同一理ニ據テ、尙一層論駁ニ、供スヘキ者ナリ、其感性ヲ分チテ、二大類トシ、天然ト、道德トノ情操トナセリト雖モ、是事實ニ於テモ、又名義ニ於テモ、差別アルコトニ非ス、其道德ノ情操ト、稱セル者モ、亦吾人ノ性分上ニ本ツキテ、眞實ニ、天然タルコトヲ失ハス、亦猶吾人ノ欲ト、情款トノ如シ、又天然ト云フ語ハ、本來道德ト云フ語ト、相對シテ、差別アリテ、相反スル意ヲ、徴スルニ非ス、士氏ノ用キタル本能ト、理性トノ若キハ、辨駁ス可ラスト、云フニハ、非レド、果シテ、此ノ如キ差別ノ、存スルアラハ、其見解ノ區別ヲ、尤モ能ク精密ニ、名狀シタル者ト、謂フ可シ

阿威ノ區別ヲ論ス

ニ、當ルナリ  
士低瓦的氏ノ分類ニ於テ、其論駁スヘキハ、自愛ノ元ト、并ニ又、道義ノ能力トハ、両ナカラ、實ニ吾人ノ性中ニ、賦與セラレタル者ナルコト、他ノ性分本能上ノ者ニ、異ナルナシ、然ルニ、士氏ハ、道義ノ能力ヲ、他ノ情ノ天賦、即、本能ト、稱スル者ヨリ、區別シテ、之ヲ、理性ノ元トシテ、類列セリ、且又、肉欲ハ、唯欲ノ一種、其一異狀ナリ、而シテ、自愛モ、唯其一異狀ニテ、吾人自己ノ福祉ヲ、欲スル者ナルニ、併セテ、之ヲ、混合セリ、阿威氏ノ區別ハ、同一理ニ據テ、尙一層論駁ニ、供スヘキ者ナリ、其感性ヲ分チテ、二大類トシ、天然ト、道德トノ情操トナセリト雖モ、是事實ニ於テモ、又名義ニ於テモ、差別アルコトニ非ス、其道德ノ情操ト、稱セル者モ、亦吾人ノ性分上ニ本ツキテ、眞實ニ、天然タルコトヲ失ハス、亦猶吾人ノ欲ト、情款トノ如シ、又天然ト云フ語ハ、本來道德ト云フ語ト、相對シテ、差別アリテ、相反スル意ヲ、徴スルニ非ス、士氏ノ用キタル本能ト、理性トノ若キハ、辨駁ス可ラスト、云フニハ、非レド、果シテ、此ノ如キ差別ノ、存スルアラハ、其見解ノ區別ヲ、尤モ能ク精密ニ、名狀シタル者ト、謂フ可シ



辨倫學ト、  
性理學ト、  
講究ノ異  
ナルヲ論  
ス

ソレ、書ヲ著ハスニ、其本旨ハ、道德辨倫ノ科學ニ就キテ、其本理ヲ、辨明スルニ在ル時ハ、自愛ノ元ヲ、他ノ諸情ヨリ、簡拔シテ、各自ニ、之ヲ列スルコト、固ヨリ願フ所ニシテ、カノ社交ノ元、道義ノ情操ノ若キハ、人ノ道德上ノ、品性躬行ニ、一層直説ニ渉ル者ナレハ、總ヘテ、之ト區別スヘシ、然レ、嚴密ニ、性理ヲ論スルニ至リテハ、其正鵠、唯人心ノ現象ヲ取り、之ヲ、其天然ノ次序ニ、排列シテ、以テ、其義ヲ表明スルニ在ルヲ以テ、其分類中ニ、上ノ法則ヲ取ルハ、爲ス可ヲサル事タル、著明ナリ、此ノ時ハ、心ノ諸運用ト、諸情トヲ、視察シテ、之ヲ排列スルニ、致知學上、又道學上ノ差別ニ、涉ラスシテ、唯專、其性理上ノ差別ヲ、類別スヘシ、此ノ如ク、見解ヲ立レハ、道義ノ情操ト雖、是皆感動ノ性アリテ、感性ニ屬シ、絶エテ靈智ノ覺性ニ、屬セ、サレハ、之ヲ單純ナル情ニ、位スヘクシテ、天性ヨリ、他ノ同種類ノ感動ト、異ナルニ非ルナリ、譬ヘハ、吾人過去ノ事ニ就キテ、正シキ行爲ヲ觀テ、心ニ嘉樂ヲ覺エ、又邪ナル行爲ヲ觀テ、心ニ痛苦ヲ覺ユルカ如キ、其嘉樂ト痛苦トノ此心ニ感スレハ、之ヲ他ノ事ニ因リテ、感スル所ノ嘉樂ト痛苦トニ、異ナリトセムヤ、是唯、此感動ヲ、喚起スル目的ノ異ナル耳、是皆其本體

不羅昂ノ  
區別ヲ駁  
ス

ニ就キテハ、同一類ニシテ、其差異アルハ、類ノ同シカラサルニ非ス、種ノ異ナル耳、故ニ、上ノ二者ノ如キハ、喜悅ト憂愁トノ、同一類ノ元ヨリ、物ニ因リテ、變化ノ加ハリタルニテ、其相異ナルモ、情ノ、欲ヨリ異ナリ、又憂惡ノ、情款ヨリ異ナル如ク、差異アルニ非ルナリ

學士不羅昂ノ彙類法ハ、辨倫學ニ渉レルニ非レ、均シク、性理學ニ渉レルニモ非ス、諸種ノ情ノ、時ト相關スルハ、偶然ノ事ニ出テ、本體ヨリシテ、差アルニ非ス、且ソレ、其直接ノ情ト名ツクル者ト、少シモ時ノ意思ヲ含ムコトヲ、要セスシテ、生スル者トノ若キ、感性ノ部分ヲ擴メテ、全ク之ニ、配當スヘキ差異ニモ、非レハ、是虛粧タルニ、過キサルナリ

第一部 單純ナル情緒ヲ論ス

第一篇 本能上ノ情緒ヲ論ス

端緒ノ分  
解ヲ論ス

感性ニ就キテ、做シタル分解ニ、之ヲ三大別ノ種類、即情緒、情款、欲ニ、排列シタルハ、讀者正ニ記得スヘキ所ナリ、而シテ、此三者、相通シテ、有スル所ノ性ハ、是皆、之ヲ提醒スル目的ヲ視テ、善トシ、惡トスルニ準シテ、此心ノ狀、自愉快ト、不快トヲ、覺ユルコトナリ



單純ナル  
情緒ノ性  
ヲ論ス

三者ノ中ニテ第一ニ論スヘキ單純ナル情緒ハ感動ノ一大部ヲ包括セ  
ル名ニテ其中ニ諸種ノ變態ト度ノ強弱トアリト雖モ約マル處、人生ノ  
喜悅ト憂愁トヲ成ス者ナリ故ニ諸種ノ單純ナル情緒ハ其意義ヲ稍廣  
ク取ル時ハ喜悅ト憂愁トノ二概名中ニ包括スヘクシテ皆此總概セル  
一元ノ變態即人間ノ行事間ニ一元ノ盈虛消長スル者ノミ是皆一事一  
物ヲ善視シ惡視スル時ニ興發スル者ニテ且其事物ハ現在ニ之ヲ有シ、  
現在ニ之ヲ享ケ或ハ現在ニ之ニ苦ム上ニアリ此ノ如ク現在ニ在ルヲ  
以テ欲ヨリハ異ナリトス欲ハ恒ニ一ノ善視シテ未有スルヲ得サル物  
ノ上ニ在リ又現在ニ有セスモ之ニ達スルヲ得ヘシトシテ視タル伴象  
ニテ善視スル物ニ在ルナリ

情緒ノ區  
別ヲ論ス

此單純ナル情緒ノ中ニテ其一部ハ更ニ又本能上ト名ツテ得ヘシ是肉  
體ノ性ニ屬スル者ニテ殆ト大概ハ人獸共ニ之ヲ通シカノ理性ヲ含有  
シ若クハ理性ヲ以テ預之ガ地ヲ爲シ且省察力ヲ兼テタル他ノ一層高  
キ部類ヨリ之ヲ差別スルナリ  
依ニ此篇ニテ論スル所ハ此情緒中ノ第一種ナリ

第一章 愉快并ニ其反對タル悵鬱ト名クル心意上ノ一般  
ノ形狀

此感動ノ  
性ヲ論ス

人皆時々己カ意識ニ供スル心ノ一形狀アリ是何ニテモ直ニ之ヲ喚起  
スル源由アルニ非レモ精神概シテ活潑愉快ニシテ一定ノ限際アリテ、  
個別ノ情ト稱スルニハ至ラサレモ心裏隱々爽快ノ流通アリテ此靈魂  
ニ滿チ總ヘテ其諸溝洫ヲ通シテ流動スルカ如ク見ユルコトアリ是此  
所ニ就キテハ直ニ喜悅ト謂フ可ラスシテ喜悅ニ供スルノ質ナリ譬ヘ  
ハ之ヲ指シテ天ニ中スル太陽ノ見ルヘキカ如シトスルニ非スシテカ  
ノ蒼穹ニ洋溢セル光輝ノ和煦ニシテ上下ニ普徹シ其清明ナル活氣美  
氛ノ中ニ萬物ノ浴スルノ如キナリトスヘシ之ヲ永久歡喜ノ一種ト謂  
ヘルハ能ク名狀シタル者ナリ

此情生涯  
各自ノ時  
限ニ在テ  
旺スルヲ  
論ス

天稟ノ幸福ナル人アリ此等ノ人ニハ此情常ニ旺スルコト、見エ何事  
ニテモ爽快歡喜ノ色アリ又一ニハ是ト至ク相反スル人アリ凡ヘテ夙  
歲ニ在リテハ人皆其精神ノ喜悅ヲ常トシ他時ヨリモ一層旺スル者ナ  
レモ晩暮ニ至ルニ從ヒ此ノ如キヲ見ルハ一層稀ナリ是齡長クシテ以



テ血液ヲ寒冷ナラシムルニ由ルモ、或ハ人世ノ行路難ニ因リテ、此胸懷  
 チ屈シ、夙歲鵬飛鷹揚ノ志ヲ、矯メタルニ由ルモ、歲月既ニ逝クニ方リテ  
 ハ、吾人尋常此ノ如キ心腸ノ、恩波ヲ被ムルコト、少シトス、此時ニ方リテ  
 ハ、既ニ己ニ心ニ旺スル體格、此愉快ニ非ス、此事ヲ、或人能巧ニ形容セル  
 語アリ、曰ク、吾徒ハ、幸福ハ、何カ故ニ、幸福ナルト云フコトヲ、知ルニ非レ  
 ハ、幸福ニ非ルナリ、吾徒、今猶歡喜ヲ受ルコトヲ得、且大ナル歡喜ニシテ、  
 我カ少時思慮ナクシテ、歡喜シタリシヨリモ、一層大ナル歡喜ヲ享ルコ  
 トヲ得ルモ、吾徒ノ歡喜ハ、諸切要事件ノ、相通シテ、協同セル一源ヨリ、來  
 ラサレハ、之ヲ歡喜トセサルヲ、如何セムヤ、然リト雖ヒ、老耄ノ極期ニ至  
 ルマテ、猶時々、此殆ト本能ニ屬シタル幸福ハ、稍閃光ヲ發シテ、猶他年ニ、  
 見ルカ如キコトアリ、其不意ニ發出スル、燦爛タル光輝ハ、時トシテ、冬夜  
 陰雲裏ニ、發スルコトアリト雖ヒ、吾徒、之ヲ發スル景況ハ、絶エテ知ルコ  
 ト能ハサルナリト

相反セル 上ニ擧ケタル心ノ此狀ト、相通シテ、全ク相反セル品性ノ一アリ、是常ニ、  
 感動ヲ論 悲惨ニ屬セル心腸ニテ、尋常鬱悒ト名クル者ナリ、其反對タル爽快ノ如

ク是亦一定體ノ情タルヨリモ、寧、心ノ體格ノ如ク、何ニテモ、吾人、之ニ歸  
 スヘキ、較著一定ノ源由ナクシテ、存スルコト屢ナリ、隱然タル憂患アリ、  
 若クハ、酷シキ苦楚ニ歷セラル、事、忽經過シタリト雖ヒ、心ニ猶冷淡肅  
 殺ノ光景存シ、カノ日蝕ノ數分、若クハ、皆既ノ時ノ如キ形狀ヲ、此ノ如ク  
 名狀スルナリ、人多ク、其心ノ狀常ニ此ノ如クニシテ、時ヲ歷、或ハ、生涯ノ  
 大半ニモ、涉ルコトアリ、非常ナル才智アリテ、感性殊ニ穎敏ナル人モ、此  
 ノ如ク、精神常ニ沈壓ノ極ヲ受ケテ、光明ナル目的上ニ、暗黒ノ影ヲ覆ヒ、  
 其生ヲ以テ、重任トスルニ、至ルコト、稀ナル事ニ非ス、其尋常、暗淡失意ノ  
 如キ狀ハ、常ニ疾病ノ症ニ屬シ、體中一部ノ錯亂ヨリ、生スル者トシ、時ト  
 シテハ、延キテ、此心ノ一定永久ノ錯亂ニ、至ラシムルコトアリテ、狂癡ノ  
 尤憐ムヘキ症ニ至リ、快復ノ望ナキニ、至ル者アリ、此ノ如キコト、鬱悒ナ  
 ル人ニアリト雖モ、然レモ、多クハ、柔和ニシテ、愛スヘキ侯哀ノ若キ人ニ、  
 在リトス、  
 侯哀ハ英吉利ノ詩人  
 怯退ヲ以テ名アル者  
 茲ニ、余カ記述スル心ノ形狀、其一層和平ナル者ニ於テハ、所謂詩才ト名  
 シル者ノ、元行トナルコト、稀ナル事ニ非ス、是即、人生ノ艱險攻撃ノ際ニ

詩家ノ感  
 性ノ元行



遭遇シ、悲惨ナル經驗ヨリ生シ、又苦楚憂患ノ世界ヲ憐ミ、仁愛同憐ノ大  
 悲心ヨリ、生スル鬱悒ニシテ、カノ風琴ノ悲悽ノ聲ノ如ク、其風調ノ音樂  
 ニ、幽邃閑雅ノ趣ヲ寓スルナリ、此ノ如キ者ハ、天尼孫ノ風調ニ多ク、又美  
 爾師ノ詩篇中、深愛アル如キ者、此類多ク、又殊ニハ、約翰、科斯多ノ精神音  
 調モ、此類ニシテ、科氏ハ、本來散文家ナリト雖モ、詩才中ニ就キテ、眞實高  
 貴ノ種類中ノ一人ト、推スニ足レリ、凡ヘテ活潑敏捷ナル感性ハ、自然眞  
 才ト伴生シテ、離ル可ラサル者ナルニ、又能此和平ナル鬱悒ト、相伴フコ  
 ト屢ナリ、カノ眞ニ大ナル靈魂ハ、自天地ト相通シ、永遠ノ眞理ト、相通ス  
 ル者ニシテ、亦此深沈ナレト、和煦ナル悲悽ノ情アルハ、怪ムニ足ラス、是  
 美爾頓カ、イル、パンセロソニ於テ、妙句ヲ吐ケル所ニシテ、之ヲ左ノ如ク  
 ニ、喚起セリ

穆彼、天女 維聖維神 如愁如愛 鬱陶厥顔  
 深思沈默 敬虔貞純 淡定靡亂 端嚴靡倫  
 深紫厥衣 拈後如雲 斯伯魯苧 緘愛製巾  
 容分繞頰 悽分垂肩 嗟爾態姿 慣習洵安

步趨齊々 儀容淵々 仰天而立 欲有所言  
 眼睛入定 維是爾魂

諧謔ト並 立ス可ラ サル者ニ 非ルヲ論ス  
 余ガ擧ケタル性質ハ、之ト直ニ、其性ノ相反シタル感動ノ、時々旺スルコ  
 トアリ、或ハ、屢、旺スルコトアレト、之ト並立ス可カラサル者ニハ、非ス、是宜  
 シク、知ルヘキ事ナリ、悲悽ニ偏シタル情、笑謔ニ偏シタル情ノ、殆ト同一  
 ニ旺スル者ト、相伴フコトアルハ、稀ナル事ニハ、非ス、其感性、活潑ニシテ、

何事ニ依ラス、人生悲悽冷肅ノ感慨ヲ、生セシムルニ、足ル者ヲ、痛ク此靈  
 魂ニ、感セシムル性質ハ、又兼テ世間品性ノ、稍當然ヨリ奇ナル事、微瑕ア  
 ル事、痴呆ニ屬スル事ヲ、疾ク發見スル性質アリ、此等ニ就テ、カノ鈍根ハ、  
 一モ、諧謔戲笑ノ種ヲ、見出シ得サルナリ、且ツレ、此心ノ、自然ノ偏向ハ、猶  
 張ラサル弓ノ如ク、感動ノ一端末ヨリ、相反セル一端末ニ、反張シテ、悲悽  
 ヨリ、輕譎ニ轉シテ、滅痛ノ道ヲ求ムル者ナリ、是ヲ以テ、カノ悲愛ノ深キ  
 侯裏ニ於テ、吾人約翰師拈後詩本ノ名ニシテ、ヲ謠フヲ聞キ、靜夜思ノ作者ハ、  
 快活ナル談夫ト、語ルヲ見ルナリ

第二章 朋友ノ死ニ於ケル憂悶



鬱悒ヨリ  
異ナルヲ  
論ス

上ニ述ヘタル心ノ概狀ハ、之ヲ種別ノ情ト、名ケ難キ者タレド、此外ニ喜  
悅ト憂愁トノ、一種別格ノ形狀アリテ、吾徒ノ注意ヲ要スルナリ、此中ノ  
尤ナル者ハ、何ニテモ、不意ニ、大ナル失亡、若クハ災害ヲ受ケタル時、感ス  
ル憂悶ニシテ、譬ヘハ、朋友ノ死ノ如シ、是實ニ、余カ述ヘタル鬱悒ト密接  
シタル心狀ナレド、是ト異ナルハ、此情ニハ、一層較著ニテ、直接ナル源由  
存シ、且一層定著、一層強烈ナルナリ、其心、一時激動ヲ受ケ、猶不意ニ毆撃  
ヲ受ケタル如ク、此心力、全ク挫折スルカ如ク、見ユレド、一時ヲ經過スレ  
ハ、其激動強壓モ、稍緩ナルニ至リ、初頭慘怛ノ苦楚モ、消盡スレハ、又他ノ  
源由ノ運行始マリ、我カ注意ヲ要スル者モ、他ノ場、他ノ事物ニ、移ルナ  
リ、此ノ如クナレハ、最初ニ、強壓破ル可ラサルノ憂悶モ、漸次ニ、此稍安慰  
ニテ、一層永久ノ形狀ニ變ス、此形狀、正ニ是、余カ前ニ述ヘタル鬱悒ト、云  
フ者ナリ

或苦楚ニ  
因テ初頭  
ニ受ケタ  
ル激動心

其失亡、過大ナル者ニ係リ、殊ニ又突然發出スル時ハ、(然ルニ如何ニ甚シ  
キ亡失ニテモ、久シク其兆ヲ知リテ、預メ恐ル、コトアレハ、最後ニ、不意  
ニ、是カ爲ニ、捕捉セラレ、コトナシ)此心、初頭ハ、迷惑驚愕ノ狀ニ陥リ之

上ニ起ス  
憂悶ノ効  
力ヲ論ス

チ償フノ道ナケレハ、此痛苦ヲ免ル、ノ望ヲ失フニ至ル、是ニ次キ、心上  
ニ、慘怛ノ形狀發シ、其感性ノ活潑ナル度ト、又從來愛眷ノ強弱トニ準シ、  
多少激烈ナル者ナリ、多般此ノ如キ憂悶ハ、自ラ管束ス可ラスシテ、其救  
解ヲ哭泣、若クハ、他ノ是ヨリ一層激烈ナル慘怛ノ表徵ニ、取ルナリ、其表  
徵、歴世ヲ通シ、人ノ困難ニ遭ヒ、其憂苦ヲ徵スル爲ニ、慣習トナリタル者  
ハ、衣服ノ皸裂、心胸ノ拊搦、毛髮ノ抓扯等ニテ、此他、猶失望極リタル、憂悶  
ノ徵候アルヘシ、此ノ如キ時ニ當テハ、此心ノ狀、自ラ受動トナリ、情ノ激  
烈ニ付シ、蕩然タル奔流ニ、一掃セラレ、其兩岸ヲモ、嚙ミ去ラル、ニ至ル  
ナリ、是乃羅西埃拉カ佛朗西有、其兒ノ爲ニ、號泣シテ、慰諭ヲ受ケサル所、  
是乃太閤カ戸ヲ啓キテ室ニ入り、吾カ子ノ押沙龍押沙龍ト、叫ヘル所ナ  
リ、押沙龍ノ事、舊約書ニ見ユ、  
是亦取テ院本ニ作ル者

之ニ次ケ  
ル心ノ狀  
ヲ論ス

其初頭ノ激烈ナル憂悶、既ニ降服シテ、情欲ヲ反省スルニ及ヒテハ、此心、  
其失亡ノ景況ヲ、追思セムトシ、始メテ、其遭遇シタル苦難ノ大ナルト、妄  
ナラサルトテ、曉ルニ至ル、是ニ於テヤ、此心ニ思惟スル所、其亡人ノ貴重  
ト、德行トニ就キテ、其切要タリシト、浹洽ナリシトニ在リテ、總ヘテ其善



ナリシコトヲ表シ、總へテ其過ナリシコトヲ容恕寛假シ、其言語ヲ思ヒ、其聲音ヲ思ヒ、其顔色容貌ヲ思ヒ、其從前ノ履歷ニ於テ、細行末節ヲモ拾集シ、恭敬尊崇シテ、以テ其屍灰ヲ取テ、葬壺ニ藏ムルニ至ル、蓋、神使一日、其神靈ヲ以テ、之ニ印スルニ及ヒテハ、其性質生平ニ被ラシムルニ、カノ神明崇敬ヲ以テスルコト、情ノ至リナリ

深愛ノ沈黙ナルヲ論ス

至深ノ憂慮ニ至リテハ、必至激至顯ナル者ニ非ルハ、蓋、其常ナリ、是常ニ、其初頭、不意ニ起レル憂悶ノ情、既ニ經過シテ、靈魂自退縮シ、其失亡ヲ思量スレド、他人ノ視察ヲ憚カリ、其淚痕ヲ收メ、其仲々タル隱憂ヲ掩ハムトシテ、靜ニ、其衣袖ヲ、離へス時ニ在リテ、此時方ニ、所謂深愛大恨ノ、苦辛ナル精神ヲ、圍繞スルアルナリ、故ニ、至實至深ノ憂ハ、恒ニ沈黙中ニ存シ、他人ノ視察ニ畏縮シ、之ヲ言ハムト欲スレトモ、語ナク、凡へテ願フ所ナシ、猶カノ肅默タル神女ノ、裝衣シテ、其神卓享儀モ晝日ノ光ヲ、厭フカ如シ、蓋、自露發表告ヲ主トスルハ、喜悅ノ象ニシテ、憂愁ノ性ニ至リテハ、其由テ生スル所ノ時ノ、如何ニ拘ハラヌ、退隱スルヲ、主トスルカ故ニ、哭泣スル者ハ、其室ヲ求ルナリ

憂ヲ解クニ時間ノ效驗アルヲ論ス

時ヲ經ルニ從ヒテ、憂悶ノ激烈ヲ、輕減消解スルハ、人皆知ル所ナレド、此效驗ノ、由リテ生スル様法ハ、注意ヲ用非ルニ足レリ、之ヲ解釋スルハ、提起ノ理法ヲ、復考スルニ在リ、吾人意思ノ提起ヲ、律スル理法ノ中、第二、即、主觀ノ理法ニ、事件ノ發起ヨリシテ、經過シタル時ノ間、潤ハ、切要ナル者ナリト云フハ、吾徒固、記スヘキ所ナリ、總へテ近日ニ起リタル事ハ、遠キ時月ノ事件ヨリモ、一層容易ニ此心ニ復歸スルヲ、法トス、故ニ何事ニ依ラス、其患難亡失、起リタル初頭ニ於テハ、事毎ニ、我カ亡失ヲ、追想セシムルニ偏シ、陸續トシテ、之ヲ提起スルヲ以テ、其勢力能效ニ因テ、恒ニ我カ憂悶ヲ、活潑ナラシムル者ナレド、時ノ經過ニ從ヒテ、一物體アリテ、因テ以テ我カ亡失シタル者ヲ提起スルトハ、雖、其物體ハ、又他ノ物體他ノ事件ト、相伴ヒ、來リテ、之ヲ提起スル者ナリ、故ニ、是等猶我ヲシテ、カノ亡失ヲ、追懷セシムルトモ、其追懷中ニハ、其時以來、時日ノ推移シタルニ從ヒ、他ノ場地、他ノ事件ト、混合シ、又其時以來、我カ心ヲ、衝動シタル他ノ感動ト、錯雜ス、是ヲ以テ、時月ノ經過スルニ準シテ、陸續トシテ、我カ憂悶ノ腕中ニ、他ノ藥劑ヲ、混和スルカ如シ、然ルニ、至近ナル者ハ、速カニ、復歸ス



ルノ理法ノ存スルアリテ提起チ促カスカ故ニ以前陸續トシテ我カ亡失チ追想セシメタル其同一理ヲ以テ其亡失ト我トノ中間ニ其時以來、經歷シタル事物ヲ挾雜シテ竟ニ亡失ノ情ヲハ之ヲ推透スルニ至ルナリ此ノ如クニシテ過去ノ意思ハ來ルコト漸ク稀疎ニナリ縱ヒ復歸ストモ他ノ多般ノ伴ヒ來ル物體ト經歷ト相混合スルカ故ニ竟ニ甚シキ憂悶ノ情ヲ起サハルニ至ル而テ漸次ニ他物ノ我ニ切要ナルヲ視他ノ謀慮ト他ノ本分ト我ヲ靡羈シ他ノ情緒我カ心腸ヲ動カシ猶カノ陸續翻來スル波濤ノ同一岸上チ打ツカ如ク其回歸毎ニ前時洪浪ノ印シタル痕跡ヲ淡薄漫然タルニ至ラシムルナリ

故ニ時ハ大イナル慰解者ニシテ吾人心中ニ懸ル憂悶ヲ解キ凡テ我カ意思志望ヲ收理シタル胸裏ノ鬱結久クシテ克服セラレタル悲愁トナリ和氣軟聲以テ昔事ヲ追思スルナリ蓋シ吾人ハ常ニ事件ノ急流中ニ陸續トシテ迅速ニ進動スル者ナリ是ヲ以テ凡ソ事物一時ハ其至近ナルヨリ吾カ行其深陰裏ニ陥リ其巨大ニ畏レテ我カ心全ク之カ爲ニ吞併セラルト雖モ其遠カルニ從ヒ漸クニ減シ漸クニ小ニシテ竟ニ其暗

淡ナル形圖ヲ僅ニ追々タル水平線ノ外ニ見ルニ至ルナリ

第三章 他人ノ幸福愛患ニ就テ生スル同感

何如ナル  
様法ニ因  
テ同感ヲ  
發ルカチ  
論ス

吾人自己ニ親シク善惡ニ經歷シテ喜悅憂愁ノ情自發生スルト密ニ相類似シテ同一ノ境遇ニ於テ他人ノ喜憂ヲ已ニ感スルコトアリ之ヲ同感ト謂フ喜悅ハ傳染スル性アリテ憂悶モ亦此ノ如シ吾人他人ノ情ヲ觀ルコト能ハス只之アルハ稍相通スル情ヲ親驗スルニ在リ然ルニ又其福祉若クハ愛患ヲ自擊シタル證人ニ非レバ不可ナリト謂フ可ラス何事ニテモ其幸福若クハ禍患ノ形狀ヲ稍叙述スレハ此心ヲ攪動シテ同感ノ情絃ニ觸ルヲ覺ユ是吾人自ラ其景況ヲ思想シ自己ヲ觀劇者ト想像シ若クハ儘アリ得ル事ノ如ク或ハ行客ト思ヒ難主ト想ヒ此ノ如キ時ニ臨ミテハ自己ノ情如何ト想像スルヲ以テ我カ知覺ノ勢力活潑ナルト又我カ感動ノ勢力敏捷ナルトニ準シテ我ノ同感其真ノ景況真難主ト相通スルナリ

此理ノ性  
質ヲ論ス

此ノ如ク醒覺シ來レハ同感ハ他人ノ喜悅ト憂愁トニ關スルニ論ナク凡テ單純ナル情緒ニテ其性質情款ト指ス者又欲ト名クル者ト異ニシ



テ、且理性ニ源ヲ取ルヨリモ、本能ニ本ツク者ナリ、故ニ、是吾人ノ性ニ、賦  
 與セラレタル一元ニテ、機會ニ遇フ毎ニ、本能ニ於ケル如ク、勃興發露ス  
 ル衝動ノ事タリ、是ヲ以テ、理性上ノ省察ノ事ニハ、非ルニ近シ、是吾人、禽  
 獸ト相通シテ、有スル所ノ受性ニシテ、禽獸ニハ少シト雖ヒ、稍之アルコ  
 ト、明カニシテ、其同類ノ困難幸福ニ、絶テ感シナキ者ニハ、非ルナリ、是早  
 ク既ニ、幼稚ノ時ニ、發スル受性ニシテ、未ダ省察ノ習ニ染マサル前ニ在  
 リ、且其發スル境遇モ、固有天賦ニハ非スシテ、教育ノ效タリ、或ハ、標法ア  
 リテ、之ヲ學ヒタリト、假定スルニ、由無キナリ、之ヲ以テ、省察ノ效驗トナ  
 スヨリモ、理性ト省察トハ、却テ、此情ヲ克シテ、之ヲ合當ノ限界ニ縛住ス  
 ハキコト屢之レアリ、是ヲ以テ譬ヘハ、他人ノ艱厄ニ就キテ、我ノ同感ア  
 ルハ、我カ必用當行ノ妨碍タル時アリ、又是カ爲ニ我カ本分ヲ、嚴正斷確  
 ニ、執行セムトスルニハ、吾人性中、此本能ノ元ト、相爭フニ至ルヲ以テ、理  
 性上諸般ノ根據ヲ、呼ヒ集メテ、以テ我カ幫助ト、ナサ、ルヲ得サル時ア  
 リ、蓋シ其婦女兒子ノ、過惡ニ陥リシ時、其號泣ヲ聞キ、血涙ヲ視ルニ當テ  
 ハ、此不幸ナル罪犯ニ對シテ、犯法ノ嚴正ナル罰文ヲ、讀マムトシテ、此心

ノ判官、全然躊躇セサルコト能ハサルナリ、カノ懇篤ナル外科醫ノ如キ、  
 一時患者ノ號呼ニ聳タテサルヲ得ス、其苦痛ニ木石タラサルヲ得ス、以  
 テ其手術ノ功ヲ、奏スルニ至ルナリ

此語ノ尋  
 常ノ界限  
 ナ論ス

同感ト云フ語ハ、他人ノ喜悅ニ、我ノ加入スルヨリモ、其困難ニ依テ、提醒、  
 セラレタル情ヲ、徴スル爲ニ用ヰルコト、一層屢ナリ、然レ、吾人ノ性ハ、此  
 ニツノ效驗ノ中、何レモ、向フヘキハ、疑ヲ容レズ、故ニ、其實、同一理ヲ表裏  
 ヨリ觀タル者ナルニ過キス、且此語ノ本義、此ニツノ觀ニ就テ、其一ヨリ、  
 他ノ一ニ、一層強ク屬シ、一層正シク表スト云フハ、本來ニ非ス、吾人、他人  
 ノ悅フヲ視テ、悅フノ容易ナル、猶他人ノ泣クヲ視テ、泣クカ如シ、何レニ  
 シテモ、我ノ感動ハ、同感タリ(希臘語ノシンパテ、オス)

其界限ノ  
 理由

何カ故ニ、他人ノ憂悶ニ、加入スルヲ徴スルコトハ、一層數ナリヤ、其道理  
 ハ、少シク省察スレハ、明カナルコトニテ、蓋シ、天ノ斯民ヲ生スル、其幸福  
 ハ、生體一般ノ理法ニシテ、憂悶ハ、此一般例規ノ、例外タリ、是此施設ノ以  
 テ仁慈ナル所ナリ、故ニ幸福ハ、凡ヘテ呼吸スル萬類ノ上ニ、廣布、饜飲ス  
 ヘキ者ニテ、太陽ノ光、大氣ノ浸、涉ラサル處ナキカ如ク、加旃、生活ナキ物



ト雖也、我カ快愉ナル、同感ノ類ナルヲ以テ、此心ニ、反射シタル所ニテハ、一般喜悅ヲ、共享スルコト、見ユタリ、カノ艱難憂患ノ若キハ、僅々ナリトモ、其形狀ニ、一層限局一定ノ所アリテ、猶天ニ暴風大颶ノ起ルカ如ク、喜悅ニ比スレハ、一層稀ニ來ル者ナリ、故ニ、其起ルヤ、特ニ稀ナル事ニ、屬スルヲ以テ、一層非常ニシテ、人生生平ノ經歷ヨリ、一層攪動スルヲ、覺ユルナリ

憂感ト同感アルノ一層切要ナルヲ論ス

蓋シ、他人憂患アル時ハ、之ニ就キテ、同感ヲ生スルノ機會ハ、其歡喜ニ就キテヨリモ、一層多ク、且深キコト、疑ナシ、是又、此語ヲ、憂患トノ連絡ニ於テ用ヰルコトノ、一層屢ナル所以ノ一ナリ、憂患ニハ、同感アルヲ、須要トシ、歡喜ニハ、須要タリト、謂フニ至ラス、蓋シ憂患ハ、其幫助ヲ、友手助臂ニ、依頼セサルヲ得ヌ、而テ、歡喜ハ、其性タルヤ、全シ憂患ト相反シテ、自己固ヨリ強堅ニシテ、自、支保スルニ足ルヲヤ、是即、此寰宇ノ創造者ノ、睿聖仁愛ナル天祐ニシテ、依テ以テ、吾人ノ性中ニ、此本能上ノ同感ヲ賦與シ、以テ凡百形狀ノ憂患艱難ト、相發シ、加旃、吾人直ニ、其困厄ノ落タル物ト、相接セサルモ、亦然ルナリ

不羅昂ノ表章ヲ論ス

是ニ就テ、學士不羅昂ノ表章セルコト、亦善シトス、曰ク、吾人他人ノ快樂ニ就キテハ、真ニ同感ヲ生ス、然レ、稍少ナシト見ユルハ、何ソヤ、蓋シ、其真ノ同感ハ、生平、常ニ有スル、快活ノ氣象中ニ、消失スルナリ、是快活ノ氣象ヲ有スルハ、善俗ノ一ナレハナリ、故ニ、試ミニ、若高雅ノ道ニ於テハ、社會ノ風トシテ、悲哀ノ形容ヲ、取ルコトヲ欲シ、猶今日、少シニテモ、快暢ノ形容ヲ要シ、少クモ、性質耳ハ、快暢ヲ要スルカ如ナラシメムカ、此ノ如クナラハ、爽快ノ同感ハ、少シニテモ顯ルヘキコト、必然ニシテ、猶今日、憂患ニ就キテノ同感ハ、格別ニ之ヲ覺ユルカ如クナルヘシ、此ノ如クナラハ、喜悅ヲ表スル爲ニ、同感ト云フ概名ヲ以テシテ、其非常ナルヲ示スコト、猶今日、相憐ムノ感動ヲ、表スルニ、格別ニ此語ヲ用ヰルト、同一義タルヘキコト、知ルヘシト、同シ著家ノ說ニ、曰ク歡喜ハ、視テ、社會ノ常服トナスヘシ、故ニ、真ノ喜悅ハ、カノ客聽ニ於テハ、當然合格ノ衣服タルヲ以テ、較著ナルコト少シ、今禮禮ノ單衣ヲ衣テ、盛宴華席ノ客次ニ、列セムカ、衆目、誰カ之ヲ視サル者アラム、若其人ヲシテ、美好ナラシムルモ、驚愕耳語ノ經過スルニ至ルマテ、一次目ヲ舉テ、視ル者ナク、言ヲ吐クトモ、亦聽ク者ナカ



ト雖田、我カ快愉ナル、同感ノ類ナルヲ以テ、此心ニ、反射シタル所ニテハ、一般喜悅ヲ、共享スルコト、見エタリ、カノ艱難憂患ノ若キハ、僅々ナリ、トモ、其形狀ニ、一層限局一定ノ所アリテ、猶天ニ暴風大颶ノ起ルカ如ク、喜悅ニ比スレハ、一層稀ニ來ル者ナリ、故ニ、其起ルヤ、特ニ稀ナル事ニ、屬スルヲ以テ、一層非常ニシテ、人生生平ノ經歷ヨリ、一層撓動スルヲ、覺ユルナリ

憂感ト同感アルノ一層切要タルヲ論ス

蓋シ、他人憂患アル時ハ、之ニ就キテ、同感ヲ生スルノ機會ハ、其歡喜ニ就キテヨリモ、一層多ク、且深キコト、疑ナシ、是又、此語ヲ、憂患トノ連絡ニ於テ用ヰルコトノ、一層屢ナル所以ノ一ナリ、憂患ニハ、同感アルヲ、須要トシ、歡喜ニハ、須要タリト、謂フニ至ラス、蓋シ、憂患ハ、其幫助ヲ、友手助臂ニ、依頼セサルヲ得ヌ、而テ、歡喜ハ、其性タルヤ、全ク憂患ト相反シテ、自己固ヨリ強堅ニシテ、自、支保スルニ足ルヲヤ、是即、此寰宇ノ創造者ノ、容聖仁愛ナル天祐ニシテ、依テ以テ、吾人ノ性中ニ、此本能上ノ同感ヲ賦與シ、以テ凡百形狀ノ憂患艱難ト、相發シ、加旃、吾人直ニ、其困厄ノ落タル物ト、相接セサルモ、亦然ルナリ

不羅昂ノ表章ヲ論ス

是ニ就テ、學士不羅昂ノ表章セルコト、亦善シトス、曰ク、吾人他人ノ快樂ニ就キテハ、真ニ同感ヲ生ス、然レ、稍少ナシト見ユルハ、何ソヤ、蓋シ、其真ノ同感ハ、生平、常ニ有スル、快活ノ氣象中ニ、消失スルナリ、是快活ノ氣象ヲ有スルハ、善俗ノ一ナレハナリ、故ニ、試ミニ、若高雅ノ道ニ於テハ、社會ノ風トシテ、悲哀ノ形容ヲ、取ルコトヲ欲シ、猶今日、少シニテモ、快暢ノ形容ヲ要シ、少クモ、性質耳ハ、快暢ヲ要スルカ如ナラシメムカ、此ノ如クナラハ、爽快ノ同感ハ、少シニテモ顯ルヘキコト、必然ニシテ、猶今日、憂患ニ就キテノ同感ハ、格別ニ之ヲ覺ユルカ如クナルヘシ、此ノ如クナラハ、喜悅ヲ表スル爲ニ、同感ト云フ概名ヲ以テシテ、其非常ナルヲ示スコト、猶今日、相憐ムノ感動ヲ、表スルニ、格別ニ此語ヲ用ヰルト、同一義タルヘキコト、知ルヘシト、同シ、著家ノ說ニ、曰ク、歡喜ハ、視テ、社會ノ常服トナスヘシ、故ニ、真ノ喜悅ハ、カノ容聽ニ於テハ、當然合格ノ衣服タルヲ以テ、較著ナルコト少シ、今、禮禮ノ單衣ヲ衣テ、盛宴華席ノ客次ニ、列セムカ、衆目、誰カ之ヲ視サル者アラム、若其人ヲシテ、美好ナラシムルモ、驚愕耳語ノ經過スルニ至ルマテ、一次目ヲ舉テ、視ル者ナク、言ヲ吐クトモ、亦聽ク者ナカ



ラシム、カノ愛悶ノ社會心腸ノ平服ニ於ケルハ、猶此ノ如シ、故ニ愛悶ノ其眞ノ形容ニ於テハ、吾人未ダ曾テ預、之カ備ヲ爲サ、ル者タリト  
 此上ニ擧ケタル諸説ニ由リテ、道學諸家ノ吾人ノ同感性ニ就キテ殆ト  
 吾人、誰愛  
 患ト同感  
 アリト云  
 フノ非ナ  
 ルヲ論ス

此語ノ差別ヲ論ス

專ラ、愛患ノ部分ニノミ、其意ヲ注セシ、道理ヲ解クニ足リ并ニ又、他人ノ歡喜ヨリモ、其愛悶ヲ分感スルコトヲ、徴スルニ、此語ヲ、殆ト専用スルニ至リタル道理ヲモ、辨スルニ足レリ、故ニ或人ノ爲セル如ク、此景況ヨリシテ、吾人ノ同感ハ、唯愛患ト共ニスト云ヒ、又吾人、他人ノ幸福ニ於テハ、之ト相通スル情ヲ、體驗セスト云ヒ、以テ他ノ見解ヲ、引證スルハ、要ナキ事ナリ、是吾人ノ性ニ合セスシテ眞理ヨリ、遠サカレル見解ト謂フヘシ」  
 同感ト云フ語ハ、平常用非ル所ニテハ、他人ノ困難ト、徒タルコトヲ、徴シテ、猶一種ノ相憐ト云フ語ト同義ナリトシ、又此相憐ハ、更ニ、悲憐、及、慍恤ト云フ二語ト、交互ニ用非ルヘシトス、然ルニ、慣習ニテ、此諸語ノ異同ヲ、辨定シタル所ニテハ、左ノ如クナルヘシ、吾人、其難厄ヲ救フノ、圖略材能アル時ハ、慍恤ノ語ヲ用非ルコト、一層屢ニテ、其事、之ヲ救解セムトストモ、我カ力ニ、能ハサル者ニハ、悲憐相憐ノ語ヲ、用非ルナリ

此感動ノ強弱ヲ論ス

同感ノ情、殊ニ、論題ニテ、一層特別ニ叙述シタル形狀ハ、吾人ノ受ル感動中ニテモ、此心ヲ撓動スルコト、至烈至大中ノ一ニシテ、十分ニ發シタル時ハ、情欲ニモ變スルナリ、依リテ以テ、此情ヲ發スル物體、燃眉ノ急ニ際シ其危急ヲ轉シテ、之カ救解ヲナスニ、若全ク之ヲ爲スニハ、迅速ヲ要シ、瞬間ニ實力ヲ盡サミルヲ、得サルノ時ニ臨ミテハ、其後事ヲ算定スル先慮ナク、思量ノ暇ナク、躊躇スルコトナク、恐懼スルコトナクシテ、其危害ノ、何タルニ論ナク、同感者、自己ヲ忘レ、只管ニ其目的ヲ、遂ケムト欲シ、大海ヲモ、大火ヲモ踏ミ、或ハ猛獸ニモ當リ、又、一層暴酷ナル敵人ヲモ拒キ、刺客ノ臂ヲモ握リ、劍戟ト被害人トノ中間ニモ冒進シテ、生ヲ惜マサルニ至ル此ノ如キ勇猛激烈ナル作用ハ、實ニ同感ノ致ス所ニシテ、却テ其情自己ヨリモ甚シケレハ、此作用ヲ發スル感動ノ、極メテ強キヲ、知ルヘシ」  
 且又表章スルニ足レルハ、上ニ擧ケタル情ノ發スルハ、大率、其受難者ノ德義ノ品性ニ拘ハルコトニ非スト、云フコトナリ、受難者ハ、縱ヒ、人々得テ、無情ニ之ヲ棄置スヘキ人ニシテ、既ニ、刑格頸架ニ、登レル罪人タリトモ、又、其人ノ受ル苦難ハ、其罪ニ對シ、至當ノ刑罰ナリトモ、其心、總ヘテノ



艱苦ニ於テ、情無キコト能ハサルノ人ハ、此不幸ナル罪人ヲ視テ、慙恤ノ情ヲ發セサルヲ得ムヤ、此ノ如キ時ニ當リテハ、其苦難ヲ受ル者、縱ヒ、其尤モ惡ム所ノ仇敵タリトモ、悲憐ノ心ナク、其慘狀ヲ目視シ得ル者ハ、豈亦無情甚シキナラスヤ

此理ノ圖略ヲ論ス

吾徒、今此感動ハ、何ノ爲ニ吾人ノ性中ニ賦與セラレタリヤト、講究スルハ、其最後ノ目的ハ、著明ニシテ、尤モ恩惠ナル施設タリ、是其圖略ハ、二様ニシテ、第一ニハ、是ニ依テ、旺發セル情欲ヲ、克制シテ、以テ不相當ナル苦難ヲ、人ニ被ラシムルヲ、防クコトナリ、若此情微カリセハ、我カ惡ム所ノ者、我カ權内ニ在テ、之ヲ左右スルヲ得ル時、我ヲ促カシテ、合當ナラサル不正ノ罰ヲ、被ラシムルコトニ、至ルヘシ、第二ニハ、受難者ニ、救ヲ假スコトナリ、今若、此情ノ衝動刺激、其強、其急、彼カ如キニ非レハ、受難者、危急ノ中ニ在ル時、之カ救護ヲ假スナ、懈ルニ至ルヘシ  
他人ノ喜愛ヲ、活潑ニ感受スルノ性ヨリ、發スル利用ハ、上ニ云ヘル外ニ、尙偶然ノコトアリ、是哥顏ノ其情欲論中ニ、表章セル所ニテ、以謂ヘラク、此情ハ、能此心ヲシテ、相交ハル人ノ、趣味、風習、性質ニ應シ、容易ニ投合セ

時情ニ投合スルヲ論ス

シムルニ、適スル者ナリ、凡テ同感ノ情、敏疾快便ナル者ハ、容易ニ、感動中ニ移轉シテ、一定ノ景況中ニ於テ、他人ノ行爲ヲ、能曉解シ、之ニ準シテ、能自ラ投合スルコト、極メテ容易ニシテ、本能ニ類セリ、故ニ同感ハ、自己ヲ他人ト、一時ニ同一位置ニ置キ從ヒテ、以テ、能自管束スル者ナリト

同感ハ、其根元ヲ推シテ、自愛ノ理ニ歸ス可ラサルヲ論ス

同感ハ、諸感性中ニテ、私欲ノ諸種混合セル者ヨリ、發スト雖モ、其轉遷、極メテ遠キ所ニ在リト見ユト云フ説アレトモ、究竟遂ニ、自私ノ理ニ討窮シ到ルヘキ者ニ、非スト云フノ問題起レリ、此自私ノ理ヲ、凡百人間行事ノ大源トシ以テ、人ノ心腸ヲ攪動スル諸情モ、之ヲ淵源トシテ、視タル、諸哲家ハ、相憐ノ感動ヲモ、討究シテ、同一源ニ、溯ルヘシトシテ、之ヲ表明セムト、欲シケレトモ、亦抵牾ナキコト、能ハサルナリ、他人ノ艱難ニ際シ、相憐ノ情、探發スルハ、我カ上ニ、同一艱難ノ落ルヲ、想像スルニテ、即、其文中ニ、之ヲ名ツケタル如ク、此假想虛設ノ致ス所ナリト、是霍畢寺ノ考定ナリ、又亞當斯美梭ノ固守セルハ、以謂ヘラク、是吾人自己ノ體驗ヨリ、生スル者ニテ、一ハ、他人ノ艱難ノ觀念ヲ、我ニテ作ルコト、一ハ、此ノ如キ觀念ヲ作ルノ、様法ハ、自己モ、其受難者ト、同一ノ景況ニ處セリト、假定シテ、此ノ如



キ時ハ、我ハ如何ニ撓動セラルヘキヤト、理會スルニ由ルナリト、總ヘテ此兩說共ニ眞ナリト、謂フヘク、吾人、他人ノ艱難ニ遭フノ觀念ヲ得ルノ道ハ、此ノ如キコト、疑ナシ、然レモ、他人ノ艱難スル觀念ハ、其觀念ニシテ、其艱難ニ就キテ、同感ノ存スルハ、又別ニ一事タリ、故ニ、其一ハ、理會ナリトシ、他ノ一ハ、理會ノ提醒シタル感動ナリトス、且ソレ、士低瓦的氏ノ此考定ノ辨拆ニ、能之ヲ說破セル如ク、此ノ時ニ於テ、我カ同感ハ、其瞬間ニ、其艱難ヲ眞ニ自己ニ屬セリト、理會シ且信スルヨリ、生ストハ、謂フ可テサルナリ、我カ自己ノ艱苦ハ、其眞ナルモ、若クハ、想像ナルモ、之ヲ觀察シテ、生スル感動ハ、相憐愍恤ノ感動ヨリハ、其品性、全ク別種ナル感動ナリ、此二感動ハ、容易ニ區別スヘシ、吾人、他人ノ艱難ヲ、見テ感スル、單純ナル危懼心ト、自然ニ、此危懼心ヲ除カハト、思フ欲トハ、愍恤中ノ、元首タル原行ニ、非ス、若之ヲシテ果シテ、其原行ダラシメハ、則其危苦ヲ起ス艱苦ヨリ、避ケ道レ、同シクハ、速ニ、其艱苦ヲ見サル、思ハサルノ地ニ、處ルコト、之ヲ脱スルノ、確實簡易ノ道タルヘシ、故ニ、カノ同感ノ情ナル者、果シテ其心ヲ促カシテ、此ノ如キ事ニ、從ハシメハ、之ヲ名ツケテ、私欲ヨリスト、謂

フチ得ヘシ、然ルニ、同感ノ眞面目ハ、此ノ如キ者ニ非スシテ、唯他人ノ艱難ヲ、見テ生スル、單純不快ノ感覺タルノミニ非ス、縱ヒ、此感覺ハ、感シ易キ心ニ生シ、同感ト名ル情ヲ伴ヒ、若クハ同感ノ一分ヲナスト、謂フヘキモ、是ノミニテハ、同感ト謂ヒ、難クシテ、同感ノ情ハ、又其危懼スル感動ノ上ニ、尙其愛患艱難ト、徒タルノ情アリ、即其艱難ヲ、彼ノ艱難トシテ、我カ自己ノ艱難トセス、其痛苦ハ、彼ノ爲ニ痛苦ナリトシテ、我ノ痛苦トセス、此ノ如キ趣向ニ、在ルカ故ニ、其衝動ニ由リテ、激烈ニ促カサレタル效驗ハ、其強勁、歴ス可ラスシテ、我ヲ、其危懼ヨリ、脱セムトスル欲ニハ、非スシテ、此艱難ヲ、起セル者ヨリ、其受難者ヲ、救ハムトスルノ欲ト、變スルナリ

此考定ノ  
 衍義ヲ論  
 スル者トセムカ、カノ勃多列爾カ、能說破セシ如ク、尤モ恐懼シ易キ性質ハ、尤モ憐愍深キ人タルヘキニ、此ノ如キ例ハ、稀ナルヲ、何如セム、又之ニ加ヘテ、謂フヘキハ、若同感ハ、何レノ目的ニモ、私欲ノ元タリトセハ、尋常ヨリ、極メテ十分ニ、私欲ノ意見ニテ管束セラレタル人ハ、同一理ニテ、他人ノ艱難ニ、甚活潑ナルヘキニ、是此二語ノ相反スルヨリモ、其實相反セルハ、何ソヤ



第二篇 道理上ノ情緒ヲ論ス

第一章 自己優劣ノ觀ヨリ發スル歡喜悲哀ノ情緒

此情ノ性質并ニ目的ヲ論ス

吾人ノ性中ニ賦與セラレ、其各自自然ノ力ニ因リテ發顯シ而シテ、其運  
 行中ニ省察力ノ運用ヲ兼テ、且一般ニ一層高キ靈智上諸能力ノ發用ヲ、  
 含ミタルヲ以テ、本能上ノ情ヨリ、之ヲ區別スルカ爲ニ、理性上トシテ、名  
 狀シタル感受性中コテハ、快樂痛苦ノ活潑ナル感動、吾人自己ヲ顧ミテ、  
 眞假ノ優劣ヲ觀シタル時、生スル者ヲ推シテ、第一等ノ地位ニ置クナリ、  
 此論題ナル情ノ直ナル目的ハ、或形容ヲ有スル自己ナリ、故ニ、此情ノ直  
 接ナル原因ハ、吾人、或ハ眞實ニ、或ハ虛想ニテ、自己ニ有セリト視タル勝  
 レタルコト、シ、又其裏ニテ、或ハ眞實ニ、或ハ虛想ニテ、有セリト視タル、  
 缺ケタルコトナリ、此優勝ト、缺劣トハ、或ハ我カ靈智ニ屬シテ、賢愚ト云  
 ヒ、或ハ我カ徳性ニ屬シテ、善惡ト云ヒ、或ハ我カ學識ニ屬シテ、高卑ト云  
 ヒ、加旃、今日我カ境遇ノ窮達生計ノ貧富ニモ屬シ、又一事一物ニモ、難易  
 美惡等トシテ、屬スル者ニテ、約シテ言ハ、何ニテモ、總ヘテ我カ物トシ  
 テ、之ヲ我カ同類ノ物ヨリ、區別スル上ニ在ルナリ、然ルニ、觀察シタル其

形質ハ、眞實ニ、之ヲ有シ、之ニ違スルコトアリ、又唯我カ想像ト、虛想トノ  
 中ニ存スルコトアリ、又其缺劣ナリト視ルモ、同シク眞實ト想像トアリ、  
 然レモ、何レニテモ、之ヲ觀スレハ、心ニ活潑ナル感動ヲ提起スル者ニテ、  
 何ニテモ、願フヘキ形質ヲ、自己ニ有セリト觀、若シハ、其形質、自己ニ缺ケ  
 タリト、觀スル時ハ、何レニテモ、悅樂トカ、慘苦トカノ情ヲ、興サ、ルコト  
 能ハスシテ、殊ニ、高度ニ昇ルヲ常トス

其提發セラル、様法ハ何如ナルカチ論ス

此情緒ハ、上ニ云ヘル、兩道ノ中、其一ツニ、出ル者ニテ、唯自己ノミニテ、觀  
 タル時ニ、其假定セル優劣、我ニ屬セリト察スレハ、即發シ、又自己ト、他人  
 トヲ比較シテ、觀テ、此目的ニ就キテ、彼此ニ優劣アリト、察スレハ、即發ス  
 ルコト、一層屢ナリ、此後ノ事例ニ於テ、他人ニ自己ノ優レタルコト、若シ  
 ハ劣リタルコトヲ知リテ、發セル情ニ、カノ尋常用キル驕傲ト謙卑トノ  
 二語ノ當レル所アリ、然ルニ、此二語ハ、互ニ關係セル者ニテ、必稍比較ノ

運用ヲ經テ、定マルナリ、又此情上ノ如キ關係ヨリハ、見スシテ、他人ト我  
 トニ、關スル關係ハ、觀察ノ目的ヲササル時ニモ、或ル缺劣ノ思念ヨリ、痛苦  
 ノ意識アルヲ覺ユ、又或高貴ノ點ニ達シタル念慮ヨリ、快樂ノ意識アル



是德義ノ  
情ト同一  
ナラサル  
ヲ論ス

チ覺ユルコトアリ、此時ハ其比較スル所自己ト他人トニ在ラスシテ、唯自己ニ就キテ、現在ノ我ト、過去ノ我トチ比較スルナリ、故ニ吾人ハ、我カ自己ノ進歩ト、改良トニ於テハ、心ニ慊リシテ悦樂スト雖也、屢、失錯アリシト、其缺劣ノ表白セルトニ於テハ、卑屈シテ、俯伏スルコト至ルナリ

此論題ナル情緒ハ、德行ノ綽然タルヲ察シテ、心ニ慊キト、又我カ過去ノ躬行、德義ニ戻レリトシテ、視タル悔恨不愉ト、之ヲ混同ス可ラス、茲ニ述ル所ノ情緒ハ、德義ノ情ノ性質ニハ非ス、然レ也、或目的ニテハ、之ト親密ニ相近キ者ナリ、然レ也、此情緒ヲ起ス者ハ、我カ獨知チ善ニシ、若クハ、之ヲ罪スルノ詰命ニハ非ス、又何モ、正不正ヲ指スコトニ非ズ、故ニ其目的ハ、義務ト本分トノ意ニテ、視ルニ非ス、唯徒ニ愉快ニシテ、願フヘキノ事ヲ善シトシテ、視タルノミ、此ノ如ク、見做ス時ハ、之ヲ有スレハ、快樂ヲ覺ユ、是亡ケレハ、痛苦ヲ覺ユルノミ

是ノミニ  
テ譏ルヘ

右ノ如ク、提醒セラレタル情緒我カ自己ノ靈智若クハ、德性ノ高キニ達シタルヲ視、又加旃、外部ノ境遇ニテモ、優レルヲ視テ、依リテ以テ、慊足快

キニ非ル  
ヲ論ス

樂トナルハ、人タル道ニ、識ルヘキ事ニ非ス、又人タルニ足ラスト、謂フ可ラス、是唯、此性ノ作用タル耳ニテ、此ノ如キ情ヲ、感受スルハ、人ノ賦與セラレタル天性ナリ、學士丕羅昂ノ能指目セル如ク、素ヨリ優勝ナルヲ欲シテ、之ヲ得タル時ニ、喜ハサルハ、爲ス可ラサルノ事ニ屬ス、若吾人、以前ヨリ、一層良貴ニナリシ時、之ヲ得テ快樂ナリト思フヲ、罪スヘシトセハ、是即、此ノ如キ良貴ヲ願フハ、固ヨリ罪スヘキ事タル可ケレハナリ

何如ナル  
時ハ此情  
緒ノ罪ス  
ヘキヤヲ  
論ス

其罪スヘキハ、唯此情ノ存スル、度ニ超エテ、貴重スルニ足ラサル事物ヲ、貴重スル時、又依テ以テ、自己ニ喜悅スル所、唯假想ニ出テ、眞ニ存スルニ非ル時、又縱ヒ、其存スルハ、實ナリト雖也、之カ爲ニ、自己ヲ、他人ノ上ニ置カムト、欲シ或ハ、他ノ缺劣ナルカ爲ニ、之ヲ卑視スル時、加旃、是ニ依テ、我ト人トノ間ニ、幾何ノ差異アリヤト、之ヲ待遇容貌ニ依テ、人ニ知ラシメムト、欲スル時ニ在リトス、故ニ、此感動ノ罪ス可ク憎ム可キハ、唯此ノ如キ形狀ニ、變シタル所ニ在レ也、然ルニ此ノ如ク變スルコトハ、又稀ナル事ニハ非ズ、是即尋常說話ニ用ル語ニテ、通シテ驕傲ノ字ニテ、徵スル所ノ、此心ノ形狀ニテ、尋常此語ニテ、徵シ、以テ此形狀ニ、譴責ヲ加フ



ルハ、當然ノ正理ニテ、即茲ニ述ヘタル性質情操ニ、當ル者ナリト、知ルヘク、カノ我自己ニ或ハ、眞實ニ或ハ、虛想ニテ志ノ達シタルヲ視テ、愉悅スル情緒ヲ指スニハ、非ルナリ、故ニ、吾人驕慢倨傲ナル人ヲ、罪斥スル所以ノ者ハ、其人ノ他人ニ、優ル所ニ非ス、又其勝ルコトヲ、其人自ラ知ルト、云フ所以ニ非ス、又其自ラ知ルヲ以テ、之快シト思フト云フノ所以ニ非ス、唯其人、自ラ他人トノ優劣ヲ比較シ、其勝レタルヲ知レ、之カ爲ニ、其當然ヨリモ、自、地歩ヲ占ルコト、一層高キ習氣アリ、又當然ヨリモ、一層卑ク他人ヲ睥睨シ、殊ニハ、又此優勝ナル意ヲ含ミテ、他人ヲ壓倒凌轢セムト、欲スル上ニ在ルナリ

此性質ノ變スル諸種ノ形狀ヲ論ス

此優勝ヲ挾ム人ニ、諸種アリ、己ノ勝リタルヲ輝カシテ、人ノ餽賞ニ依リテ、尊大ニスルヲ好ム、痴癖アル者アリ、是乃、虛驕ノ人ナリ、其實僅ニ貴重スヘキ事ヲモ、之ヲ誇大ニシ、實ニ有セサル物ニ就キテ、自、務ル者アリ、是乃、誇張ノ人ナリ、人ヲ蔑視シテ、其下輩ニ遇スル殊ニ、傲然タル者アリ、是即、倨傲ノ人ナリ、又其人、自己ノ得意ヲ、此ノ如ク、鳴サムト欲シ、極メテ誇大ニ過ル者アリ、又自ラ尊大ニスルニ過キ、風格ヲ儼莊ニシテ、矜リテ以テ、諷刺ヲ悅ブ者アリ、又、自己、眞個ノ價直ヨリモ、己ヲ待ツコト、甚ク高ク、殊ニ、其意ヲ表示スル者アリ、又他人ヲ待ツニ倨傲ニシテ、大ニ其風采ヲ、炫耀スル者アリ、然ルニ、此等ノ事例ニテハ、其人、自己ノ意見ヲ、高シトシ、其接遇スル諸人ヨリ、敬貴ヲ受ケ、且自、心ニ、其勝レルヲ知ルヲ樂ミトシ、之ヲ以テ、自、驕足スル者ナリ、是乃、單言スル所ノ驕傲ノ人ニシテ、虛驕、誇張、倨傲ニハ、非ス、然ルニ、其差異ハ、其人、自己ヲ視ルコト、甚高カラス、他人トノ比較ニテ、之ヲ卑視スル、甚シカラスト云フニ、非スシテ、唯其思フ所ヲ、十分ニ露發セサルニ在リ、其優勝ナルハ、素ヨリ、知ル所ナレ、之ヲ表發スルコト、彼カ如ク、直白ナラサルナリ

此性質ヲ此ノ如ク露發スルハ、貶斥スヘキヲ論ス

上ニ擧ケタル表候ノ中ニ、何ニテモ、此心ノ性質形狀ノ存スルハ、請責ニ屬ス可シト雖、尋常ニ指目スルカ如キニハ、至ラサルナリ、然レ、亦、此、驕傲、徒ニ憎ム可ク、厭フヘキ耳ニ非ス、時トシテハ、道義上ニ、貶斥ス可キコトアリ、是殊ニハ、心術道德ノ天稟學識ニ、於テスル優劣ニ關セスシテ、偶然ナル境遇、譬ヘハ、身體ノ美醜、強弱、社會ノ地位、貧富、若クハ、門地ノ高下等ニ於テスル優劣ニ關シテ、驕傲ナル者はナリ、此境遇ハ、之ヲ有スル者



モ、必然ナル寶貨ニ非ス、其睥睨スル人ニ勝レルモ、眞實天資ノ者タルニ非ス、故ニ此ノ如キ事例ニテハ、其驕傲、純然笑フヘキ者タルノミ、  
 其頂好至善ニ協ハサルヲ論ス  
 我、現在ノ善美ニ達シタルヲ以テ、自ラ高ク居リ、他人ト比較シテ、其上ニ位スル性質ハ、至高ノ善美ト、恆ニ相和セサル者ナリ、吾人自己ノ改良ニ就キテ、疑フ可ラサル明證ヲ、視ル時ハ、我カ心ニ於テ、快樂ノ情生スルハ、實ナリ、然レモ、至高ナル性質ハ、此時、自己ノ學識ヲ証スルモ、未曾テ、自己ニ限レリトシテ、之ヲ視ルコトナク、又自己ノ優勝ヲ証スルモ、他人ハ、己カ下ニ在リトシテ、之ヲ視ルコトナクシテ、唯其懇誠ノ瞻望ハ、己カ上ニ在ル、勝リタル所ニ、注視セリ、是未達シ得サル善美、恆ニ我カ前ニ、泛然トシテ、瞻仰ニ供スル理想ナリ、故ニ、之ト比較シテハ、凡百現在ノ進達ハ、泰山蟻垤ニ過キス、是ヲ以テ、眞ニ高大ナル心ハ、恆ニ恭謙ニシテ、自己ノ不足ヲ知ル者ナリ

第二章 笑樂ノ享樂

吾人ノ天然資質ヨリ、出テタル理性上享樂ノ、諸源中ニ笑樂ノ知覺ニテ、提發スル感動ヲ、加算セサルヲ得ス、吾徒、之ヲ情ノ中ニ彙類スルハ、是亦

論ス

感動ノ事ニシテ、又快樂ノ感動タレハナリ、而シテ、一方ニ就キテハ、情欲又欲ヨリ、異ナルカ如ク、一方ニ就キテハ、亦其性、靈智上ノ能力ト、異ナリトス、是感動ノ快樂ナル興發ニ屬シ、歡喜快樂ノ種類ニテ、一種別ノ事物ヨリ、挑發セラル、者ナリ、此問題ナル感動ニ、何ニテモ、他ノ形狀ノ、屬スルコトアルモ、愉快ノ品性ハ、是ヨリ離ル可ラサル者ナリ、故ニ、此情ハ、本來感動ノ中ニテモ、喜悅憂愁ノ諸種ノ變體ヲ包テ、余カ情緒ト、名ツケタル類中ニ、入ルヘキナリ

何故ニ、理性上ニ屬スルカヲ論ス  
 吾徒、此情ヲ、不能上ト、名シルヨリモ、理性上ト名ツクルハ、余カ取ル所、誤謬微リセハ、此中ニ、一層高キ靈智上ノ能力ノ運用ヲ、含メハナリ、是理性ノ特權ニ屬シテ、禽獸ニハ、笑樂ノ知覺ナク、從ヒテ亦、笑樂ノ享樂ナシ、痴人ハ、此樂ミナシ、又教育ナキ夷狄ハ、僅ニ之アリトモ、甚タ少シ、此所ニ就キテ、觀レハ、論題ナル感動ハ、全ク高妙高妙ノ享樂并ニ又、我カ躬行ノ善不善ヲ知リ、人ノ行爲ノ正邪ヲ觀テ、興起スル感動ニ、類例ナリ、故ニ、此情總ヘテ、吾人ノ天性資稟ニ、本ツクト雖ヒ、本能ヨリモ、重ク理性ニ涉リ、

カワ人ヲ、一層特別ニ、他ノ下等ナル性體ト區別スル能力ノ運用ヲ、含ミ



何ノ法カ、笑樂ノ情ヲ精密ニ定ムルハ、他ノ情ニ精緻ナル定義ヲ立ツルト同シク、以テ定義ヲ立ツヘキ

其問題ヲ解ス○祿可并ニ徳來典ノ見解

然ラハ則、笑樂ノ感動ハ、何如ナル境遇ニ於テ、提發セラル、ヤ、吾人、笑樂ト名シル者ヲ、成ス所以ノ者ハ、客觀ニ就キテ視テ、一定ノ物體種類中ニテ、其寄特ナル形質ハ、何物ナリヤ、此問題ニ就キテハ、諸家、心裏ノ現象ヲ、縝密ニ觀察スルニ、慣手タル人ニ在リテ、諸種ノ答辨ヲナセリ、祿可氏、之カ爲ニ、諧謔ノ定義ヲ立テ、曰ク、是は何ニテモ、物ヲ見テ、相符シタリト、爲シ、得可キ觀念ヲ取り、敏捷參差ヲ極メテ、之ヲ排列シ、依リテ以テ、想像上ニ、愉快ナル形狀ヲ現ハシ、快活ナル看テ、生セシムル者ナリト、此定義ハ、人能正シク、看破スルカ如ク、其包含、廣キニ過キタリト、謂フ可シ、何トナレハ、說術詩學ノ全脈ハ、此中ニ、存スレハナリ、此中ニハ、高妙ヲモ、美妙

約翰孫ノ定義ヲ論

又波爾哥、并ニ維丕斯多ノ、雄辯ヲ極メタル段落ニモ、當リ、又極樂失亡ノ、精巧ヲ極メタル段落ニモ、當ル可シ、而テ、德來典ノ定義ハ、猶其包含、一層廣シトシ、其言ニ以謂ヘラク、諧謔ハ、意思ト言語ト、共ニ當然ニ、出ルコトナリ、即、其題ニ應シ、能辯說セル意思ト、言語トヲ、言フナリト、此定義ハ、人能ク諧謔ヲ以テ、之ヲ評シ得ル如ク、不雷爾ノ訓言モ、金伯拉ノ冀望快樂モ、該撒ノ註文モ、西塞魯ノ攻撃體モ、慕消埃ノ祭文モ、其特ニ合當ナル文體ナルハ、此中ニ入ルヘキナリ、然ルニ、其實ハ、德來典モ、祿可モ、此諧謔ト云フ語ノ、用法ニ於テ、今日吾人カ、此語ニテ、理會スル意トハ、異ナリシコトヲ、知ルヘシ、今時ノ意味ハ、諧謔戲笑ヲ挑ム勢力ヲ、徴スレトモ、當時ノ用ニテ、一層廣キ義ニ、此語ヲ用ニタリト見エ、前時ハ、殆ト專、靈知ノ勢力善良ノ意思、剛正ノ辨決、敏捷ノ曉悟等ノ、痛快精神アリテ、一層種別ニ、文章敘述ノ中ニ、顯ハレタル形質ヲ、徴スル爲ニ、用ニシナリ

約翰孫カ諧謔ノ定義ハ、頗ル標柱ニ近キ者ナリ、曰ク、是異體同致ノ類ニテ、乃チ相似サル照影ノ結合、顯然同シカラサル事物ノ、暗然相似タルヲ、發



見スルナリト、又金伯拉カ、其文科哲學中ニ示セル諧謔ノ定義モ是ヨリ取テサリシ者ナラハ、是ヲ距ル、遠カラサル者ト謂フ可シ、曰ク、其現在シテ、相關スル照影ノ、怪シク相似タルニヨリテ、心裏ニ、快活ナル驚愕ヲ喚起スル者ナリト、此定義ニモ、亦以前ノ辨駁ノ、當ル所アリテ、包含廣キニ過キ、此中ニハ、美妙モ、高妙モ、又笑謔ヲモ含ミ、雄辯ト諧才トヲ兼テダリ、**霍畢寺ハ、笑ノ定義ヲ立テ、唯其此心ニ關スル所ノミニテハ、笑謔ノ感動ノ表出スル源トシテ、曰ク我ト、他人、若クハ、我自己ノ前時ト、比較シテ、彼稍弱ク、我稍優ルコトヲ、不意ニ理會スルヨリ、生スル卒然ノ誇心ナリト、余謂ヘテ、笑ヲ生スル目的ハ、必稍劣ル意味アリテ、我カ心ニ現ル者ナリ、故ニ、此所ニ就キテノミハ、此定義ニテ、笑謔ニ少ク可ラサル元行テ、含蓄シタルコト、固ヨリ疑ヲ容レズ、笑フ者ハ、其一時ハ、少クハ、笑ハレタル人ト、物トニ於テ、已カ評商ニ就キテハ、必優リタリト視ル、故ニ、其笑ハル、者ハ、稍粗漏ニ屬スル者、稍錯誤ニ屬スル者、其身體、心意、若クハ風姿ノ稍異常ナル者、稍愚魯ニシテ、儼莊自重ノ缺ケタル者、又勇氣、若クハ、威儀ノ稍缺タル者、其人ノ眞ノ品性位置ト、登時ノ景況トノ間ニ、稍相符合**

此考定ヲ  
駁ス

然ルニ、笑樂、若クハ、嬉笑ニ供スルノ偏尙ハ、徒ニ、我自己ノ優リタルト、觀察セル者ノ劣リタルトヲ、覺ユルヨリ生スト、謂フハ、眞ナラスト、是上ニ舉タル事例ニモ、當ラサルコトアリ、若果シテ然ラムカ、吾人、何レノ處ト、何レノ時トニ、拘ハラズ、此ノ如ク優リタルコトヲ、發見セハ、笑謔ノ感動ヲ、生スヘキコトニ屬シ、又其優勝、愈、大ナレハ、笑ヲ發スルノ偏尙モ、愈、強カルヘキ理ナルニ、此ノ如キ事例アル、稀ナルハ、何シヤ、吾人ハ、此目的ニ於テハ、如何ニ、我カ自己ノ境遇、他人ニ比シテ優リタリト、他人ノ不幸ヲ、笑フノ意尙ナシ、余カ地位ハ、隣人ニ比シテ、高貴タルヲ得余カ健康ハ、彼ニ勝ルヲ得ルモ、之カ爲ニ、彼ヲ笑フノ意尙ナシ、霍氏ノ考定ニテハ、カノ倨傲、自滿、凌轢ノ癖アル人、自己ノ優勝ヲ恃ミ、一般ニ、人ト物トヲ視テ、特ニ甚シク、挾ミテ以テ、之ヲ蔑如スル者ニ、非ルヨリハ、人、未嘗テ、十分ニ笑フ可ラス乃、縱ヒ絶倒ニ堪ヘズトモ、之ヲ堪ヘサル可ラサルナリ、是其事實ニ於テハ、正ニ相顛倒スル者ナリ、蓋シ此ノ如キ人ハ、笑フコト、甚稀ニシテ、若笑フコトアレハ、カノ矜誇傲然ノ性質ヨリ、瞬時顔上ニ、冷笑ヲ



催スノミ、是カノ清潔ナル心腸ノ粲然タルトハ、相距ル宵雲泥ノミナラ  
ムヤ、是世ニ能ク名狀セルカ如ク、是亦所謂笑晒ノ莞爾顔ヲ解クノ比ニ非  
スシテ、寧ロ甲削斯ノ冷笑ノ如キカ

安也、好戲、樂、終日事、舞蹈、

甲也、不好戲、又不知音調、

生平吝笑、語、笑、則耀其傲、

冷笑、疑其嘲、大噱、訝其誚、

嗟此無情子、何事能堪笑、

詩句中、安ハ、安敦ヲ指シ、甲ハ、甲削斯ヲ指ス

此ノ如クナレハ、吾人笑樂ヲ解シテ、唯其目的タル物、若クハ、人、我ヨリ稍  
劣レルヲ、覺ユルニ由ルト、謂フヲ、得ス、何トナレハ、今劣レル者ニハ、其類、  
極メテ多シト雖ヒ、少シト其中嬉笑ノ意ヲ、提起セサル者アリ、而シテ同  
時ニ又、其優リタルヲ、自知シテ、極メテ之ヲ以テ、自ラ喜フノ人ト雖ヒ、常  
ニ必ス、顔ヲ解クニ、偏倚セサレハナリ

不恰好ハ、今ソレ、笑樂諧謔ノ、本體ノ、品性ハ、何物ノ中ニ在リヤ、又何物カ、能其根源

本體ノ元、ヲ發生スヘシトシテ、視ルヘキヤト問ハ、吾人正ニ之ヲ次ニ發見スヘ  
行タルヲ、シ即チ、觀念、若クハ、事物ノ往來不恰好ナル者ヲ、忽然不意ノ機會ニ乘シ  
テ、排列湊合スルコトナリ、此ノ如ク、其物體ノ、不恰好ナルニ、連接セシメ、  
之ヲ發見スルノ機會、新奇不意ニ出テ、依リテ以テ、感シテ驚動スルハ、余

カ見ル所ニテハ、笑謔ノ觀念ニ、本體ノ眞元行タルナリ、余謂フ、吾人、此情  
ヲ起ス所ノ、諸種目的ヲ、綿密ニ查確スレハ、必ス不恰好ノ物アリテ、其觀  
念タルト、事物タルトニ拘ハラヌ、現ハレタル機會ノ、非常不意ナルコト  
ヲ、發見スヘシ、是乃其效驗ハ、偶然ノ事タリ、幽莽ノ事タリ、魯鈍ノ事タリ、  
或ハ、故ニ計策ノ事タル所以ニシテ、其事タル、様法ノ何如、因由ノ如何タ  
ルニ拘ハラヌ、此約束タニ齊ヘハ、何時ニテモ、笑謔ノ意味ヲ、提覺スルナ  
リ

笑謔ニ驚動ノ關係ヲ論ス

驚動ハ、笑謔ニ伴結ノ本體タリ、是即、此心ノ一形狀ニテ、吾人、依リテ以テ、  
新鮮奇怪ナルノ事ノ起ルニヨリ、尋常ノ位置ヨリ、輕挑セラル故ニ、不意  
ナルナリ、何ニテモ、不恰好ナル者ハ、均シク、尋常ニ濶カレリ、故ニ、自然不  
意ナラサルヲ、得スシテ、依テ以テ、多少驚駭ノ、此心ヲ打ツヲ、覺ユルナリ、



諧謔ニ關  
スル新奇  
ヲ論ス

然則吾人驚ク者ハ、悉ク諧謔タルニ非ス、譬へハ、我カ坐ニ近キ窓戶、不意ニ落チ、或ハ我ヨリ數歩内ニ、銃ヲ不意ニ打發スレハ、驚動シテ、跳躍スルニ至ルヘシ、然レハ、恐ラクハ、別ニ笑フニ堪ヘサルコト、莫カルヘシ、又吾人朋友ノ死ヲ聞キ、若クハ、不意ノ災害アリテ、多人ノ死亡等アリト、聽カハ、驚愕スヘシト雖也、此ノ如キ驚動ニ、何モ笑フヘキ事、莫カルヘシ、故ニ其驚動ハ、一種ノ驚動ニテ、唯不恰好ヲ知覺シテ、生シタル驚動トシ、何ニテモ、新奇ナル物ニ遇ヒ、一般ニ感スル、驚動ニハ、非ス、唯嬉笑ニ關スル驚動ナレハ、之ヲ以テ、此論題ナル情ノ、元行トナスヨリモ、寧ロ伴結ノ元行トスヘシ、新奇ト、不意トハ、幾何カ、諧謔ニ、加功スルアリ、是人皆知ル所ナリ、故ニ、何如ニ諧謔ナル傳奇ナリ也、既ニ一度聽キタル者ハ、其新鮮滋味ヲ失ヒ、數、反復スルニ及ヒテハ、徒ニ喜フ可ラサルノミナラス、煩悶ヲ發シ、竟ニ堪フ可ラサルニ至ル、是ト同シク、同一理由ニテ、預メ計畫シテ、作りタルコトノ、知レタル諧謔ハ、同一事タルモ、不意敏捷ニ忽然ノ機ニ投シタルト、相比シテ、效驗ヲ生スルニ、稍劣レル者ナリ、人其房裏ニ就キテ、或事ノ奇功ナル關係結合ヲ、工夫シ得タルモ、其關係ハ、機會ノ要スルニ會シテ、脚

下ニ、之ヲ理會スルニ至リシコトノ、一層驚クヘキニ、若カサルナリ、故ニ吾人、通常尤能諧謔ナル著作、若クハ、戯謔的ノ言句ニ、冠ラシムル形容語モ、亦同一理ヲ、徴スルニ足リテ、或ハ活潑ト云ヒ、或ハ新鮮ト云ヒ、或ハ爛熳ト云ヒ、或ハ活爽趣味十分ナリト云フ、此等ノ語ハ、恐ラクハ、純精ノ酒ヲ賞スルヨリ、假リタル者ナルヘシ、蓋、醇酒ハ、大氣ニ觸ル可ラスシテ、一次氣ニ觸ルレハ、其芳香清冽ヲ、失フ故ナリ

不恰好モ  
亦常ニ笑  
謔ニ供サ  
ルヲ論ス

然ルカ故ニ、余カ試ニ立テタル分解法ニ於テハ、其論ノ歸スル所、交互ニ、關係中ニ、現ハシタル觀念、若クハ、物體ノ、不恰好ナルハ、笑謔ノ不易ナル元行ニシテ、實ニ、其本體ノ品性ヲ成シ、而シテ、此ノ如ク表ハシタル結合、新奇不意ナル時ハ、我カ感スル驚動一層深クシテ、甚其效驗ヲ強クスルコト、常ナリト、云フニ在リ、然ルニ、尙之ニ就キテ、指目スヘキハ、其不恰好ト、不意サヘモ、若其觀察シタル物體若クハ、事件ノ性質、尙他ノ一層重キ情ヲ、生スヘキ者ナル時ハ、笑樂ノ意味ヲ、提醒セスト云フニ在リ、若其事變ノ性、何如ニ新奇ニシテ、實ニ驚愕ニ堪ヘ、加旃笑フヘキニ堪ヘタル事ニテモ、生命ヲ危ウシ、若クハ痛ク吾人、又ハ、他人ノ安寧ヲ、害スヘキ者ナ



眞理ノ發  
明ハ笑諺  
ニ同シカ  
ラサルヲ  
論ス

ル時ハ一ハ則チ恐懼ヲ發シ一ハ則チ慙恤ヲ發シ、兩情一次ニ提醒セラレテ、凡ヘテ笑諺ノ意味ハ、斷然止息スルナリ、蓋シ情欲ノ大重ナル者ハ、其小輕ナル者ト、相容レサル者ニシテ、之チ此心ヨリ、驅逐スルヲ常トス、吾人一倨傲ノ人、其衣服ヲ整ヘ、其瞻視ヲ尊クシ、威儀堂々トシテ、濶歩高踏シ、忽然其脚ヲ失シテ、唇ヲ溝中ニ投シ、四肢仰指スルヲ視ハ、我カ初頭ノ衝動ハ、笑ヲ發スルニ在ルコト、疑ナシ、是他ナシ、其現在ノ形狀ノ不恰好ナルト、其人體ノ美麗ヲ、盡シタル外形ト、其風習ノ尊大ナルト、強ク我カ笑諺ノ情味ヲ、挑發スレハナリ、然レモ、爾時、其落ルニ際シ、其脚ヲ折り、若クハ然ラサルモ、痛ク其體ヲ毀傷シタリト知ラハ、我カ笑ハ、直チニ、相憐ノ情ニ、其位ヲ讓ルベシ

是ト同一理ニテ、何ニテモ、科學ニ於テ、切要ナル新理ノ發明ハ、如何ニ奇怪ニシテ、不意ニ出ルモ、絶ヘテ、笑諺ノ感動ヲ、起スコト無シ、其切要ナルハ、我カ意思感動ヲ、一層高キ圓内ニ、昇ホス者ナリ、爽波列爾ノ行星運行ノ理法ノ若キ、初頭ハ、稀世ノ奇異ナル表章ヲラサルヲ得ス、木炭ト金剛玉ト、化學上ノ同一ハ、伴象ニテ、至異不合當ナル物ニシテ、之チ發見セル

ハ、新奇ト謂ハサル可ラス、然レ、此ノ如キ發明ヲナシテ、之チ表章セシ者ハ、星學家ニテモ、化學家ニテモ、時人之ヲ視テ、稀世ノ笑諺ニ供スル事ヲナシタリト、謂フ者無キコト、斷然アリ、故ニ、此ノ如キ事例ニ當テハ、吾人、其效用ノ切要ナルヲ視テ、此ノ如ク相關セル觀念、物體ニ於テハ、如何ニ不恰好ニテ、如何ニ奇怪ナルモ、一層重キ情ノ現ルハ、ニ由リ、笑諺ノ情ハ、此心ヲ、衝動スルコト無シ

笑樂ノ情  
ノ諸形狀  
ヲ論ス

不恰好ナル事ノ、嬉笑ノ感動ヲ、提醒スルハ、諸種多般ノ形狀アル者ニテ、或ハ物體ニ係ハリ、或ハ觀念ニ係ハルナリ、孰レニテモ、其不恰好ナル元行ヲ、排列湊合スルコト、或ハ、偶然ニ出ルコトアリ、或ハ、故意ニ出ルコトアリ、偶然ナル時ハ、之チ錯誤トシ、故意ナル時ハ、則シ諧謔ノ名ヲ取ルナリ、不恰好ナル事ニ就キテ、偶然ニ出テタルハ、余既ニ前ニ假設セシ時ニ於テ、盛服自重ノ貴人、不意ニ、泥中ニ陥リタル例ノ如シ、若自重ノ貴人ナラズシテ、之チシテ、大道ノ遊冶公子、花々郎ヲシメ、其服粧ヲシテ、新鮮美麗ヲシメハ、其不恰好モ、一層大ニシテ、吾人ノ笑モ、一層甚シカルヘシ、若當場ノ少年ヲシテ、索士比耳ノ痴狂ノ詩ノ若クナラシメムカ、則シ其笑

不恰好ナル  
物體ノ  
偶然ナル  
排列ト故  
意ナル排  
列トヲ論



フヘキ、ハタ幾何ソヤ是此詩家ノ其人ヲ賤シシテ、戦後ニ軍使ニ來リシ

形容ヲ述ヘタル者ナリ

劔ツルキヲ杖ツツニ。松蔭マツカゲノ。巖撐イハカサヘテ。吐息トキツク。時哉オトシ見ユル。若武者ワカムシヤハ。

是ニハ抑軍ソコイグサノ。使ツカヒカヤ。見ミレハ衣イロモノ。美麗ウツクシサ。新郎ムコトトカモ。訝アヤマ

タル。其鬢ソノカサ鬚ヒゲノ。新剃ニヒソリハ。秋田アキタヲ刈カレル。刈稻カグイノ。齊ソボヘル様サマニ。

サモ似ニタリ。近ツチカシ儘マニ。馨ニホフ香カハ。ソモ時款貨舖カウグヤノ。娘ムスメカモ。

指ササニ挾カサメル。香盒カウゴノ。何爲ナニモトナリヤ。時々トキトキニ。鼻ハナニ翳カサシテ。嗅カククメ

ルハ。

此ノ如キ品性ノ人其光華ヲ極メタルニ、今泥中ニ蹣跚タリト、想像セヨ

一場ノ哄堂、其鄭重事件ヲ侮弄スルニ至ルヘシ、其平素笑フコト、稀ナル

者モ、豈笑ハサルヲ得ムヤ

又不恰好ナル物體ヲ、故意ニ笑チ起ス爲ニ、排列シタル時ハ、其諧謔ハ、他

人ノ害ニナル者ニテ、此ノ如キ時ハ、戯弄ノ行カ、又ハ、一場ノ打譚トナリ、

他人ノ奇怪不恰好ヲ、傲擬スルコト常ナリ、又其戯謔スル人、己カ損ニテ、

自己ノ諧才ヲ弄シテ、觀者ノ娛樂ノ爲ニ、野父鈍漢ヲ、粉粧スル者アリ

不恰好ナ  
ル觀念ノ  
偶然ノ排  
列ヲ論ス

若新ニ且不意ニ、關係ヲ結ハシメタル不恰好物體ニ於テセシテ、觀念

ニ於テシ、而テ此事亦、偶然鹵莽ニ出テタル時ハ、故意計畫ノ事ニ、非ルチ

以テ、吾人、失錯又誤言ト名ル者是ナリ、此ノ如キ事例ニハ、必ス其思フ事

ト言ヒシ辭、若クハ、作セル事トノ間ニ有ル、可ラサルノ事ヲ含メリ、伴象

ニテハ、恰好ノ事ト見ユレヒ、其關係ヲ結フ觀念、實ハ、不恰好ナリ、此事例

ハ、士德尼斯美梭ノ叙セル奇聞中ニ見ユ、一醫人アリ、嘗テ英吉利ノ一貴

人ニ逢ヒシニ、其人ハ、位尊ク家祿亦盛ナレヒ、不幸ニシテ、子無カリシニ、

談話ノ末、言此ニ及ヒケレハ、其醫人ハ、深ク其子無キノ不幸ナルヲ歎シ、

依テ以テ、謂ラク、是固ヨリ、不幸ナリト雖ヒ、或ル族姓ニ在リテハ、祖先ヨリ、

代々子ナキ血統アリト、吾人、阿爾蘭風ト名クル諧語ハ、大率、此類ニテ、計

畫ヨリモ、寧ロ偶然ニ屬シ、錯誤誤言タルヲ免カレズ、近年阿爾蘭ノ民亂

ノ時、激怒セル亂民、或時、其忿怒ヲ有名ナル、一銀行ニ洩セルコトアリキ、

此時、嚴然決定シテ、凡ヘテ其亂民ノ手ニ在ル銀行票ハ、悉ク之ヲ燒棄セ

ムト、言ヘリ、是其怒ニ乘シテ、此策ノ、唯各自ニ、多少ノ損失ヲナシテ、却テ

多少銀行ヲ富マシムルヲ、忘レタリ、又馬漢氏ノ示セル事例モ亦殆ト此



類ナリ、三人ノ阿爾蘭人アリ、共ニ森林中ヲ過ク、其前行スル者、徑路ヲ涉ル時、一樹枝ヲ把リ、之ヲ持スルコト、少間アリテ、卒然手ヲ離チ、反張セシメ、依テ以テ、其跟行スル一人ノ足ヲ拂ヒ、其人仆レテ地ニ俯スニ至レリ、然ルニ、其人徐シニ起キ謝シテ曰ク、君カ保持ノ久シキニ依リ、幸ニ我ヲ殺スニ至ラサリキ、謹ンテ謝スト

不恰好ナル觀念ヲ故意ニ排列スルヲ論ス

嬉笑ノ感動ヲ興サシメムト欲シ、不恰好ナル觀念ヲ故意ニ排列スルハ、元來所謂諧謔ト名クル者ニテ、是亦更ニ諸種ノ形狀ニ於テスル者ナリ、其觀念ハ、全ク異ナル者ナレド、其名唱音呼、相通スル時、唯其音呼名唱ノ相似タルヲ取テ、之ヲ比較ノ元基トナス時ハ、其諧謔ヲ名ケテ、雙關話ト云フ、此ノ如キ怪異ニシテ、不意ナル關係ニ於テ、結ヒタルニ觀念、唯一語ノ中ニ隱レテ、其不恰好ナルコト、愈、十分ナレハ、其雙關モ、愈、十分ニテ、其效モ、愈、人ヲ笑ハシムル者ナリ、然ルニ、諧謔ノ中ニモ、此類ハ、實ニ最下等トシテ、算スル所ニテ、或、著者ノ一奇言アリ、曰ク、間斷ナキ盡力ニ依テ、遂ニ、之ヲ擠下シテ、尼院ニ驅逐スルヲ得タレハ、再ヒ、之ヲ容ルシテ、世界ノ光裏ニ、現ハレシム可ラスト、又曰ク、雙關話ノ竄謫ニ依テ、生シタル幸福

調戲ヲ論ス

ハ、直ニ、諧謔ノ員數ヲ、減少シタルニ在リト  
其諧謔、貴重尊大ナルコトヲ、賤辱スルコトニ用ヰ、依テ以テ、陋劣卑視スヘキ形容言句ヲ、是ニ擬スル時ハ、之ヲ名ケテ、調戲ト云フ、波多列爾ノ虛的丕羅斯ノ院本中ニ、此種ノ戲謔ノ落段、甚多シ、東瀛稍多ノ戰闘、并ニ、風車共ニ院本ハ、古昔比武ノ調戲タリ

滑稽ヲ論ス

滑稽ハ、全ク是ト、相反スル趣向ニテ、陋劣言フニ足ラサル者ニ、被ラシムルニ、高大轟動ノ形容語ヲ、以テシテ、戲笑ノ意ヲ、挑起スル者ニテ、鼠ト、蝦蟇トノ戰闘ノ名ハ、此一例ナリ

雙關謎語ヲ論ス

上ニ舉ケタル故意ニ、觀念ノ不恰好ナルヲ、排列スル諸種アルカ上ニ、又諧謔ニ、一ノ切要ナラサル種類アリ、是ハ、恐ラクハ前ノ區別中ニ、類列シ難キ者タル、可シ、其中、雙關謎語ト云フ總種類ハ、二重ノ意味アル語ニテ、一事ヲ言ヒテ、他ノ一事ヲ指ス者トシ、少クモ、其語ノ伴象ナル正實ノ意ハ、指ス所ノ眞實無二ノ意ニハ、非ルナリ、又同一ノ本則ヲ、唯少シク變シ、一層長ク、稍鄭重ナル体裁ニ延ヘ、伴象ハ、舉ルカ如クシテ、暗ニ戲謔譏刺ノ戲身ヲ、含メタルヲ、諷語ト云ヒ、又其故意ニ、譏刺譏讓スル意ヲ、稍迂曲



ニ言フチ冷語ト云フ總テ此等ハ皆余カ觀念ノ故意ナル不恰好ト名ケタル中ノ諸種タルニ過キス

此情ノ原質如何ナル目的ニ於テ危害ナル偏倚メリヤヲ論ス

吾人ノ性中ニテ此情元ノ價直ニ於テハ余未ダ一言ヲ發セサル所ナリ、之ヲ其真ノ價直ニ於テ評騭スルハ總ヘテ容易ノ事ニ非ス然レモ一方ニ就キテ之ヲ論スレハ此情ノ過度ナルニ至リテハ危害ノ本トナルコト疑ナシ凡ヘテノ事ヲ笑樂ノ光裏ニ觀テ物體若クハ觀念ニ就キテ想像上ノ遠濶ナル關係中ニ尤モ錯雜不恰好ノ處ヲ發見セムトスルノ偏倚ハ此心ノ氣風ニ不幸ナル影響ヲ生スヘキ耳ナラス心ト情腸トノ品性ヲ損スヘシ況ヤ至密ノ事ヲ穿ツニ於テチヤ凡ヘテ諧謔即チ嬉笑ヲ好ム偏倚此心ニ旺スル性質トナル時ハ他ノ高貴ナル能力ヲ之カ爲ニ不法ノ用ニ供スルヲ以テ此心ノ至高ナル效力才能ノ損壞ヲ醸シ殊ニハ志操ノ誠實正愆ト眞理ヲ愛スルノ熱心トチ毀壞シテ凡百眞實ノ浩大ヲ致スノ基本ヲ覆ヘスニ至ル可シ然レモ余カ言フ所ハ諧謔ノ過度ト失トニ在テ徒爲ノ諧謔ヲ云フノミ

其此心ノ又一方ニ就キテハ嬉笑ノ偏倚ハ吾人ノ性ニ於テ心意身體ノ保養ニ用ニ於ケルヲ論ス

アリ此用ハ如何ニモ忽視ス可ラサル者ニテ是ニ依テ諸能力ニ輕快鮮活ヲ供ス然ラサレハ人生ノ常套ノミニ疲倦スルニ至ル可シ是猶音樂ノ行進ノ兵卒ニ於ルカ如シ我カ精神ヲ清爽快活ナラシム又心腸ノ嬉笑ハ尙藥餌ノ健康ヲ助クルカ如シ其慧敏ナル知覺ハ強キ管束ニハ堪ラ可ラサルニ非スシテ唯一層高キ勢力志尙ノ使役ニ給シ種々轉變急遽ノ場裏ニ於テ其前頭ニ立ヌスシテ其後面ニ眞ノ位置ヲ占メヌルハ至大ナル福祥ノ一天稟トシテ視ルヘキナリ

諧謔ハ動モスレハ高貴ナル品性ニ伴フチ論ス

世人多ク賢智ト運重トハ必ス一種ノ連絡アリト云フ說ヲ固守スト雖モ恐ラシハ必ス相待ノ連絡アルニ非ス嬉笑ヲ好ミ嬉笑ヲ挑ム人ハ必愚人ナリト謂フ可ラス然レモ動モスレハ有リ得ルコトノ如ク世間ニ廣ク涉リ怪異ナル事不恰好ナル事痴呆ナル事妄誕ナル事凡ヘテ此等ノ事ヲ見テ笑フ可シト爲サレ人アリ是正シク感性ナシヤト疑フニ足ルコトアリ然ルニ笑謔ハ人ノ心ニ在ル品性ノ最第一ナル者ニ非レモ種々ナル他ノ才能ト常ニ相伴フ者ニテ多才上智ノ確然タル明証トシテ視ル可シ其中ニモ詩ノ大家說術ノ大家歴世ノ政治家ハ多ク諧謔



チ好ミタリト云ヘルハ、正シク言ヒ得タル言ト謂フヘシ  
 此論題ナル能力ニハ、一切要ノ用アリ、是余カ未タ指授セサル所ナリ、余  
 カ指ス所ハ、其勢力ハ、以テ器具トナス可キニ在リ、ソレ人素ヨリ高邁ナ  
 ル道理ヲ本トシテ、己ヲ管束スルナキ者ハ、唯社會ノ稱譽ヲ以テ、其目的  
 トシ、世間ノ視察、衆人ノ指目ニ因リテ、弄笑侮視ヲ蒙ラムコトヲ恐ル、  
 ニ過キス、故ニ、此等ノ人ニ在リテハ之ヲ器具トナシテ、其愚ヲ戒シメ、其  
 惡ヲ警シム可レハナリ、蓋、此等ノ人、其數固ヨリ衆多ニシテ、此等ノ人ニ  
 在リテハ、世間ノ笑ヒ畏ル可シト云フ一訣ハ、神威人法ヨリモ、一層力ア  
 リ、一層怖ルヘキ者タリ、且ソレ人ニハ、道德上ノ短處ト、不恰合ナル事ハ、  
 輕淺ナレモ、多キ者ニテ、善人且免レサル所ナルニ、是ニハ、嘲笑ト云フ者  
 眞ニ效力ノ大ナル、攻具タルヲヤ

士德尼、  
 士美斯ノ  
 表章ヲ舉  
 ヲ

シトコスミス

余、吾人心性上ノ、此部分ニ就キテハ士德尼梭美斯ノ妥當ナル表章ヲ、援  
 用スルニ非レハ吾カ指授ヲ、結フ能ハス、是梭美斯ハ、自己亦、近世慧敏ナ  
 ル諧家ノ、一ナレハナリ、其言ニ云ク  
 余既ニ、諧諷ノ危○害○アルヲ論シタリ、然レモ、是ニ依リテ、諸能力ハ、危○害○ア

レハトテ悉ク概シテ、一切ニ、開戰宣告ヲ、ナスニハ非ス、諧諷モ、固ヨリ危  
 害ナリトシ、雄辨モ危○害○ナリ、視察ニ長シタル材能モ、亦危○害○ナリ、何事ニ  
 テモ、其品性トシテ、性力ト氣力トチ、有スル者ハ、危○害○ナラサルハ莫シ、然  
 ラハ、中庸ヨリ外ニハ、安全ナル者、莫カルヘシ、云々、然レモ、其諧諷ナル者モ、  
 感性ト、知識ト、相合シタル時、善意ニテ、温和ナラシメ、嚴規ニ本ツキテ、控  
 制シタル時、又之ヲ用非、若クハ、捨ツルコトヲ、知りタル人ノ、手裏ニ在ル  
 時、又能、諧諷ヲモナシ、諧諷ヨリモ、一層善キ事ヲ、爲シ得ル人ニ、存スル時、  
 又其人タル、廉潔、正義、禮節、善良、道德、教門、ヲ愛敬シ、諧諷ヨリ萬倍モ善キ  
 事ヲ、尊フ人ニ存スル時、此ノ若キ時ハ、諧諷ナル者、吾人性中ノ、美妙至樂  
 ナル、部分ナリト

第三章 新珍奇異ノ享樂

驚愕ト厭  
 倦トヲ論  
 ス

不恰好チ見テ發シ、嬉笑ノ感動ヲ、伴フ驚愕ノ、形狀ニ就キテハ、余既ニ其  
 情ヲ論スルニ方リ、之ヲ説クノ機ヲ得タリ、今余カ將ニ、説カムト欲スル  
 所ハ、一般ナル驚愕ノ、感動ニ就キテ、其性質ト、發スル機會ト、并ニ又、是ト  
 相反對シタル感動ニテ、善語ナキニ因リテ、姑ラク厭倦ト名クル者トナ



驚愕ノ定  
義并ニ性  
質ヲ論ス

驚愕ノ感動タルヤ、何ニテモ、新奇ナル物ヲ知覺スルニ因リテ、提發セラ  
ル、者ナリト、定義ヲ立ルコトヲ得ヘシ、此情ハ、是ノミニテ、論スレハ、寧  
ロ、快爽ナル部ニ屬シ、其反體ニ屬セス、故ニ、諸種ト、新鮮トハ、常ニ心ヲ愉  
ハシメ、人性ハ之ヲ好ミ、此ノ如キ事ノ、發起スル時ハ、愉悅スル者ナリ、而  
テ百事一律ニ出テ、線條ノ絶ニザルカ如ク、平素反復スル、本分常套ニ至  
テハ、疲困ヲ發シ、時ヲ歴テ、我カ不快ヲ生スル者ナリ、此ノ如キ憎々心ヲ  
用非サル時ニ方リ、不意ニ、新事件發リ、或ハ、友人ノ來訪、或ハ、曾テ期セサ  
ル報知ヲ受ル等ノ如キハ、皆快爽ナル驚喜ヲ發ス、蓋シ、歴世ヲ貫キ、萬國ニ  
涉リ、人性ノ新事物ヲ、視聽スルニ、熱ナルハ、皆之カ爲ナリ、然レモ、只其新  
事件、若クハ新報知タル、切實ニ、惡事タル時、或ハ實事ニテモ、想像ニテモ、  
其新聞、不幸ニ屬スル時、或ハ現在ニ艱難ニ遭ヒ、或ハ、未來ノ艱險ヲ、恐ル  
、時、此ノ如キ時ハ、其事件ノ發シタル、直接當然ノ、効驗ハ、其驚動、痛苦ノ  
情トナルナリ、又加旃、此ノ如キ時ニ當テハ、譬ヘハ、朋友ノ死没トカ、同人  
ノ厄難トカ、其惡報ヲ得ルニ方リ、此心、初頭感動シタル時ハ、其瞬間ニ、快

樂ノ性中ニ、痛苦ヲ混シタリヤ、否ヤ、我ハ全ク、之ヲ覺エサルナリ、然ルニ、

其提起セ  
ラル、如  
何ヲ論ス

此時、我深シ、其事件ヲ憂フト雖モ、其新報ヲ得タルハ、喜フヘキナリ、其事  
ハ、我ヲシテ、悲憂セシ、ムルモ、其事ヲ聽キタルヲ、悲憂スルニハ非ス、故ニ  
我カ痛苦ヲナス者ハ、驚愕ニハ非スシテ、我ヲ驚愕セシメタル事件ナリ  
故ニ曰ク、驚愕ハ、必上感發ノ、他ノ諸形狀ト同シク、驚愕ノミニテ、且其正  
當ナル疆域内ニ限リテハ、不快ナル者ニ非スシテ、其反體アリ  
此情ハ、既ニ述ヘタル如ク、前兆セサル、意外ノ事ヲ見テ、挑起セラル、ナ  
リ、吾人、率チ、總ヘテノ事ニ就キテ、其事ノ未來ノ流路ハ、如何ト、程前路マ  
テ、之ヲ前兆スルコト、當然ナリ、故ニ、其事ハ實ニ、過去ノ如クナルヘシト、  
豫定シ、期スルニ、屢、尋常起リシ事ノ、復起スルヲ以テス、然ルニ、其事件ノ  
起ル此、一定ノ次序ニ、戻ルコトアレハ、其効驗ノ常軌ニ、斷絶ヲ生スルカ  
故ニ、吾人、驚愕ヲ發スルナリ

怪異トハ  
異ナルヲ  
論ス

驚愕ハ、怪異ト異ナリ、怪異ハ、此心、其新奇ナル現象ニ就キテ、自ラ其源由  
ヲ知り、當然ノ解釋ヲ得ムト、欲スルノ努力ニシテ、靈智上ノ、元行ヲ含メ  
リ、驚愕ハ、純然タル感性ノ事、感動ノミニテ、靈智ニハ關セス、此情ノ興リ



駭愕ト異ナルヲ論ス

此本元ノ爲ニスル所ヲ論ス

タル時ハ、此心全ク受動タルノミ、此情ヨリ、或ル行爲ヲ發スルハ、他ノ諸情ノ如シト雖、他ノ諸情ト同シク、此情ノミニテハ、唯此心ヲ攪動セラレタル、響動ノミニシテ、依テ、以テ他ヲ覺動スル者ニ非ス、故ニ、受性ニテ受ケタル者ニテ、能動性ニテ、他ヲ動カス者ニ、非ルナリ

是又、駭愕トハ異ナリ、駭愕ハ、心ノ感發ノ高度ヲ表シ、極メテ較著怪異ナル事件、又ハ、其洪大切要ノ、我カ心ニ、滿溢スル物體ヲ見テ、發スル者ナリ」

吾人ノ性中、此預備ヲ以テ、成功スヘキ目的ハ、十分ニ較著ナリトス、是ニ因リテ、我カ注意ヲ、何ニテモ、平常ノ流道ヨリ、外レタル者ニ、喚起スルニテ、其事物、非常タルヨリ、此境遇ニテハ、注意ヲ要スヘシト、定メタルナリ、依リテ以テ、吾人、接近スル危害ニ抗シ、我ヲ護衛ニ置キ、或ハ、現ニ起ル急遽ニ、應スヘク、疎動セラル、ナリ、故ニ、驚愕ハ、報急ノ鐘ニテ、我カ全力ヲ、喚起シテ、行爲ニ就カシメ、少クモ、如何ナル用事ヲ要スルモ、是カ爲ニ、預備シテ、或ル可シト、警戒スル者ナリ、又此同一ナル本元ハ、人生ノ平常事務ニモ、力ヲ陳スル爲ニ、刺激ヲ起スノ用ヲナシ、吾人ハ、新ラシキ事ヲ求メ、舊キ事ニハ、倦厭スル者ナリ、此我カ性中ノ、單純ナル理法ハ、屢、努力ニ、至強ナル衝動ヲ、發スルノ一グリ

反對スル感動ヲ論ス

驚愕ノ反對ハ、カノ舒暢ナラザル感動ニシテ、吾人、同一物ノ變化ナク、陸續相繼キテ、復起スル時ハ、乃意識ニ供スル所ナリ、譬へハ、同一音、若クハ、同一調ヲ、續キテ、反復スルカ如ク、又山水ニテ、同一物ノ、陸續一致シテ、相繼ク如キ等ノ時ナリ、又極メテ直平ノ路程ニテ、間ニ、同一物、同距離ニ相連リ、何一ツモ、其地形ノ千里一樣ノ死景ヲ、破ルコトナキ處ニ於テハ、其倦厭スルコト、幾何ツヤ、是誰ニテモ、知ル所ナリ、此ノ如キ時ハ、亞伯士ノ峻嶒タル山徑ハ、之ト交換シテ、身體ニモ、心意ニモ、滅痛ノ藥劑タルヘシ、歌曲ノ如キ、樂譜ノ如キ、如何ニ好ム所タリト雖、同一譜曲ヲ、反復スレハ、時ヲ歴テ、堪フ可ラサルヲ覺ユ、此論題ナル感動ヲ、精密ニ表言スルニ、我カ本語ニ於テハ、孰レ語カ能之ニ適當セリヤ、余未、確知セサルヲ以テ、好語ノ缺タルカ爲ニ、此ニハ、佛蘭西語ヨリ、借リテ、アンヌヰ、非ト云フ、稍表言スルニ足ル語ニテ、感性中、此景狀ヲ、徴シ得ルナリ

此感動ハ、吾人ノ天稟ニ於テ、性情健康ノ爲ニ、貴重ナル目的ニ、資スルコトハ、疑フヘキニ、非ス、是行爲ニ、刺激動機ヲ、假ス所ノ要具ニシテ、之ナキ

厭倦ノ用ヲ論ス



時ハ、吾人、屢、淡漠ナル懶惰ニ陥リ、事物ハ其存スル如ク、存スルナリト、安心シテ、少シコテモ、貴重良貴ナル方ニ、進術スルノ意、莫カルヘシ

第四章 美妙高妙ノ享樂

此享樂ハ、美妙ノ觀念ト、此心之ヲ認識スルノ、作用トニ就キテ、其靈智ノ能力ニ關スル部分耳、ニ於テハ、余既ニ、之ヲ、他ノ連絡ヲ以テ、論シタリ、然ルニ、美妙ノ響動ヲ、被ムル者ハ、靈智ノミニ非ス、覺性ノ知覺スル所、雅趣辨決ノ認識シテ、善スル所ハ、應性モ速ニ、之ヲ感シテ、其情依リテ以テ提醒セラル

其天然タルト、人工タルトニ論ナク、美妙ナル物ヲ、知覺スルニ及ヒテハ、吾人直ニ、快樂ノ活潑ナル感覺意識ニ供スルヲ覺ユ、而シテ、其感動ノ強ク、且一般ナルハ、多シノ著家、其美妙ヲ以テ、直ニ情ト視做シ、唯之ヲ主觀ノ物トシ、徒ニ感動ノ事トナシテ、論スル者、アルニ至レリ、此見解ヲ正シカラサルハ、既ニ論破シタル所ナレハ、更メテ、講究ニ入ルヲ、要セス

驚歎ナル語ヲ論ス

美妙ヲ知覺シテ、提醒セラレタル感動モ、亦他ノ意識ニ供スル感動ニ、同シケレド、亦精密ニ、之ヲ微スル名目ナシ、故ニ、或著者ハ、論題ナル感動ヲ、微スル爲ニ、美妙ノ情ト云ヘル語ヲ、用非タレド、是ハ其意、茫然含糊ニ屬

レテ論駁スヘキ者タリ、唯驚歎ト云フ語、縱稍廣キ意味ニ、用非來レリト雖、我カ本語ニテハ、他ノ語ヨリモ、余カ指ス感動ヲ、表言スルニ、蓋一層近カルヘシ、吾人ハ、新奇ナル物ニ於テ、驚愕シ、美妙高妙ナル者ニ於テ驚歎ス、此感動ハ、觀察ニ供シタル物體、我ニ取リテ、新奇ナル時、我ニ取リテ、稀世尤物ノ一ナル時、純然無雜ノ快樂ヲ興起シ、混スルニ、多少怪異驚愕ノ情ヲ、以テスルノ一ナリ、而シテ、カノ美妙ナル者ハ、其反對ニ、醜陋穢惡アルカ如ク、美妙ノ提醒スル情モ、亦反對シタル情ト並ヒ立テ、名ツケテ厭惡ト云フナリ

此情直ニ發スルヤ、否ヤヲ論ス

美妙高妙ニ依リテ、挑發セラレタル情ハ、直ニ發スルカ、又ハ、省察ニ因ルカ、其物體ヲ知覺スレハ、忽ニ迸出スルカ、又ハ、唯省察論辨ノ效タルカト是頗議論ニ涉ル問題ナリ、カノ美妙ヲ以テ、利用ノ中ニ存シ、次序ト均稱トノ中ニ存シ、合當ノ中ニ存シ、差異中ノ合一ニ、存スル等ノ說ヲ、固守スル人ニ在リテハ、之ニ依リテ、提起セラレタル情ヲ視テ、直ニ發スル者トナサ、ル可キハ、當然ナリ、蓋此諸說ニ從ヘハ、初頭先、其物體ハ利用ナリヤ、否ヤ、等ト、自ラ的證ヲ視ルマテ、之ヲ曉解スルノ時間ヲ、要ス可レハナリ、



故ニ此説ニテハ、美妙ヲ成ス形質ハ、未<sup>レ</sup>情ノ生セサル前ニ、其物體中ニ存スルヤト、先<sup>ツ</sup>心ヲ以テ、之ヲ曉悟セリルヲ得ス、是乃<sup>レ</sup>省察ノ事ナリトス、然レ<sup>レ</sup>ハ、美妙ヲシテ、視ルヘキ、觸ルヘキ形體中ノ、視ル可<sup>ク</sup>サル精神ノ、表象タリトセハ、則此情ヲ生スル爲ニ、要スヘキ者ハ、唯其表象ヲ、具ヘタル物體ノ、知覺ニ止ル耳、蓋、其物體ヲ知覺スル瞬間ニハ、其知覺中ニ、既ニ、一ノ表象アルヲ、知覺シテ、其儘我カ自己精神上ノ性ニ、惹觸スレハ、直ニ、其情ヲ發生スレハナリ

何如カ之ヲ決定スヘキノ疑問

其疑問ハ、其事實ヲ觀察シテ、決定セサル可<sup>ク</sup>ラスシテ、其効力ニ因リテ、上ニ擧タル美妙ノ一般見解中ニ就キテ、彼此ノ一ヲ善シトシ、以テ論證ヲ加ヘ示スニ、至ルヘシ、果シテ然ラハ、其時例ニ當リ、意識ニ供シ、視察ニ觸レタル事實ハ、何ソヤ

意識ノ證ヲ論ス

余カ意識ニ省シテ、辨決シ得ル所ニテハ、吾人、一ノ美妙ナル物體前ニ、自<sup>ラ</sup>至ルニ及ヒテハ、快樂ノ情、直ニ勃興シテ、意識ニ供スルヲ覺ユ、此時、其物體ニ就キテ、彼此利用ノ目的ニ、適合セリヤ、其造構ニ於テ、次序ト、均稱ノ例規ヲ、遵守セリヤ等ヲ、發見スル爲ニ、預メ、胸臆ニ横ハル、議論アルナシ、

其此物ニ就キテ、思慮スルノ暇アラサルニ、其美妙ノ常ニ吾カ感動性ニ、惹觸スル所ニ、此感性ハ、既ニ應發シテ、吾カ意識ニ現ハル、初頭別個ノ事實ハ、乃チ快樂ノ情ナリ

反覆ノ效驗ヲ論ス

且ソレ、其快樂ハ、初頭、其美妙ナル物ヲ、見タル時、全ク活潑ニシテ、爾後之ヲ視ルヨリモ、勝レルヲ常トス、是亦、意識ノ我ニ示ス者ニシテ、亦以テ、省察ノ功ナラサルヲ、視ルニ足レリ、蓋、其實、反復ハ、情ノ力ヲ減スルト、見ユルコト多クシテ、常習トナルニ至リテハ、却テ其美妙ヲ、敗ルコトアルヲ、然レトモ、之ヲ反復スル毎ニ、我ノ視察ト、省察トハ、愈<sup>ニ</sup>其機ヲ得テ、以テ其視ル物ニ就キテ、利用、次序、合當、均稱等ノ的證ヲ、得ルノ力ヲ、強<sup>ク</sup>スルニ、至ルハ何ソヤ

情ニ次ク辨拆上ノ省察ヲ論ス

且ソレ、辨拆ニ類スル省ハ、其察何事タルニ拘ハラズ、我カ意ノ之ク所ニ任セ、之ヲ選ヒ得ルニ、恒ニ必<sup>ズ</sup>快樂喜悅ノ情、初頭ニ發シ、其物ノ美妙ニ因リテ、我ヲ動かシタル、第一ノ印象ノ後ニ、繼<sup>ク</sup>者ナリ、故ニ是、初頭ノ印象ヨリ、容易ニ區別スヘキ後接ナルコト、明ナリ、又其省察ハ、此物ニ就キテ、我ヲ訓フル一種別ノ、執意ハ、效驗タルコト、恆ナレ<sup>レ</sup>モ、情ハ、自由ニシテ、無



意ナルコト、亦明ナリ、然ルニ、其快樂ハ辨拆シテ、指示シタル形質ヲ、知覺スルヨリ、發スルコトモアルコト、亦疑ナシト雖也、是ハ、其美妙ヲ觀テ、其儘發スル快樂トハ、一種他ノ快樂ナリトス、此ノ如クナレハ、美妙ニ因リテ、提醒セラレタル情ハ、直チナル者ニシテ、省察ノ功ナラスト、謂ハサル可クサルナリ

其他ノ問題ヲ舉シ

前論ト密ニ相接シ、孰レカ先タツト、云フ問題アリ、是美妙ナル物體ノ提醒シタル情ハ、辨決ニ先タツカ、又ハ此物體ハ、美妙ナリトスル、此心ノ辨決、情ニ先タツカト、云フ疑問ナリ、致知學上ニテ論スレハ、此二事ノ區別シ得ヘキハ、疑ナシト雖也、恐ラクハ、時ノ先後ヲ以テ、論ス可ラス、其物體、知覺ニ供スルニ及ヒテハ、美妙ナリト、知覺モ爲シ、感動モ起ルナリ、故ニ、是ハ美妙ナリト、情ノ發スルト、又心ニテ肯定スルトハ、兩ナカラ、物體ヲ知覺スル上ニ、直チニ發スル者ニテ、少クハ、時ヲ目的トシテ、其間ノ區別ヲ立ルニハ、吾人ノ能ク堪フル所ニテハ、之ヲ同時ノ事件ト、謂ハサルヲ得ス

致知學ニ

余以謂ヘラク、致知學上ノ關係ヨリ觀レハ、情ニ首坐チ許スヘキナリ、是

テハ情ノ先ツテ論ス

幹圖ノ如キ達識モ、猶此反對ニ、決定セリト雖也、然ラサルヲ得サル者アリ、吾人、美妙ヲ觀テ、情ノ發スルコトナキ時ハ、其美妙タルヲ知ラサルヘシ、ソレ、一般ニ論シテモ、感覺ハ、知覺ニ少ク可ラサルノ約束トシ、致知學ニテ論シテ、少シト、情ハ知覺ノ前唱タレハ、美妙ノ感動ハ、美妙ノ知覺ニ、約束根本タリト、謂ハサル可ラス、其物體我ヲ、然ル者ナリト驚カシ、我ヲ動カシ、我ヲ攪動シ、我ニ印象ヲ生シ、而シテ後ニ、我ニ美妙タリト言フ、若美妙ヲ觀テ、情ノ受性ナシトセハ、一ノ美妙タリト、云フ物アル時ニ、我ハ、其知覺ヲ有スルカ、又ハ、其情ヲ發シタルカト、甚シキ論争ニ、至ルヘキナリ

美妙ト高妙トノ區別ヲ論ス

又他ノ注意スルニ、足レル一項アリ、美妙學上ノ情ヲ、講究スルニ於テ、余今マテハ、唯美妙ニテ、提醒セラレタル感動ノミチ、論シタリ、此情ノ異ナル所、如何、是唯、度ニ於テ、異ナルカ、ハタ、其性ニ於テ、異ナルカ

唯度ニ於テ異ナル説ヲ論ス

或人ハ、高妙ハ、唯吾人、美妙ト呼フ者ノ、度ノ高キ者ノミト云ヘリ、譬ヘハ、一溪流アリテ、丘嶽間ニ縈回シ、巉巖ニ觸レテ、磷々タルハ、美妙ナリトシ、而テ、稍尙其他ニ流レテ、漸ク浩蕩トナリ、漸ク奔流トナリ、漸ク激浪トナ



各自ニ別ナル情ヲ喚起スルヲ論ス

レハ、高妙トナルト、若此説果シテ、然ラムカ、是實ニ、容易ノ事トス、量地家ノ連鎖アリテ、加フルニ、十尺許ノ桿極ヲ以テセハ、何時ニ限ラス、吾人ニ、其差異ヲ示シ、以テ我ヲシテ、其川河、若クハ、山嶽ノ、唯美好ニ属スルカ、若クハ、高妙ニ属スルカ、一次ニシテ、之ヲ定ムルニ、足ラシムヘシ、然ルニ若ク、其差異其種類ニ於テシテ、徒ニ、度量ニ於テノミナラストセハ、其異ナル所ノ如何ヲ、正シク述ルコト、其ノ如ク、容易ナラサルヘシ、吾人ノヲ能眺視スルハ、恐ラクハ、兩種ノ物體ニヨリ、我ニ、喚起スル情ノ差異ヲ、細心ニ、視察スルニ在リ、余一物ヲ觀察シテ、總ヘテ世間舉リテ、共ニ之ヲ呼ヒテ、美妙トナス時ハ、此物我ニ、如何ナル情ヲ、提醒スルカ、此時、余カ、驗ミ得ル情ハ、快樂愉悅ニシテ、恐ラクハ、驚歎ト云フノ外、別名ナカルヘシ、而シテ、余乃、人ノ高妙ト名クル、他ノ一物ヲ觀ハ、余カ情ハ、果シテ何如、此時亦、驚歎ノ情アルヲ知ル、然レ、前時ノ如ク、靜閑和煦ノ、愉悅ナラスシテ、迥カニ異ナル所アリ、此時ハ、其驚歎ニ混スルニ、畏敬ヲ以テシ、其物體ノ浩大盛壯ノ意、我ヲ壓シテ、余ハ、一ノ上等ナル體、若クハ、本尊ノ前ニ立ツカ如ク、其面前ニ在リテハ、余、吾カ、么麼渺劣、較スルニ足ラサルヲ、覺ユ

ルナリ

高妙ハ、勢力ノ勝ル觀念ヲ呈スルヲ論ス

是故ニ、人ノ高妙ト、呼ヒ做ス物體ハ、此ノ如キ情ヲ、興起スルニ、適スル者タルハ、不易ナルヲ、見ルナリ、是即、力ノ勝レ、勢ノ優レルヲ、呈スル物體ニテ、或ハ、其體ノ、巨大浩蕩タルニ在リ、或ハ、其勢ノ、雄偉俊拔ナルニ在リ、或ハ、吾人知識ノ外ニ出テ、管束ノ及ハサル所ニシテ、其廣大、津涯ナキニ在リ、大洋ノ、浩瀚ナル、沙漠ノ、無邊ナル、草野ノ、沙漠タル、山嶽ノ、巍峨崔嵬タル、瀑布ノ、瀾渤砰磅タル、雷吼ノ、殷々怖ルヘキ、地震動、霹靂聲クカ若キ、海嘯ノ、愾然駭クヘキ、風雨晦冥、怒濤崩ル、カ若キ、三軍ノ、戰野ニ臨ミ、令嚴ニ、法明ニ、進退運轉、肅トシテ、威武ノ、揚ルカ若キ、凡此數ノ者、并ニ、此等ノ者ハ、吾人、高妙ト、呼フ物體ナリ、其小ナル者ハ、美妙タリト雖、皆テ、高妙タルコトナシ、又唯、巨大ナル者ハ、必高妙ナルニモ、非ス、必ヤ、其物タル、勢優リ、力勝ルノ、觀念ヲ、表シテ、始メテ可ナリ、孟多摩、稜西ノ、瀑布ハ、美妙ト、謂フヘク、那伊亞、加羅ハ、高妙ト、謂フヘシ、瑞士ノ、山間、丘壑ノ、中、鳥雞階、鳴スルハ、美妙ト、謂フヘク、其連峯、大嶽、半腹ニ、懸ル、白雲ヲ、貫キ、蒼然タル、天穹ニ、聳拔シ、其勢ノ、雄偉宏大、寂然タリ、巖然タル者、脚下ノ、褊促ナル



世界ヲ睥睨シ、人類ト、其事務ノ齟齬タルヲ悲視スルカ若キアルハ、高妙ナリト謂フヘシ

高妙ト、美妙ト相伴  
フテ論ス

又高妙ハ、必美妙ト相伴ハサル者ニハ非ス、那伊亞加羅ノ若キハ、其美妙ヨリモ、一層高妙ナリト謂フ可ラス、其水ノ下注スル、深翡翠ノ流ル、カ如ク、霧ヲ起シ、雨ヲ瀟瀟キ、五彩ノ虹、其中空ニ現ハレ、玉ヲ碎キ、珠ヲ迷ラシテ、深淵ニ、瀾々タルカ如キハ、天地間、美妙ノ最タル一ナリ、故ニ、高妙ト美妙トハ、其元行異ナリト雖也、此ノ如ク、屢混成スル者ニシテ、同一物ノ中ニ、結合スルコトアリ、而テ、至高ナル、美妙學上ノ效驗ハ、此結合ヨリ生シ、美妙ハ、其高キヲ調和シ、高妙ハ、其美ヲ高メ、其品質ヲ貴カラシムル者ナリ、那伊亞加羅ハ、蓋シ、之ヲ專有シ、又安伯士雪巔ノ、曉陽ニ映シタルモ、亦之ヲ專有ス

美妙ハ、靜  
感シ、高妙  
ハ、竦動ス  
ルヲ論ス

美妙ハ、我ヲシテ、意ニ協ハシムレ也、高妙ハ、一ノ意味ニテハ、此ノ如クナラス、而ナカラ、快活ナル精ヲ生スレ也、而ナカラ、互ニ相異ナル者アリ、故ニ、美妙ノ享樂ニ於テハ、安靜冲淡ナル樂アリ、此心モ、平穩ニシテ、擾動セラル、コトナク、問逸ヲ得、而シテ、其我ヲシテ、樂マシムル物ノ、精微嫺雅

高妙ト、恐  
懼トノ關  
係ヲ論ス

ナルハ、我カ趣味ニ因リテ、之ヲ驚歎セシムルナリ、然ルニ、高妙ノ知覺ニ至リテハ、是全ク別ニシテ、此心、爲ニ竦動セラレ、其猛烈ナル形質ト、同感ヲ發シ、之ニ激挑セラレ、之ト雄健ヲ競ヒ、而シテ、其視察スル物ノ、壯大雄拔ニシテ、嚴然動カス可ラサル所ニ、壓服セラレ、我ノ比較ニ於テ、勦劣及フ可ラサルノ感動ヲ、生スルナリ、是ヲ以テ、高妙ハ、唯美妙ヨリモ、深ク此心ヲ把束シ、之ヲ威服セシメ、之ヲ拔興シ、其傾力情氣ヲ鼓舞シ、思慮ノ遲鈍ヲ發揮シ、能之ヲシテ、活潑ナラシメテ、平素等閑ノ日月ヲ、瞬間ニ、經過セシムルノ情思アリ、故ニ、美妙ハ、能我ヲ迷眩シ、能我ヲ慰撫ス、高妙ハ、我ヲ克制シ、我ヲ捕虜ス、其一ハ、我ニ、同感ト、愛情トヲ起シ、其一ハ、吾人ノ性中、高貴、嚴肅、浩大ナル者ヲ、提發スルナリ

高妙ト、恐懼トノ關係ハ、諸家ノ表章セル所ナリ、蒲德拉孫、安西論、韓圖、猶佛魯哇、丕列伊爾、之ヲ論シ、又波爾加モ、之ヲ云ヘリ、波爾加ノ恐懼ヲ以テ、高妙ノ元行トセル考定ハ、正說ヨリ、甚遠キニ非ス、唯之ヲ恐懼ト言フヨリモ、畏懼ト言フノ、妥當ナルニ、如カスシテ、畏懼ハ、其心、勇猛剛暴ナル者ト雖也、十分、之ヲ感受スルコトアレハナリ、又此畏懼ヲ以テ、高妙ナル物、







自己ノ元行ト、スルヨリモ、高妙ヲ觀テ、發スル情ノ、元行トスルニハ、如カサルナリ

美妙學上ノ感性ヲ培養スルヲ論ス  
此培養ヲ慢ニシタルヲ論ス

余此章ノ連絡ニ於テ、一論題ヲ、表章セシテハ、全ク通過スルコト能ハス、是余、此書ノ紙中ニ、叙述スルヨリモ、甚細心ノ講論ヲ、要スル者ニテ即、美妙學上ノ、感性ヲ培養シ、美妙ノ愛ヲ、習學スルノ事ナリ  
美妙ノ愛ハ、唯感性ノ多般形狀中ノ、一ニシテ、吾人性中ノ、他ノ感動偏倚ト、相通シテ、共ニ培養習熟ニ因テ、至高ノ度マテ、之ヲ太<sup>ト</sup>、之ヲ速カニシ、之ヲ強クスルコトヲ、得ヘシ、是元來、性中ノ、天賦ナレ<sup>レ</sup>、亦猶、他ノ生來ノ、天賦ノ如ク、之カ教育ヲ、慢ニシテ、枯死スルニ、至ラシムヘシ、此事、不幸ニシテ、世人ノ上ニ於テ、屢例アル所ニテ、カノ營生ノ、汲々タル事業ニ、努力スルノ人ニ在リテ、殊ニ然リトス、此等ノ人ニ在リテハ、時間ト、注意トヲ、他ノ一層切要ナル事ニ、寄スルヲ以テ、唯徒ナル美妙ハ、之ヲ顧ルニ、暇アラスシテ、經過セリ、此ノ如ク、雅趣ノ培養ト、美妙ノ眞愛トニ、意ヲ注セサルハ、我カ教育ノ、制規ニ於テ、甚シキ缺典ヲ、ササル莫キヲ、得ムヤト、是疑問ニ供スル所ナリ、蓋、此ノ如キ培養ノ術ハ、恆ニ至近ニ存スルナリ、勿論、

藝術上ノ大作物、及、至完ノ模範ハ、衆人、悉ク就テ觀ルヘキニ非ス、誰ニテモ、羅畢埃拉、又、兒驚吉拉<sup>ラ</sup>ノ、聖壁彩畫ヲ、學フ爲ニ、海ニ航スルハ、得可ラサル所ナリ、然レ<sup>レ</sup>、天地間、我カ周匝ハ、吾人、日々ノ行路ニ、沿ヒテ、悉ク、カノ至大ナル藝術者ノ、大作タリ、故ニ、靈智ヲ具シ、思惟スル心意ニハ、此美妙ヲ捨テ、視察セシテ、可ナラムヤ、且、又、或人ノ思ヘル如ク、此事ノ、過度ニ至ルハ、危害ナリト、豈此妄想アル可ムヤ、然レ<sup>レ</sup>トモ、我カ世ト、我カ邦トノ、偏倚ハ、全ク是ニ反セリ

此元理ノ貴重ナルヲ論ス

ソレ、美妙ノ愛ハ、人生快樂ノ中、最純至美ノ、根源タリ、是乃、神ノ、我カ靈魂ヲ、造リ、性ヲ、成スニ、方リ、賦スル所タリ、故ニ、天然ニシテ、既ニ、其基礎ヲ、夙歲ノ、開發ニ、具ヘ、兒童モ、自然ニ、美妙ヲ、愛スルヲ、知ル、而シテ、此理ノ、開發ニ、自然定則アルハ、獨夙歲ニ、於ル耳、ナラス、其境遇ノ、幸ヲ、得ルニ、及ヒテハ、却テ、此心、老熟ニ、至リ、年月、推移スルニ、從ヒ、此情愈、強ク、愈、活潑ニ、至ルナリ、カノ、老年ニ、及フトモ、其心裏ニ、少時純美ノ、源ヲ、保存シテ、能活潑ナラシメ、日月既ニ、逝キ、形影相憐ニ、覺性、漸ク、鈍クナルノ、時ニ、方リ、猶兒童ノ、歎美娛樂ヲ、以テ、天造、若クハ、人工ノ、諸作中ニ、眞ノ、美妙ヲ、若取シ得ル



人ニ在リテハ、嗚呼亦、幸福ナリト謂ハサル可ムヤ

第五章 躬行ノ、正直ナルニ於テノ「自得、悖戻ナルニ於テノ

悔恨

正直ノ感 正直ノ觀念認識ヲ論シタル篇ニ於テハ、其正直ノ念ヲ其念ノミニテ論  
動ヲ其知 シ、且又、此心ノ其正直ヲ認識スル作用ヲ擧ケ、少クモ、其作用ノ靈智上ノ  
覺ヨリ區 能力ニ關スル限ハ、十分ニ、之ヲ講究シタリ、故ニ、是再、此論題ノ講究ニ、入  
別スルヲ ルチ要セサルナリ然ルニ、美妙ノ認識ニ於ケル如ク、正直ノ認識ニ於テ  
論ス モ、徒ニ智ノミ、運用スルニ非ス、感性モ亦、之ガ爲ニ發スルナリ、故ニ、智ノ

知覺スルニ次キテ、情提醒セラル、而シテ此情亦定形ヲ具シテ、其力甚強  
ク、其運用モ、亦奇異ナリトス、凡ソ人ノ心腸ヲ、攪動スル情ニ就キテ、其發生  
ノ一致ナル、其品性ノ甚較著ナル、其人生ノ禍福ニ、深徹永久ノ動響ヲ起  
ス者ハ、自身行ノ、德義ニ協ヒ、福祥以テ、年所ヲ經タルヲ、内省シテ、疚シカ  
ラサルト、又相反シテ、從前ノ失行愚頑ヲ省ミ、悔恨ヲ生シ、懣痛ヲ作スノ  
二ツヨリ、甚シキハ、莫シ、蓋、人性ハ、諸種駁雜ノ場地道途ヲ、歴ル者ニテ、其  
中、喜憂ノ情、消長明暗ヲ相ナスノ形狀、諸種一ナラスト、雖モ、中ニ就テ、性

理學者ニ在リテハ、此道德ニ關スル情ヲ、外ニシテ、他ニ一モ、深ク切要タ  
ル者ナク、余カ茲ニ指ス所ノ情ヲ、措キテハ、其細心ノ講論ヲ、要スルニ、足  
ル者無レ

或、著家ニ至リテハ、人性中、此部分ノ、殊ニ切要タルカ爲ニ、深ク之ニ感シ、  
德道ノ能 竟ニ、所謂道德上ノ能力、即、是非ノ心ヲ以テ、此論題ナル情ノ中ニ混一シ、  
力ハ、道德 ノ感動ト 是非ノ認識ハ、到底唯此感動ノ事タリトシテ、少シモ、疑ハサルニ至レリ  
混一ス可 此說ハ道德學上ヨリ視テモ、又性理學上ヨリ視テモ、大ナル謬見タルコ  
ラサルヲ 論ス ト、疑ナシ、是道德上ニ就キテモ、性理上ニ就キテモ、孰レニテモ、眞ノ科學

ニ在リテハ、害タルコト少カラス、正ト邪ト、并ニ、美妙ト、其反體トハ、徒ニ、  
人心ノ理會タル者ニハ非ス、此等ノ者ハ、皆客觀上、現實ノ存在ヲ、有スル  
者ニシテ、實在ナリトシ、而シテ、此心ハ、其實在ノ儘ニ、之ヲ認メ、何ニテモ  
一定ノ行事アレハ、之ヲ、正ナリ、邪ナリト、知覺シ、又其實在ノ儘ニ、循ヒテ、  
義務アリ、若シハ、義務ナシトシ、是ニ據リテ、以テ、其事業ト、其事ヲ行ヒタ  
ル人トナシ、善シ、若クハ、之ヲ罪スルナリ、此事ノ智ニ關スルハ、是ニ過キス  
トス、然ルニ、其運用ハ、茲ニ止ラスシテ、依リテ以テ、感性ヲ提起スルナリ、



此時、辨決力ノ審判處決ハ、平靜ナレド、感動ヲ以テ、之ヲ受ケテ、此心ノ發作ニ、更ニ新形狀ヲ、起シムルノ根源トナリ、機會ヲ假スナリ、余カ茲ニ論スル所ハ、此正邪ヲ觀テ、感性ノ發動スル事ニ在リテ、固ヨリ吾人ノ道德上ノ、知覺辨決ヲ以テ、情ノ此種中ニ、混一スルコト、能ハサレド、然レド、此心ノ發用ノ諸形狀中ニテハ、猶此情ニモ切要ナル地位ヲ、歸スヘキナリ」

我自己ニ  
ノミ限ラ  
サルヲ論  
ス

余カ述ル所ノ情ハ、我自己ノ德行ノ事ニ耳、關スルト、限ルニ非ス、又他人ノ德行ヲ、觀テモ、亦發スル所ニテ、善行、仁惠ノ事、義俠、奮勇ノ業ハ、誰カ之ヲ爲ストモ、皆我カ稱美ニ屬シ、我カ心、胸ニ、快樂ノ感動ヲ、起サシメ、若其事タル、尋常ノ豪氣、所有ヲ捐ツルノ器ヨリ、一層高キニ涉レハ、吾人、直ニ、滿胸ヨリ、驚歎スルナリ、而シテ、其相反スル事例アルニ當リテハ、我カ不快厭惡ヲ、生スルコト、常ナリ、是ヲ以テ、此情ハ、吾人、歷史上ノ傳記ヲ閱シ、稗史ノ紙葉ヲ翻ヘスニモ、大ニ切要タル者ニシテ、我カ觀ル所ノ事件ノ始末、品性ノ起發ト共ニ、陸續トシテ、此情流動シ、我カ徳性ノ欲スル所、或ハ一致シ、或ハ支吾シテ、以テ、其趣ヲ成スナリ

獨知ノ善 然レド、吾人、此道德上ノ情ニ就キテ、其眞個ノ性質ト、勢力トヲ、曉知シ得

ナルハ、普  
通ニ欲ス  
ル所ノ目  
的タルヲ  
論ス

ルハ、首トシテ、吾人、自其場裏ヲ踏ムノ人トナリ、之ヲ獨知ニ判シテ、自己ノ行實ノ、善惡ヲ觀スルノ際ニ、在リトス、世ニ言ヘルコトアリ、獨知ノ善ナルハ、人ノ普ク欲スル所ナリト、何トナレハ、不善人サヘモ、縱無益ニ屬スルモ、獨知ニテ、肯ソスル所ノ、幸福ヲ願ハサル者無レハナリ、此言、獨知ヲ罪スルハ、人ノ普ク、畏難スル所タリト、云ハ、恐ラクハ、一層正シカルヘシ、然ルニ、獨知ニテ、善スルモ、罪スルモ、孰ニテモ、此情ノ、獨知ヲ動カスハ、人心ニ於テ、甚大ナル者ナリ

獨知ノ善  
キハ、堪忍  
力タルヲ  
論ス

吾人、凡ヘテ又、獨知ノ善ニ就キテ、知ルコトアリ、是他人ノ視察ヲ受ケテ、然ルニ非ス、我カ自己内心中、意識ニ於テ、然ルナリ、我カ躬行之ヲ、獨知ニ證シテ、善トシ、自靜ニ、思慮シテ、心ニ慊カラサルコト、無キニ至リテハ、此

中ニ、我カ生ノ、快樂中ノ、至樂至純ナル者アリテ、存スルナリ、是不意ノ毀譽媚嫉ノ、遠スルコト、能ハサル處ニシテ、其泉ヲ定ムル所ノ、享樂ノ源々斷エサル者トシ、又、カノ沙漠ノ中ト雖モ、其荒涼寂寞ヲ、慰スル所ノ、噴泉トス、且又、此情、堪忍ノ力ヲ有シ、意識ニ正氣アリテ、危害ニ遭ヒ、抑壓ニ際スルノ瞬間ニ、在リト雖モ、内心ニハ、猶微聲ノ我ヲ善ニスルアリテ、汝正



ナリト、咄囁シ、以テ、我カ疲倦セル靈魂ヲ、扶助シテ、勇氣ヲ勵マシ、力ヲ戮ハスル者ニテ、是決シテ、他ノ源ヨリ出ル者ニ非ス、此獎勵ニ依リテ、我カ靈魂ハ、痛苦ノ酷烈ト、外部艱難ノ抑壓トヲ、蟬脱シテ、其上ニ超然タリ、是怯者ヲシテ、勇ニ、弱者ヲシテ、強ナラシムル、所以ニシテ、カノ耶蘇寺院、歴世ノ青史ニ表シテ、身ヲ殺シ、仁ヲ成シ、以テ、光輝ヲ垂ル、所ノ奮勇敢爲ノ秘密ハ、蓋多シ、此ニ存スルナリ、カノ婦女ノ若キ、兒童ノ若キ、其性脆弱ニシテ、世ノ公論ニ敵スルハ、極メテ難ク、慘痛苦楚ノ事ハ、一思縮退スルヲ、常トスル者ニ在リテ、千衆憤怒罵詈ノ中ニ立テ、平心之ニ面シ、意ヲ決シテ、其至慘驚嚇スヘキ酷刑ニ遭ヒ、死ヲ見ルコト、歸スルカ如クナリシハ、唯一片自善ニスルノ獨知、其勢力ヲ以テ、之ヲ支柱シタリシナリ、蓋此時ニ當リテ、其獨知ノ決斷ハ、此等ノ人ニ在リテ、世間ノ毀譽ヨリ重キ、亞伯士ノ如ク、其獨知ノ支柱カハ、カノ預言者ノ火車ノ如ク、酷刑ノ苦楚ト、憤然タル人衆ノ激怒ヲ、超脱セシメテ、此等ノ人ヲ、其上ニ、卓然メラシメタルナリ

悔恨ノ力

獨知ノ罪スル勢力モ、亦輕キニ非ス、其善セサルト、依リテ以テ、罰セラル

チ論ス

トハ、國王ノ威頓、軍隊ノ接近ヨリモ、一層怕ルヘキ外ニテ、縦ヒ外部ニ、威權アル表章ナシト雖、默然トシテ、恆ニ心裏ニ現ハレ、是ヨリ遠ル可ラス、又、是ト和ス可ラス、人生ノ幸福ヲ剝キテ、人ヲ苦シメ、靈魂固有ノ、發力神經ヲ切斷ス、是猶、骨中ノ火ノ如シ、他人嘗テ、疑ハスト雖、唯其責ニ、任スヘキ人ノミ、其燒燬ヲ受ク、是猶、胸腹ノ間ニ、帶セル芒刺ノ帶ノ如シ、他人ノ眼ヨリ、視エサルコト、アリ得ルト雖、晝夜トナク、佩ル者テシテ、違アキ休セサラシム、獨知ノ人ヲ罪スルハ、厲聲叱責スルニ非ス、唯罪アル靈魂ニ於テハ、其内部深室ニ侵入シテ、恆ニ之ヲ異縮セシム、其心ヲ震動スルヤ、怒獅ノ號吼シテ、森林震動スルカ如ク、又蒼溟淵漭ノ中ニ在リテ、カノ造物主、颶風ノ翼ヲ張り、皇々タル上天、雷霆ヲ鼓シテ、海嶽ヲ震蕩スルカ如シ、不善ヲナスノ人、獨知ノ罪スル聲ヲ、聽ク時ハ、勇猛ナリト雖、其體力、忽テ萎靡消滅ス、其心、衆惡ニ因テ、毀傷セラレ、罪業ニ因テ、堅實ニナリ、人目ヲ恐レス、天理ヲ恐レサル者、其聲ヲ聞クニ及ヒテハ、唯兒子ノ心ノ、如クナルナリ

嗚呼、悔恨ノ恐ルヘキ、此ノ如シ、此虫ヤ、死スルコトナク、此火ヤ、燃スルコ



トナシ、吾人ハ、人ノ露魂ヲ論スル、其現在ニ生存スル景況ノ外ハ、之ヲ言フコト能ハス、然ルニ、或自ヲ信シテ、疑ハサル者ハ、未來ニ於テハ、獨知ナル者、甚々増加セル勢力ヲ以テ、行動スヘシト、云フ説ヲ執リ、ソレ現在ニ於テ、獨知ノ十全ナル開發ト、完好ナル發作ヲ、沮壓シテ、之ニ叛カムト謀ルノ因由、既ニ消滅シテ、行動スルコトナキ時ニ當リ、其行進戰鬪ノ騷亂、既ニ經過シタル時ニ當リ、其注意、快樂、誘惑、無益ノ營求等、總テ現在ニ在テ紛混喧嘩ノ、此心ヲ擾亂スル者、縹渺ノ間ニ消滅シ去リ、其聲響タモ、聞ク可ラサルノ、時ニ當リテ、カノ遠永靜寂ノ間、純然タル精神ノ、存在ニ於テハ、恐ラクハ、未曾テ聞カザル、獨知ノ聲、猶微細ナリトモ、能之ヲ聞クコトヲ得ヘシ、今ソレ、吾人事務、忽遑ノ、晝日間ニ在リテハ、間、遠洋ノ波動ヲ、聞キ得ト雖、猶低聲喃々ノ、咕嚕ノ如シ、然ルニ、中夜靜寂ノ時ニ至リ、萬事皆休ム時ニ方リテハ、其怒濤狂浪ノ、陸續トシテ、岸邊ヲ打ツチ、聽クナリ、蓋未來ニ於テ、獨知ノ勢力ニ於ルモ、亦此ノ如キ歟

第二部 情款ヲ論ス

第一篇 善意ノ情款

情款チ一  
種トスル  
品性ヲ論  
ス

感性ヲ區分スル、三種類、即チ、情緒、情款、并ニ、欲ノ中ニテ、今マテ、吾徒ノ意ヲ、注セシム、唯第一ノ者ノミ、故ニ、今ハ、第二ニ及フナリ、依テ、讀者ハ、余カ、感性ヲ分解シタル時ニ、情款ヲ、情緒ヨリ、區別シテ、組織セル品性ヲ、具ヘメリトシ、其物體ニ就テ、愉悅適意若クハ、其反對ノ感動ヲ、含ムカ上ニ、其情ヲ挑發スル物體ノ、善ナラムヲ願ヒ、惡ナラムヲ欲シテ、多少定着甚切ナル形狀ヲ、表スル者グリト、言ヒシハ、正ニ記スヘキ所ナリ、是ヲ以テ、此感動ハ、自己ヨリ進行シテ、能動過向ノ形狀トナリ、或ハ、專ラ其物體ニ、注意スルヨリ、自己ヲ忘ル、コトアリ

其區分何  
如ヲ論ス

此情款ハ、其向注スル物體ニ就テ、或ハ其善ヲ欲シ、或ハ其惡ヲ欲スルニ準シ、再ヒ之ヲ區別シテ、善意ト惡意トニナセシム、亦讀ム者ノ、記スヘキ所ナリ、カノ情緒ノ若キ多般ノ形狀ニ、分ルト雖、喜悅憂愁ノ變形タルニ過キサルカ如ク、情款ニ至テモ亦同シク、愛ト、其反對タル、惡トノ本元ノ、多般ニ變革シタルニ、過キサル耳

此情較著  
ニ間發ス

此情、一個人ノ品性總體ヘ、氣韻ヲ假ス時ハ、其人、其中ノ一本元旺スルニ準シ、或ハ仁者トナリ、或ハ、不仁者トナリ、或ハ、溫柔懇篤ノ人トナリ、或ハ



ル時ハ品、性ニ效驗ヲ表スルヲ論ス

同人ヲ厭惡スルノ人トナル此情款ノ發作尋常ヨリ一層深キニ至リ理性ノ控勒ト嚴正ナル辨決ノ詰命トテ破却シテ直チニ靈魂ノ令ニ從ヒ之ヲ其欲スル所ノ目的ニ德憑シテ他ノ至高ナル切要ヲ遺却セシムルニ及ヒテハ情欲ノ名目ヲ冠スルニ至ル此ノ如キ時ハ其人其欲スル所ヲ遂ムトシテ警突狂衝至ラサル無ク世ノ笑具トナリ舟子ナキ船ノ風濤ノ間ニ漂然タルカ如シ然ラサレハ自己ト此天然ニ心腸間ニ固有スル情ト相争闘シテ其殘酷ヲ極メ堅忍ノ手ヲ以テ自己ノ騷擾炎烙ノ精神ヲ把住スルニ至ル

情緒トノ關係ヲ論ス

此情款ハ情中ノ一種類ニテ情緒ト相待ツ所ノ關係アリは一注意ヲ要スルニ足ル此一種ノ情ハ自然ニ他ノ一種ニ繼テ出テ其情ヨリ生長スルヲ常トス故ニ吾人喜悅スル所ノ者ハ自然ニ愛情ノ感動ヲ以テ之ヲ視其痛苦ヲ起ス者ハ自然ニ好マサルヨリ厭惡スルニ至ル是ヲ以テ愛惡ハ其觀ル所ノ目的ニ就テ我カ心ノ喜愁ニ繼キ來リ常ニ先々情緒生シテ後ニ情款ヲ生スルニ至ルナリ

名目ヲ枚

凡ソ善意ノ情款即チ本篇ニテ專テ講究スル者ハ其目的ノ各自ニ別ナルニ從ヒテ其形狀モ諸種アリ其中尤ナル者ハ親族ノ愛朋友ノ愛恩人ノ愛住處并ニ本國ノ愛ナリ余將ニ此順序ニテ之ヲ論スヘシ

第一章 親族ノ愛

此中ノ包含何如ヲ論ス  
對手ノ關係ヨリ發スルニ非スト云フ  
説ヲ論ス

吾人此頭項中ニ慈育ノ愛孝順ノ愛友悌ノ愛ヲ兼マリトス是皆同一本元關スル所ノ對手異ナルニ從ヒ變態アル者ナリ此情款ハ對手ニテ交互ニ相維持スル親族ノ關係ヨリ生スト云フハ余カ未ダ肯定シ能ハサル所ナリ然レ或人ハ此見解ヲ取レリ余ハ寧ロ吾人ノ性中ニ賦與セラレタル固有ノ一本元ナリトシテ之ヲ視ムト欲スルナリ然レ此情此關係ニ因テ甚シク響動ヲ受ケ依テ以テ増加スルニ至リ又此情能此關係ト的然トシテ相合投スル者タルハ余謂フ何人モ拒ミ能ハサル所ナレレ余ハ猶固有セリト思フナリ嗚呼此關係ノ親密奇異ナルハ幾何シヤ譬ヘハ父母ト兒子ノ間ニ存スル關係ノ若キ父母ノ心腸ヲ其所生ノ身體平安ニ盡サシムル情ハ其深ウシテ且強キコト幾何シヤ其關係ハ情ト相通シテ情ハ亦關係ト相

然レ此關係ト能適合シタルヲ論ス



結フナリ、故ニ、此關係ノ促カシテ、本分ヲ盡サシムル者、凡百懇切ノ事役ヨリ、其要スル所ノ注意詳慮ニ至ルマテ、此情款ノ強力陸續間断ナキ者ニ因テ、衝動セラレ悉ク欣然之ヲ遂ケ、之ヲ成サシムルニ至ルハ、其親密ナル、ハタ何如シヤ、蓋シ、此情款ナシト雖也、其關係ハ、固ヨリ、存スヘクシテ同一ナル親懇ヲ以テ、其事役ニ服シ同一ナル懇懃ヲ以テ、之カ注意ヲナスヘク、且理性ニテ、其事ヲ執ルノ當然ト必用トヲ指スコトヲ得ヘシト雖也、行事ノ動機タル者、唯理性ノ詰命ノミニテ、其當然ヲ盡スノ意ニノミ、出テヌラハ、幾何カソレ、詳備ニ欠ルコトアラム、況ヤ、其時情ノ要スル、欠ク可ラサルノ急アルニ、臨ミテハ、諸チ、カノ強盛温和ナル父母ノ情ノ、凡百勞响ヲ以テ、快意ナリトシ、凡百物品ヲ捐テ、願ミサル者ニ比較セハ、ハタ、如何シヤ、是父母、其附托ヲ受ケタル、無告ノ兒ノ爲ニ、堪忍厭フナキ所ナリ、蓋シ、吾人ノ性中、正ニ此本元在テ、以テ能、令指シタル關係ヨリ、生スル多般ノ需用役務ニ、供スルノ急ニ、充ル者ニシテ、人心ノ性分ニ於テ、大作者ノ洪圖ノ、仁善ナル、之ヨリ著シキハ、莫シカノ長夜、曉鐘ヲ遲シト、スルノ際ニ當リ、疲倦ヲ極メタル母氏ヲシテ、病兒ノ牀ニ、降時ノ交

應ヲ許サス、以テ、看護セシムル者ハ、慈愛ニ非スシテ、ハタ、何物ソヤ、其安全ヲ計ル爲ニ、資ヲ捐テ、貨ヲ費ヤシ、辛苦ヲ厭ハス、快心以テ、之ヲ堪エシムル者ハ、此愛情ニ非スシテ、ハタ、何物ソヤ、自ラ饑餓ニ、堪エサルモ、カノ瓜々、麵包ヲ求ムル者ニ、其最後ノ一片ヲ分賦シ、自ラ凍寒ヲ以テ、死スルモ、寒風ノ怒威ヲ、護セムトシテ、其側ナル稚兒ヲ、覆フニ、己レカ肩ノ襯衣ヲ以テス、而テ、其甚シキニ、及ヒテハ、其兒ノ安全ヲ、護スル爲ニ、自ラ甘ンシテ、其性ヲ危ウスルコトアリ、此等ノ比喻ハ、此情款ノ強力、此ノ如キ辛苦ヲ願ミス、自ラ盡スコトヲ、憚カラサルニ、促カシ得ルチ、示ス耳ナラス、并ニ又、此情ノ強キハ、之ヲ長スル爲ノ謀圖ニシテ、能此目的ニ適當シタルチ、証スル所ナリ

此情款ノ  
普通ナル  
ヲ論ス

慈育ノ情款ハ、普通ニシテ、一國ニ限ルニ非ス、一世ニ限ルニ非ス、又其社會ノ景況ニ依ルニ非ス、一ノ時例ニテハ、強ク、他ノ時例ニテハ、弱キニ非ス、恆ニ、吾人性中、諸本元ノ中至強至健ノ一ナリ、是獨リ、人ニノミ限ルニ非ス、靈智ノ下等ナル者ト、人ト共ニ、通有スルノ情タリ、山禽野獸モ其兒子ノ爲ニ、強烈ノ情ヲ表スル、人ノ同シ境遇ニ處スルカ如シ、北海氷上ノ



白熊獵師ニ追趕セラレタル時ハ、自ラ其兒ト獵師トノ間ニ投シテ、其防禦ノ爲ニ、死ヲ致スト云フ

凡テ此等ノ境遇ニ際シ、論題ナル感性、其特別ナル急遽ニ應シ、密ニ相合投スルハ、之ヲシテ、機ヲ失ハサシムル爲ノ、圖略タリト見エ、此情款ノ、強ニシテ、機マサルト、其作用ノ普通ナルト、人獸ニ通シタル事實トニ據レハ、凡テ此論題ナル本元ハ、天地ヲ製造セル手ニテ、我カ性中ニ種植セラレタル本能、固有ノ者タリト、視サルヲ得サルナリ

境遇ニ依  
テ強クナ  
ルヲ論ス

然ルニ、固有ノ本元タレハ、習俗境遇ヨリ、來ル者ナラスト雖モ、愛ニ述ル情款ハ、其父母ト兒ト、交互ニ相處スル境遇ト、并ニ又、慣習ノ勢力トニ因テ、甚ク態度ヲ變シ、強盛ニ至ルハ、疑フヘキニ非ス、此情モ亦總テ、我カ性中、能動ノ諸大本元ノ如ク、自ラ習慣熟スルニ因テ、其發達ヲ増スノ理法アリ、故ニ、小兒ノ監視保傅ヲ、他ノ手ニ讓ル時ハ、其新タニ、附托セラレタル心腸ニ、慈愛ノ情ノ如キ者、發生スルナリ、蓋シ、吾人ハ、總テ我ニ屬シ、我ニ依頼セラレ、之カ爲ニ、我カ力ヲ盡スヘク、要セラレタル者ヲ、愛スルコト、吾人天然ノ理法ト、見エタリ、我カ掛慮スル者、愈、我ニ服屬シテ他ニ無

告トナリ、我カ盡ス所ノ力、愈、大イニ、我之カ爲ニ堪ユル所ノ辛苦、愈、甚シケレハ、我ノ之カ爲ニ、注視感動スルコト、愈、倍スルナリ、今ソレ、貧人ノ、僅々ナル食卓ノ周圍、若シハ、晩間ニ方リ、爐火ノ側ニ、團欒スル小群集ニ於テハ、其嫩軟ノ愛、他ヨリモ、一層深ク、其目ニ觸ル、コト他ヨリモ、一層展ナルニ從ヒ、之ヲ掛慮スルコトモ、一層甚シク、此ノ如クナレハ、其病牀ヲ顧ルモ、種メテ展ニシテ、其焦慮モ亦極メテ周到シ、之カ爲ニ、己レカ生計ノ歡樂ヲ、減スルコトモ、亦展ナリ、此ノ如ク、己レヲ盡ス毎ニ、其快意ニテ、堪エタル辛勤勞苦ノ時、毎ニ、看視懈ルナク、悄悄憂慮スルノ夜、毎ニ、注意間斷ナク、専心其事ニ供スルノ日、毎ニ、慈愛ノ情ハ、愈、深クナルナリ、而テ、吾人性中、同一理法ノ作用ニ因テ、其意ヲ注スル者ニ於テハ、父母ナラサル者ト雖モ、同シ境遇ニ處スル時ハ、其感スル所亦殆ト同一タルハ、疑ヒナシ、然ルニ、此ノ如キ、時例ニ當リ、其情款、縱ヒ、性質ニ於テハ、同一ナリト雖モ、父母ノ愛ノ、甚烈熱心、深ク且強キト、果シテ、均稱スヘキヤ、否ヤニ於テハ、之ヲ疑フモ、道理ナシトセス

母ニ於テ 此慈育ノ情款ハ、男女ニ通スト雖モ、其尤モ十分ニ開達セルハ、母氏ノ心



ハ其至強 鵬ニ在リ然ルニ其注意ト努力ト母ニ開發スルノ度一層大ニシテ比較ナルヲ論ス

ニ於テハ一層強キ愛ヲ提醒スルハ是上ニ既ニ指示シタル本元ノ自然ナル效用ナリヤハタ其時機ノ急ヲ周ウスル爲ニ天然ニ固有セシメタル預備ナリヤ是吾人唯我ヲ周匝スル境遇ニ人性ヲ適合セシムル事實ノ美妙ナル上ニ觀ルコトヲ得ルノミ

其子ヨリ 父母ノ子ニ於ケル愛ハ子ノ父母ニ於ケル愛ヨリモ一層強シトス是蓋モ父母ニ於テ強キ於テ強キ

シ然ラサルヲ得サルノ必須ナリ然レ人心ニ於テ具ハル凡百情款ノ中ニハ孝順ノ愛ヨリ美妙ニシテ能人ヲ動かスノ情ハ非ス是ニ反シテ人性ノ景象ニ於テ其不十分ナルヨリ淒涼ナル者ハ非ス或ハ時トシテ不孝ノ演劇叛起スルコト有ルガ如ク正ニ仁厚ノ人擧リテ憤怒憎惡スル所ノ演劇ナリ子既ニ長シテ成人トナリ己カ生レタル老母ヲ遺忘シ其躊躇タル歩ヲ扶クルヲ耻テ或ハ其父ノ生計ハ全ク其子ノ注意努力ヲ仰クニ至リ之ヲ單獨缺乏ニ委スル若キハ人之ヲ疏賤シ思慮ナキ世人スヲ之ヲ侮リ苟モ其說視ルニ足ルノ人ニ在テハ之ヲ譏笑ス是固ヨリ其自ヲ取ル所ナリ

又孝順ナル情款ノ強キニ至テハ古來其貴重スヘキ事例鮮シトセス蓋シ父母ヲシテ其兒ヲ護スル爲ニ死ヲ犯シテ憾ミトセサラシムレハ子ノ其父母ヲ護シテ死ヲ取ルコト縱ヒ稍稀レニ屬スルモ亦宜ナラスヤソレ慈愛ト孝愛トノ情ハ蓋シ人間社會ノ善徳因テ以テ立ツ所ノ基礎ニシテ凡百至高至貴タルノ心腸ヲ鑄造シ人ノ品性ニ於テ眞ニ大貴重ノ基礎ヲ立ツ此響動ヲ免レタル人亦能實ニ社會ニ在テ利用名譽アラサルニ非スシテ其事例モ鮮カラスト雖也然レ是寧ロ例外ノ事ナリカ

ノ心意胸懷ノ景象一層善良ニシテ其發達至確ニシテ來世ノ迷惑患難ヲ免ル爲ニ完全無疵ナル性質ハ慈愛恭敬一家親睦ノ響動風化ノ中ニ在リトス

又家居温和柔順ノ情ハカノ品性ノ威重莊嚴歷世ノ史乘ニ於テ其眞ニ大英傑ノ生平タルヲ稱譽スル者ト共立ス可ラサル者ニ非ス古往來今ニ在リ詩家モ之ヲ知悉シ畫工モ之ヲ掬取シ而テ辨折家ニ在テモ熟クノ思想ノ線圖ヲ設ケテ之ヲ指示セリ此情能勇壯ナル

亞季拉利斯 和墨耳



伯里亞謀カ懇求スル段ニ於テ無上ノ美妙ヲ加ヘ殆ト人ヲシテ叫死ニ至ラシメ又委爾濟拉ハ埃內德ノ勇士ノ品性ハ何如カ之ヲ形容シ得テ善キヲ知リ此情ヲ以テ其至微ナル粉粧ノ一ツトナセリ而テ又拿破崙ノ其兒ニ於ケル愛情格朗空ノ其女ヲ失ヒタル時ノ憂悶ノ若キハ家族ノ情愛ヲ以テカノ繁劇ノ世ノ激烈艱難ノ場地ト相並ヒテ其光輝ヲ發スルコト恰モ暗夜ノ空ニ一微星ノ爛々タルカ如シ

第二章 朋友ノ愛

交道ヲ稱スル説ノ多キヲ論ス

人ノ心腸ニ存スル善意ノ情款中ニテ朋友相交ルノ情ハ其中ノ至淨至貴ノ一ツトシテ視ルコト常ナリトス之ヲ稱揚スルハ詩家モ道德家モ交相爭フニ至リ加旃吾人凡百能動ノ本元ハ皆自愛ニ出ツト云フ説ヲ執レル哲家ニ在テモ我カ情中ニテ此情尤モ自私ノ少キ者ノ中ニ在リト容レダリ蓋シ此情ハ人生ノ急須ニシテ性中固有ノ一部タルハ疑ヒナキ所ニシテ總テ其等傑中ニ已レカ好ム人ナク其朋友ト稱スル者ナキ人ハ吾人普通人情ニ於テ其至微ナル表象形質ヲ稍失フコト必セリ而テカノ純淨高尚ナル友情ニ至テハ仁善良貴ナル心ノ標ヨリ

友情ハ何如ナル境遇ト相關スルカヲ論ス

今此情ハ一事例ニ當リテ何如ナル處ヨリ生スルカ又如何ナル本元ト境遇トノ上ニ本ツクカ之ヲ講究セムト欲セハ吾人速カニ發見シ得ル所アリ是此情ノ生スル其因由一ナラスト雖也首トシテハ兩友ノ多少親密ニ相識ル上ニ在ルナリ故ニ我カ方ニ在テ其友ト呼フ人ニ高貴ナル形質アリト稍之ヲ知覺シ并ニ又其形質ヲ稍評値スルコトナキヲ得サルハ實ナリトス苟モ友トスルニハ其慧敏ヲ愛シ其勇壯ヲ愛シ其丈夫タル氣力膽略ヲ愛シ其道學上ノ德行ヲ愛スル等ニテ少クモ其地位功業等ニテモ愛スル所ナキヲ得ス凡テ此等ノ事其人ニ就テ我カ評値取捨ニ參見スル所アリテ其人ニ我カ友情ヲ表スルノ基本タリト云ヘリ然レ交友親懇ノ情直チニ生スル所以ハ悉ク皆此境遇ヨリスルニ非スシテ親シク其人ト相識ルニ在リ人ノ高邁ナル資質良貴ナル品性ヲ嘆賞貴敬スルハ直チニ之ヲ友情トハ謂フ可ラサレモ密ニ之ト相渉ル者ナリ此等ノ事稍廣キ意ニテハ此情款ノ立ツ基礎トナスヘク又基礎タルニ疑ヒナシト雖也此等ノ事直チニ此情ヲ生スル原由タルニハ非ス此等ノ事ハ親シク相識ルノ機會ナキ時ニモ存スル者ナルニ又一ニ



ハ、我カ舊來ヨリ、單素ニ相識ル人ニテ、我カ自己忠心ノ辨決ニテハ、才智ニ於テモ、幸福ニ於テモ、靈魂ノ高貴ナル品質ニ於テモ、他人ヨリ勝レタリト、表言ス可ラザル者トテモ、却テ相熟シテ、其親愛、深ク且永キニ至ルコトアリ

相識ノ親愛ニ至ラシムル何如ヲ論ス

是何ニ依ルヤト云フニ、余疑フ、是專テ相識ニ依テ、恆ニ愛貴スヘキ事ヲ、啓示スト云フ事實ニ、依ルコト非ス、余固ヨリ、此事例ノアリ得ルコトヲ、容レムト欲スレド、前時ヨリ、特ニ恭敬ヲ表セザリシ人ニ於ケル、亦相熟スルニ依テ、特ニ之ト親懇ナルノ理ナシ、然ルニ、其親愛ニ至ルノ因由ハ、寧ロ、吾人ノ伴生ト、名クル所ノ、心意發動ノ一理法ニ、係ハルト見ユ、蓋シ、吾人舊來ヨリ、久シク、親密ニ、知ル朋友、又夙歲曾テ、動モスレハ、アリ得ル事例ノ如ク、彼此ノ盛時ニ於テ、相知リシ朋友ハ、我自己ノ履歷ト密ニ相結合スルコトアリテ、其生境ト、我カ生境ト、兩々相經過シ、カノ別株ヨリ、生シタル葡萄蔓ノ、其枝相組織シテ、目ニハ、一本ナリト、見コルカ如キコトアリ、是我ニ關スル事ニ因テ、友人トノ密ナル連絡ヲナス者ニテ、其履歷ハ、我カ履歷ト連絡シ、其生境ハ、我カ生境ト組織シ、以テ我共友ヲ見テ、切

要眷戀ノ情ヲ感スルニ、至ルコト多シ、是恰モ、其人ヲ以テ、我カ一體トナスカ如シ、其人ヲ懷ヘハ、我カ心ニ、愉快ナル追想ヲ提醒シ、ガノ共ニ、與ニシタル遊歩、講學、諧謔、諸種ノ享樂、諸種ノ憂愁ニ就テ、愉快ナル理會ヲ、伴生セシムルナリ

生ナキ物ヲ眷ルテ論ス

此同一ナル本元ハ、又生ナキ物體ニマテ、遠スル者ニテ、カノ習熟セシ土地風景ノ若キ、兒タリシ時、常ニ、遊行セシ郊野ノ若キ、少時、讀シ書籍ノ若キ、住ミ、慣レシ家室ノ若キ、加旃日夕慣用ノ器械ノ若キ、凡テ此等ノ者ハ、自己ト、相伴フニ因テ、之カ爲ニ、親愛ノ意ヲ、生スルカ如シ、又カノ囚人、多年、獨居ノ房ニ、幽閉セラレタル者ノ、久ウシテ、竟ニ、放免ノ期ニ、至リタル時、其正ニ閉ラレタル四壁ニ、眷顧ノ意ヲ、存シ、最後ニ至リ、之ヲ盼視スルカ如キ、少シク、淒涼ノ意ナキニ、非ルナリ、又カノ疆場ニ於テ、屢、慣用シタル劍ノ、老卒ニ於ルカ如ク、向後ハ、之ヲ以テ、多クノ苦戰セシ戰野ト、多クノ危殆ナリシ功業ノ目ニ、觸ルト、遺象トナルナリ、此ノ如キ、刀劍ハ、如何ニ、鈍刀ニテ、鏽トタリ、田素朴ナル鐵鞘ニ藏メ、拙劣ニシテ、裝飾アルナキモ、之ヲ有スル者ハ、之ヲ純金ノ刀ト、易フルコトヲ、欲セサルヘシ、故ニ、伴



生ノ本元、カノ非生體ニスラ、此ノ如ク密ニ附着スル者ナレハ、吾人、我カ  
同類ト、親愛スルニ於テ、其元行トナルノ、居多ナルハ、亦怪ムニ足ラサル  
ナリ

他ノ助資  
ル源由  
ヲ論ス

然ルニ、他ノ源由ヨリ、以テ同一ノ效驗ヲ、生スヘクシテ、尋常、此事例アル  
ハ、余カ否定スル、能ハサル所ニテ、唯相識リ、相伴ヒタレハトテ、必ス親愛  
ニ至ルコト、不易ナリト、謂フ可ラス、唯必ス同感ハ、稍ナキヲ得スシテ、意  
思感動ノ性ヲ同ウシ、利益ノ稍相通シ、營業、好欲、冀望等、何ニテモ、兩者ノ  
心ニ、相通スル者、ナキヲ得スシテ、之ナキ時ハ、兩者ノ間ニ、親愛生スルコ  
ト無シ、唯相識ト、同場地、同事業ニ、従事スルトハ、此相通スル地ヲ爲ス、稍  
廣シトス、然ルニ、前時曾テ、相伴フコト、無キ時サヘモ、其兩者ノ心ニ、此ノ  
如キ同性同感ハ、生シ得ル者ニテ、各自ノ雅趣、感動、目的、志尙等ハ、全ク合  
體シ得ヘキ者ニシテ、其親愛ヲ熟シテ、強ク永キニ、至ラシムルノ時機ヲ  
ニアレハ、各相引クカ如ク、思フニ至ルナリ

差異ハ親  
愛ト並立

又眞ノ親愛ニ至ル爲ニハ、十分ノ同性合一アルコト、必セリト、謂フ可ラ  
ス、是心意ノ形質ニ就テモ、品性ノ發達ニ就テモ、其中、諸般ノ事ニ於テ、至

ス可ラサ  
ル者ニ非  
ルヲ論ス

大ノ差異ノ存レ得ル者ナルヲヤ、蓋シ此ノ如キ差異アルハ、其稍廣キ度  
ニ至ル所、差異ナキヨリハ、却テ愛親ニ便宜アリトシテ、視ルヘシ、故ニ、吾  
人屢、他人ニ於テ、我ニハ缺ケタリト、思フ性質アルヲ、却テ歡賞シ、我カ朋  
友ヲ選フニ、其事ニ就テハ、其人ノ天稟、殊ニ勝レタルヲ、以テ、稍我カ黨ノ  
欠處ヲ補フニ足レリトスルコトアリ、是ヲ以テ、兩人ノ性質殊ニ相反セ  
ル處ニ在ル者、此ノ如クニシテ、甚タ強キ親愛ニ至ルコト、屢、アリ、天資ト、  
品性ノ發達トニ就テ、此ノ如キ差異アルハ、他ノ事ニ於テ、見解ト感動ト  
ノ至密ナル同感アルハ、有ル可ラサルノ事タリト、謂フ可ラサレハ、亦至  
熟ナル親愛ナシト、謂フ可ラサルナリ

親友ノ數  
限ヲ論ス

眞ノ親愛ハ、二人ノ外ニ存スヘキヤ、否ト、是古、昔ノ、哲家ニ在テ、講究セル  
所ナレト、恐ラクハ、空論ト謂フヘシ、何故ニ、此情款ノ、此ノ如ク、多數ヲ許  
サ、ルカ、是一モ、道理ノ論スヘキナキ所ニシテ、事實ニ於テ、此ノ如キ限  
局ヲ、立證スヘキナシト見ユ、今我カ相識ノ中ニ、一ノ新友ヲ加フルモ、余  
カ前時ノ朋友ニ對スル情ニ、一照ノ損ヲ生スルコト、必然ナラス、又其朋  
友ニ於テモ、猜疑嫉妬ヲ發スルコトナシ、故ニ、此所ニ就テハ、朋友ノ親愛



ハ、カノ男女間ノ愛ト、異ニシテ、男女ノ愛ハ、其性、他ヲ容レサル者ナリ。然ルニ又同時ニ、其廣狹ニモ、界限アリテ、友人ノ數、許多ニ至レハ、其各位ヲ均シク甚々強ク親愛ス可ラサルハ、固ヨリ當然ナリト、謂フヘシ。是士低瓦的氏ノ云ヘル如ク、此ノ如ク、界限ナキ親愛ハ、實ニ冷淡自私ノ標徴ナルコト、稀ナルコトニ非ス。是其自己ノ利益ノ爲ニ、他人ト、相識ヲ求ムルヨリ發シ、其交義ヲ願フ所ノ人ヲ、實ニ親愛スルヨリモ、却テ其社友ヲラシテ、欲スルナリ、蓋シ眞淨ノ交義ハ、其友ヲ選フコト、一層精確ナルヲ常トシ、其品性、全ク私利ノ計較ニ、非ルナリ、カノ情意ナウシテ、徒ラニ計較ノ略ニ出テタルハ、其性質ニ、一モ此ノ如キ處ナシ、故ニ交情ハ、絶テ、私利ヨリ發スル者ニ非ス。加旃、謀慮先見ニモ、涉ラスシテ、唯之ヲ蓄フル心裏ニ淨純恆久ノ烙熱アリテ、指目スル目的ハ、既ニ地上ニ存セサルノ時スラ、猶熄マサルナリ、故ニ、吾人ノ親愛ハ、唯此生ニ、限リタルコトニ非スシテ、既ニ見ルヲ、得可ラサル人モ、襟懷ニ往來シ、既ニ我カ室、我カ煖爐傍ニ招ク可ラサル人モ、胸臆ニ來ルヲ、得ヘシ。

偶然ナル  
生路ノ蹉跌、福履ノ變遷、健康疾病ノ故、貧富ノ代替、位置聲望ノ事ハ、一次

境遇ノ效  
驗ヲ論ス

結ヒタル眞ノ交情、帶礙ヲ緩カラシムルニ、稍勢力アレバ、多クハ、以テ其強弱ヲ、驗スルニ足リ、其強力ヲ、壞毀スルニハ、非ス、眞ノ親交ハ、我カ友人ノ轆軻ニ遭ヒ、却テ、其膠漆ヲ増シ、而テ、其福履凋衰シ、人々之ヲ重ニスル、日ノ中スルカ、如キモ、漸ク消滅スルニ及ヒ、一次ハ、衆人ノ歎賞、諂諛セシ人モ、之ヲ敬重スルナク、棄テ、顧ル者ナキニ至ルモ、吾人ハ、其他日盛時ニ在テ、我カ親愛ヲ着クルニ足レル人ハ、猶之ヲ愛シ、因テ、以テ、其人ヲ輕重スルニ、足ラストス、是我其人ヲ愛スル所ハ、其人トナリニ在テ、其人ノ有スル物ニ、在サレハナリ、故ニ、交義親愛ノ名ヲ、命スルニ足ラサル者ハ、此試驗ニ、堪ユルコト、能ハサルナリ。

道德ノ品  
性ニ於ケ  
ル變化ヲ  
論ス

一層太甚シク、交情ヲ危殆ナラシムル者ハ、其朋友間、一方ニ於テ、德義ノ品性ト、道トスル所ノ變化ニ在リ、其變化徒ニ、其人身、貧富、貴賤、勢力、名望ニ、關スル耳ナル間ハ、吾人は、唯、外部ノ境遇、事故、變遷ニシテ、其人自己ニハ、非スト思フ、故ニ、此等ノ事ハ、代替スルモ、我カ友ハ、同一ニテ、存セリトス、然ルニ、其變化、其心腸ニ在テ、其人自己ノ品性、易ハル時、又其同情、并ニ道德ノ節操、一次我ト合一タリシニ、今ハ、既ニ、其同說タル所ヲ、表セス、我、



偏へニ其人ノ説タリト思ヒシ所ニ反スル時ハ是カノ眞ニ永久ナルヘキ親愛ノ本體ヲ失ヒ我ト彼トノ間ニ意思感動ノ相通スル所既ニ已ニ存セサルナリ然リ而テ此ノ如キ事例ニ當リテヌラ吾人前時ノ朋友ニハ猶敬重愛親ヲ存シ此變化ニテ全ク抹殺スルニ至ラサルナリ此ノ如キ時ハ吾人其人ノ云々マリスヲ思ヒ云々タリト思ハス其夙昔善良ノ日ニ於テハ心腸鮮妍ニシテ汚スルナク其足跡未ダ曾テ正直名譽ノ道ヨリ外レサリシト思フナリ

第三章 恩人ノ愛

其朋友ノ親愛ニ關シタルヲ論ス

吾人朋友ニ就テ感スル情款ト密ニ相親近シテ我カ恩人ニ對シテ懷ク情アリ是亦前ノ情ト一樣ニカノ愛情ト云フ一本元ノ形容中ノ一ツニテ凡テ親懇ノ情款ハ到底溶解シテ是ニ歸スヘク唯其情ノ着ク所ノ物體異ナリトハ雖凡テ此諸種ノ形容ノ中ニテ其性質ハ同一ナリトス然ルニ吾人恩人ニ對シテ感スル親愛ハ友人ニ對スル親愛トハ異ナルコト猶友人ニ對スル親愛ノ親子ノ間ニ在ル親愛ト異ナルカ如シ此情ノ交友ノ親愛ト異ナルハ其惠人ノ方ニ就テ此恩惠ヲ施セシ動機ハ唯

仁愛ノ意ニテ曾テ其人トナリノ目的ニハ關スルナク又我カ方ニ在テ依テ以テ提醒セラレタル情ハ唯其仁愛アル惠人ニ感謝スル意ナリトス故ニ其感謝ハ親愛ニ至ルト雖凡始メヨリ其人トナリテ欽慕スル效カニハ非ルナリ

此情款ノ性質ヲ論ス

吾人此情ノ性質ヲ一層密ニ講究スレハ凡テ恩謝ノ情ニ現ハルカ如ク此中ニ快樂愉快ノ情ヲ含ミ并ニ又此情ヲ着クル所ノ人ニ對シ之ヲ德トシ重ニスル意ヲ含メリ此時其快樂ハ恩惠ヲ受ルヨリ發ス然凡其受ケタル恩惠唯其物ノ貴重タルカ爲唯我カ急ヲ周ウスル爲ニ發スル快樂ニハ非スレテ此ヲ超越シテ其惠者ノ良貴仁愛ノ人ニシテ我トノ關涉親愛ノ上ニ出ル爲ニ快樂ナルナリ總テ此ノ如キ理會ハ必ス愉快ナル者ニテ是其高度ニ至ル者ナリ其此ノ如キ人ニ對シテ之ヲ德トシ重ニスルノ意ト其報福トシテ我ニ善ヲ爲サムト欲スルノ情トハ是此其人ニ就テ發スル愉快ナル理會ヨリ自然ニ生スル效驗ニシテ此愉快ト此德トシ重ニスルノ意ト兩相合シテ吾人感謝ト呼フ錯綜セル情ヲナスナリ



其賜ヨリ  
モ却テ其  
人ヲ重  
スルヲ論  
ス

此論題ナル情款ニ就テ、上ニ云ヒシ所、果シテ其分解ノ正ヲ得タリトセ  
ハ、此情ヲ提醒スル者ハ、惠者ニ在テ、惠賜ニハ、ソレタケニ在ラサルナリ、  
此見解ハ、事實ニ依テ、之ヲ證確スヘキ者ニテ、一ノ境遇ニ際シ、其賚賜ヲ  
贈レル惠者ノ方ニ取テ、自私ノ動機ヨリ出ルノ疑ヒアリテ、我ヲ重シス  
ルヨリハ、自己身上ノ目的ニ關セルナリト、思フ時ハ、此ノ如ク贈レル惠  
賜ニ於テ、吾人感謝ノ情、發スルコト、甚タ少シ、是孰レニテモ、其惠賜ハ、同  
一ナレト、惠者ハ異ナルナリ

感謝ヲ表  
スルノ様  
法ヲ論ス

諸哲家人、他人ヨリ、親懇ヲ受ル時、其人ノ品性心質ノ異ナルヨリ、之ニ感  
スルノ氣習、諸種アリテ、其感謝ヲ表スルノ様法モ、隨テ異ナルアルヲ、表  
章セリ、其親懇ナル事ハ、同一ナレト、或ハ他人ヨリモ、一層甚シク、敏捷ニ  
感動スル者アリ、加旃、其感謝ノ情ハ、同一度ニ存スト雖、之ヲ表スルハ、  
必ス均一ナルニ非ス、然レ、恩惠ヲ施シタル處ニテハ、何時ニテモ、稍感謝  
ノ表象ヲ、見ルヲ常トシ、其表象、相當ナレハ、我ヲ愉足スルナリ、唯其情ノ  
缺クメルハ、我ニ、痛苦ヲ覺エシメ、吾人、之ヲ冷情私性ノ標徴トシテ、定ム  
ルナリ

此情元ノ  
無キヲ以  
テ感性ノ  
錯亂ヲ徵  
ス

感性錯亂ノ、至重ナル形狀ノ一ハ、即チ靈智ノ狂ニ非スシテ、感動ノ癡ヲ  
リ、是何事ニ拘ハラズ、全ク中立淡泊ニシテ、至懇ノ注意ヲ受ルモ、無情ヲ  
表スル者ナリ、加旃、其仁善ナル惠人ニ對シテモ、惡意ヲ表シ、或ハ其厭憎、  
暴露シテ、包藏スル能ハサル者アリ、此種類ノ事例ハ、馬可列安ノ癡狂院  
ノ監長學士彼拉ノ話述セルコトアリ、其表章セルハ、一忠者アリ、貴夫人  
ニテ、其心意ノ稟賦ハ、如何ニ觀テモ、不足ナリト、思フ可ラサルニ、唯天性  
ノ情感ニ至テハ、極メテ缺乏シテ、少シモ、感受スルコト能ハスト、見エダ  
リ、一日、其友ノ忠誠ナル人ヨリ、懇親ノ標トシテ、或物ヲ受ケタル時、其女  
子、叫呼シテ曰ク、余思フ、余ハ、此人ヲ愛セサルヲ、得サルカ、若余ヲシテ、人  
ヲ愛スルコトヲ得ハ、之ヲ愛スヘシト雖、是能ハサル所ニシテ、余ハ、此  
情ノ何物タルヲ、知ラサルナリト、蓋シ、其標徴、此ノ如ク、慘怛淒涼ナルハ、  
人生ニ於テ、理會ス可ラサル者ニシテ、是靈魂ノ深夜嚴冬、生活體ニ對シ、  
親愛感動ノ一光線モ、其冥暗ヲ破ルナク、太陽ノ一閃光モ、其闇黒ニ入ル  
ナシト、謂フヘシ、此ノ如キ事例ノ、稀ナルハ、豈幸ヒナラスヤ、蓋シ、人ノ親  
懇ナルハ、人々ノ心腸ニ、敬謝ノ答意ヲ起ス者ニシテ、之ニ感スルノ權ト、



定例ノ作用トニ至テハ、心意ノ錯亂モ、罪業ノ障礙モ之ヲ阻却セサル者ナリ

人情ノ錯亂ヲ論ス

今ソレ、吾人我カ同類ノ、僅々ナル親懇ハ、能我カ胸懷ニ徹シ、活潑ナル感謝ノ情ヲ興起シ、然リ而モ、吾人我カ心體ノ大作者ヨリ、時々刻々、賜フ所、千萬恩徳ニ至テハ、曾テ身ヲ動カス事ナク、各個ノ善賜美賚ヲ享ケテ、僅カニ感謝ヲ表セハ、人タル道德ノ性ニ於テ、豈錯亂缺乏ノ標徴ナラサル、ナキヲ得ムヤ

第四章 住處并ニ本國ノ愛

其本來ノ位置ヲ論ス

吾人ノ感動アル性ヨリ、發スル情ノ中ニテハ、室家ノ愛、并ニ本國ノ愛、即チ所謂愛國ノ情ト云フ者、首位ヲ占ムルナリ、然ルニ、其類ヲ論スレハ、吾人情款ト呼ヒ、傲ス感動中ニ入ルヘシ、是此情、唯快樂ノ情チ、含ム耳ナラズ、又且、此情チ、提起スル物體ニ對シ、其善ヲ願フノ欲チ、含メハナリ、茲ニ論スヘキ情款ハ、其中ニ、人類ノ族チ成シ、部落ヲ爲シ、邦國ヲ建テ、以テ分離チナシ、其邦國疆域チ、區分シテ以テ、其住處チ別ニスルノ意チ、含メリ、蓋シ此區分ノ基、非スル所ハ、人性ニ因テ、然ルヨリモ、此地球ノ形體

是人種ノ分離ニ本ツクヲ論ス

上ノ態制分賦ニ因テ、然ルニテ、地球ハ、山河洋ニ因テ、諸種ノ邦國ニ、分離スレハナリ、此排置チ觀ハ、人種チ、個別ナル邦國ニ、分賦スルノ、圖略先見アリシチ、誰カ覺リ得サル者、非ムヤ、而テ、人性ハ、此圖略ト、排置トニ、相通スル者ナリ、ソレ人ハ、カノ遊行、食ヲ逐フノ時ニ當リ、未タ室家チ、起スノ地アルニ非ス、其本國トスルノ國アルニ非ス、唯荒蕪礪礪水流地チ掃ヒ、氷丘陰ヲ印シ、疆域極メテ狭シ、衣食ノ賴ル所極メテ乏窶ナルノ地ニ過キサル耳、而テ、其寒暑體ニ適セス、風候、身ニ可ナラス、土地耕ヘスニ堪ユスシテ、此生命チ保スル爲ニ、間斷ナク、此艱阻チ、驅除セサルチ得ス、然ルニ、僅カニ此ニ至レハ、其地、既ニ已ニ、其所有ニシテ、其本國タリ、而テ、忽然既ニ、此地ニ入冠シテ、其名ヲ屈辱スル者、アルニ至リ、竟ニ之カ防禦ノ爲ニ、血ヲ濺キ、末後ノ一滴チ、落スニ至ルナリ

他ノ助因ヲ論ス

カノ諸部落ノ相爭フヤ、警敵戰鬥、嘗ナラサルニ至ラシムルノ偏尙、竟ニ此愛國ノ情操チ、強クシテ活潑歌マサラシムニ至ルハ、亦疑ヒナクシテ、以テ、各人、一層其土地ト密着セシメ、其財貨ト、生命トチ捐テ、以テ其地チ守ルノ、已ム可ラサルニ、至シラムルナリ、又言語ノ異ナル、習氣風俗ノ



同シカラサル、是諸國ニ於テ、然ラサルヲ得サル者ニシテ、亦甚シク、國々  
チ別チ、一層彼此ノ際ヲ廣クシ、以テ其人民ヲシテ、一層密ニ其土ニ繫着  
シ、其自己ノ禮俗ヲ守ルニ、至ラシメタリ

開化ノ效  
驗ヲ論ス

上ノ諸原因ハ、皆愛國ノ情ヲ發スルノ一タリ、然ルニ、開化ハ、此諸原因ノ  
作用ヲ稍減スルニ至ラシムルハ、疑ヒナシ、蓋シ社會ノ進歩スル度ニ進  
シテ、國々ノ相疑嫉シ、相讎敵スルコト減シ、戰爭モ一層稀ニ起リ、各國ニ  
テ、他ノ風習、法度言語チ、一層能曉解スルニ至リ、又交互ノ利益ハ、伴象ニ  
テ、方チ異ニスルモ、其實、同一タルコトチ、知ルニ至ルナリ、故ニ、開化教育  
ノ進動ハ、恰モ、今日マテ、諸國チ離折シタル閣障チ、除キタルカ如ク、其功  
大イニシテ、カノ愛國ノ情ヲ活潑ナラシムルニ、歸シタル諸原因ノ、變動  
チ弱ムルニ至ラサルヲ得サルコト、見ユ、是吾人、事實上ニテ、依スル所  
ナリ、カノ報國ノ愛、尤強ク開發スルハ、國ノ存立、猶夙キ時、其初メテ、基チ  
ナシ、將ニ盛ナラムトスルノ際、又衰弱累々ノ危キニ、瀕スル會ニ在リ、此  
ノ如キ時ニ當テハ、財貨ヲ捐ルノ事、尤モ快勇以テ之ヲ爲シ、危害困難ニ  
處スルノ道、尤モ容易以テ之ニ當リ、而テ生命ヲ樂ルコト尤モ自由ナリ、

蓋シ此ノ如クナラサレハ、其國ノ基礎ヲ居ク、他道ナキ耳、然リ而テ、其國  
此ノ如ク、其實貨ト、生命トチ、以テ、之ヲ建テ、其幼稚ニ當リ、勵精以テ、之ヲ  
護シタル者、漸ク盛壯ニ至リ、強大ニ至リ、富實積ミ、疆域擴マリ、勢焰盛ニ  
シテ、其周匝ノ諸國諸民ト堂々タル交際ニ於テ、美名ヲ受ルニ至ル、然ル  
ニ、此時ニ當リテハ、報國ノ情ノ、民心ニ在ル者、其生長ト歩ヲ同ウセスシ  
テ、却テ減スルコト、見ユ、是此情ノ發達ニ、機會ヲ假スコト、一層稀ニ、一  
層緩ニ至レハナリ

國粹ヲ論  
ス

然ルニ、又、開化ニ因テ、愛國ノ情減スト雖、用之ヲ制克スル一偏尙アルチ、  
國粹ニ於テ見ルナリ、是即チ其國ノ光榮強盛ニ因リ、殊ニハ、其歴史上ノ  
浩大ナルニ因テ、提醒セラル、ノ情ニテ、英吉利、佛朗西ノ都人士、今日ニ  
在テ、唯其室家爐邊チ、愛スルヨリモ、一層自國チ守リ、自國チ愛シ、其耕耘  
スル地チ樂ミ、其自由ト、權利トチ、保護スル所ノ、制度禮俗ニ、安ンヌルナ  
リ、其國ノ過去モ、斯民ニ委託セラレ、現在モ、斯民ニ委託セラレテ、此國民  
ノ命トシテ、其命譽ト、正經トハ、力チ盡シ、生ヲ捐テ、之ヲ執守スヘキニ  
當リ、徒ニ昨今ノ英吉利、佛朗西ニハ、非ス、數十百年來ノ英吉利、佛朗西ナ



リ、故ニ其人民ハ、其帝國ノ盛ナルヲ懷ヒ、軍兵ノ功ヲ懷ヒ、其國旗ヲ諸國ニ飄カヘシテ、國武ヲ耀カシタル名將ヲ懷ヒ、哥羅味、查理曼以來、亞弗勒哈羅德、勇王以降、世々王椅ニ儼然トシテ、其臣民ノ忠誠ヲ辱ウシタル君王ヲ懷ヒ、又其國ヲ今日ノ盛大ニ致シタル世々ノ祖先ヲ懷ヒ、以テ其國、今日ノ盛榮強大ノミナラス、又昔時ノ浩大昌盛ヲ保護シテ、其緒ヲ墜サ、ラシムルノ情ヲ興起スルナリ。

其伴生ノ理法ニ係ハルヲ論ス

吾人、此事ノ哲理ニ於テ、一層密ニ之ヲ講究スレハ、此論題ナル情ヲ直チニ生スル原因中ニ、伴生ノ本元、大イニ之カ發動ヲ助クルコトヲ發見スヘシト、余ハ謂フナリ、蓋シ吾人、何レノ國ニテモ、其觀念ヲ立レハ、其國人ノ歴史、貧富、徳義ノ善惡ト、相連絡シ、又古今ヲ論セス、其歴史上ニ散見シ、其城内ニ於テ、起リシ事ノ、歴史ニ關スル、人ヲ懷ヒ、其枯骨ノ、其土ニ混シタルヲ、追思スルニ至ルナリ、其人ハ、既ニ已ニ消滅シテ、在ルナキモ、其丘嶽ハ、依然トシテ存シ、其川河ハ、依然トシテ、同シ流路ニ注キ、其洋海ハ、依然トシテ、其古岸ニ漚キ、其蒼穹ハ、依然トシテ、其原野江湖ヲ覆フ等、總テ此等ノ百事并ニ、天然ノ物體ト共ニ、カノ曾テ丘壑ノ間ニ棲ミ、海岸ニ沿

同一本元ノ室家ノ愛ニ係ハルヲ論ス

ヒテ、住セシ人民ノ史乘ニ於テ、其盛大ヲ致シ、勇武ヲ耀カシタル諸事ヲ、連想伴思スルナリ、故ニ凡テ、山嶽ノ崔嵬ナル、河濱ノ浩蕩ナル、巉巖ノ嵯峨タル、巖峯、皴崎ノ海濱ニ聳ユタルハ、各代現タル物體ニシテ、懷古ノ情ヲ興起シ、其地ニ在リシ偉績大勳ヲ、追懷セシムルナリ、ソレ、此等ノ事ノ、愛國ノ情ニ勢力ヲ増加スル、幾何ナルヘキ、是、一目瞭然タル者ナリ。又是ト同一ナル様法ニテ、伴生ノ同一本元ニ因テ、我レ自身ノ履歴ト、我カ棲シ處、住シ國トヲ、連絡スルヲ以テ、其處ハ、殆ト我ト、同一體トナリ、我カ兒タリシ時ノ室家ト、我カ生レシ國トヲ、愛スルハ、唯此發時ノ我ヲ、愛スルニテ、我カ履歴モ、愛ニ存シ、善ナリ、惡ナリ、我カ爲セシ事モ、愛ニ存スレハナリ。

此情、伴生ノ理法ニ因テ、提醒發揮セラル、コト、疑ヒナシト雖モ、然レ、此情ノ品性ニ就テ觀レハ、余未タ、此理法ヲ見テ、其本源ト、做スコト能ハス、是吾人性中、固有預備ノ本元ニシテ、本能上ヨリ、胸懷ニ迸出シ、其本體少ク可ラサル者トシテ、社會ノ凡百狀態中、何レノ世ニテモ、何レノ處ニテモ、同一ニ顯ル、者ナリ、是亦、之ヲ喚起スルハ、教育ヲ期スルニモ、非ス、又



理性ト省察トヨリ、之ヲ生スルニモ、非ルナリ、然レ、同時ニ、理性ト省察ト

此情、淺カ  
ルヘキ處  
ニ、殊ニ深  
キヲ論ス

ノ、其發達強盛ニ、資スルハ、亦疑ナキナリ  
カノ人性ヲ以テ、其學業トナシタル諸家ノ、視察ニ供シタルコト、甚々屢  
ナルハ、愛國ノ情操ハ、氣候順和ニテ、土地肥沃ナル處ノ住民ニ、限リタル  
コトニ非スシテ、反テ生育モ少ク、天然ノ風土モ、佳好ナラサル國ニテ、其  
國民ニ、至強ノ發達アルコト屢ナリ、故ニ、荒野山谷ノ間、或ハ、礪礪ノ地、或  
ハ、乾禿ノ野ニ、住ムノ人、其室家邦國ノ愛ヲ、表スルコト、地球上ノ他ノ部  
ニ、異ナルコトナシ、カノ山嶺谿壑ノ間ニ住ム、瑞士ノ人民ノ若キ、カノ北  
寒線ノ外一年ノ大半、恆ニ、凛冽暗黒ノ地ニ、住メル、北冰洲ノ、鳴斯基毛種  
ノ、憐ムヘキカ如キモ、皆此ノ如ク、加旃、酷虐ナル管轄下ニ在テ、未ダ疎暴  
ヲ免レサル心ニモ、天性ノ聲言ニ發スル所、家國ノ愛甚シキ者ハ、之ヲ聞  
クヲ得ヘク、加旃、乞兒モ、ノスマルシアト云フ病ノ、郷里ヲ懷フヨリ、死ニ  
至ルコト、アリト云ヘリ

第二篇 惡意ノ情款ヲ論ス

第一章 忿恨、并ニ、其諸類、嫉妬、猜忌、報復

是ヲ善意  
ノ情款ヨ  
リ區別ス  
ルヲ論ス

情款ハ、感性ノ中ニテモ、快樂痛苦ノ感動アルカ上ニ、又其物體ニ對シ、親  
惡、若シハ、其反對タル感動ヲ、帶フト云フ態度アルニ因テ、之ヲ他ノ諸形  
狀ヨリ、區別スルハ、既ニ前ニ論シタリ、而テ之ヲ、一ノ事例ニテハ、吾人、善  
意ト名ケ、他ノ事例ニテハ、惡意ノ情款ト名ク、然ルニ、善意ノ情款ハ、前篇  
ニ論シタルヲ以テ、今ハ、惡意ノ情款ヲ、述フヘシ

忿恨ハ類  
名タルヲ  
論ス

此情款ノ諸種ハ、忿恨ト云フ總名中ニ、包括セシメ、之ヲ以テ、凡テ、此類ノ  
根本トシテ、成ル者ナリト、視做スコトヲ得ヘシ、故ニ、嫉妬、猜忌、報復等ハ、  
唯此普通ノ一本元ノ種々ニ變化シタル者トシテ、視ルヲ得ヘシ、善意ノ  
諸情款ハ、凡テ愛ノ諸形狀ニシテ、其物體ノ各種ニ、對シテ發動シ、其物體  
ノ異ナルニ從ヒテ、變化スルカ如ク、惡意ノ情款モ、愛ト相反對シタル一  
元ノ諸形狀ニシテ、即チ厭惡ノ同シク、物體ニ從ヒテ、變化スル者ナリ  
是亦、天性  
ニ本ツク  
ヲ論ス

惡意、即チ忿怒スル感動ハ、亦善意ト同シク、其本元ニ於テハ、本能ニシテ、  
吾人ノ性中ニ、其基礎アリ、且然ルヘキ境遇ニ臨ミテハ、直チニ、發出スル  
コト、一般ナリトシ、其發達モ、夙歲ニ在リテ、屢、カノ省察論辨ノ勢力ノ發  
生ニ先メテ顯ハレ、且又、或、界限ニ至ルマテハ、人ト禽獸ト、相通シテ、之



チ有スル者ナリ

然ル道理  
ノ發生管  
束ニ供ス  
スヘテ論

然ルニ吾人之チ本能ナリト名状スレハトテ能思慮シ道理ニ照レテ運用スルニ適セサル者ナリ又此ノ如ク道理ト合一ナラシムルコトハ實ニ稀ナリト云フノ意チ其中ニ含蓄セリトハ絶テ謂フ可テサルナリ蓋シ理性思慮ハ後ニ發動スレト本來本能ノ教示スル所チ制可確定スル者ニテ又一ニハ本能ノ勸ムル所チ壓住禁止シ得ル者ナリ故ニ前ナル時例ニテハ情緒ナルモ情欲ナルモ其性質根元ニ於テ本能ノ元ニ非ルハ莫シ縱ヒ唯本能ノ疆域ヨリ發シ後ニハ理性靈智ノ高キ圍内ニ進ムヘキ者コナレト本ハ本能タルナリ是ヲ以テ初頭ハ思慮ナクシテ忽然タル衝動ヨリ警突コナシタル事チ今ハ熟慮シテ理ニ照シテ做スナリ蓋シ本能ト理性靈智トハ互ニ別ナル者ナレト必ス交互ニ相反スル者ナリト謂フ可ラス故ニ其元ハ二ツナリト雖ヒ行事ハ至リテハ同一ニシテ一タヒハ本能ヨリシ一タヒハ理性ヨリスルコトアルヘキナリカノ吾人ノ友人若クハ親戚ニ對シテ懷蓄スル愛情ノ若キハ純然タル本能クレト亦密ニ道理ニ合シ省察ノ事ニシテ思慮シタル志

ヨリ發スル效驗タルカ如シ

或人ハ此  
ノ如キ本  
元ノ存在  
ヲ否定ス  
ルヲ論ス

恐恨ノ如キ本元吾人ノ天性固有ニシテ性分内ノ元行タリト謂フハ或ハ著家ニテ論案中ニ置キタル事ニテ造物主人ノ心腸中ニ恐恨ノ本元チ賦與シタルヘシト云フハ神徳ノ品性チ講毀スル者ナリトセリ神ハ人ニ愛スルコトヲ命シ惡ムコトヲハ命セス故ニ其ノ極メテ禁スル所チ以テ心ノ眞ノ性分中ニ預備トシテ賦與スルコト有ル可ラス此ノ如キ本元ハ畢竟無益ニ屬スト墨守セリ是即チ榮斯樓氏ノ其道德哲學ノ著本ニ取レル本說ナリ

此爭案ノ  
發端ヲ論  
ス

上ニ表シタル見解ニハ甚ダカアルコト必セリ然レ吾人ノ問題トスル所ハ吾人先天ニ就テ人ノ性ハ此ノ如キ者ナリト定ムヘシト謂フニモ非ス又此ノ如クナラサルヲ得スト謂フニモ非ス唯其性チ事實ニ徴スル所ノ如シト謂フノミ恐恨ノ如キ本元ハ善キ性質ノ人ニ必須ナリヤ否ヤト云フハ今ノ問題ニ非ス又造物主ノ人性中ニ此ノ如キ本元チ賦與シタルハ有ルヘキ事ナリヤ否ヤト云フモ今ノ問題ニ非ス且又此ノ如キ本元ノ道德ニ關スル品性ハ如何ソヤト云フモ此問題ノ旨趣ニ非



スシテ唯人ノ性質中ニハ、本來此ノ如キ元行アリヤ否ヤト云フヲ、問題ノ主意ナリトス、今若果シテ、人性中ニ此ノ如キ者アリトセハ、吾人ノ斷言ハ、造物主ノ之ヲ賦與セルハ、或睿智ノ目的アルニ出タリ、又然ラサレハ、人生レテ、世界ニ出ル以上ハ、其性、既ニ造物主ノ意ノ、人ニ就テ欲スル所チ、正當ニ表出スル者ニ非スシテ、一ノ道理ニ由テ、其本然ノ潔淨完全チ、失ヒタリト、此二路ノ一ニ出テサルチ、得サルナリ

此ノ如キ本元ノ存在ヲ論ス

今ツレ、一定ノ境遇ニ際シ適當ノ機會アリテ、吾人ノ怒ヲ發スル感動ヲ、醒覺スル時ハ、此胸裏ニ此一定ノ感動發旺スルハ、否定スヘキニ非ス、且又此感動ハ、其基礎チ、人ノ性中ニ有スルモ、否定ス可ラサルナリ、是吾人、此怨恨ニ就テハ、他ノ情ノ固有生來ノ本元タルト、同一ノ明證チ、有スル所ニテ、其顯ル、ハ、此世界内、萬國ニ通シ、萬世ニ亘リ、社會ノ凡百態度中ニテ、普通且一致ナル者ナリ、而テ其發生ヤ、亦此生ノ夙期ニ在リテ、カノ教育若クハ、先例チ以テ、其存在ノ源由ト、スルノ前ニ在リ唯理性ハ、其發生ノ後ニ、之ヲ管束控勒シ、若クハ、之ヲ廢消シ得ルト雖也、其本元ハ、之ヲ放縱シ、若クハ、控勒スル前ニ存スルナリ、蓋シ此情ヲ喚起スル機會、我ニ

惡意ト云フ語ノ用法何如ヲ論ス

受ケタル傷害禍惡ニ在ル時ハ、此感動、怨恨ノ名チ取り、又他人、其不正ヲ行ヒタル目的タレハ、其醒發スル、感動チ名ケテ、一層本來ニ、之ヲ憤怒ト云フ、故ニ吾人ハ、我自己ノ不正ヲ知リテ、怨恨シ、他人ノ不正ヲ見テ、憤怒ス、其本元ハ、何レニテモ同一ニシテ、實ニ吾人ノ性中ノ一部タルコト、猶恩惠ヲ受ケテ、感謝ヲ發シ、相愛スル人ノ悲憂ニ於テ、同感ヲ起スカ如シ、此情欸ノ一類チ、徵スル爲ニ、用サタル惡意ト云フ語ハ、酷々論駁ニ、屬スヘキコトハ、自ラ解過セサルチ得ス、是此論題ナル感動ト、上ニ論シタル相反セル品性ノ感動ト、其間ノ差別ヲ、標示スル爲ニ、適當ナル語ノ缺ルニ因テ、其代用ニ、便利ナル語トシテ、習用スルニ至レリ、而テ、吾人、其一チ善意ト呼フ故ニ、此一チ惡意ト呼フハ、唯比較上ヨリ、言フノミニテ、其情ノミニ品性ニ於テ、少シモ、罪業タリト云フ意チ、含メルニ非ス、然シナカラ、此語、不幸ニシテ、此ノ如ク、用サタル意味チ、含マスコト、見エ、此ノ如ク、徵セル情欸ノ、道德ニ關スル品性ハ、問難ニ供シ、其品性ノ功用ニ就テ、之ヲ論決スヘクシテ、論題ナル語ノ、彼此習用ニ因テ、定レリト見ル可ラサルナリ、此問題ハ、余將ニ、直チニ、講究スヘシト雖也、此處ニテハ、特ニ先



忿恨ノ性  
ヲ論ス

惡意即チ忿怒ノ感動ノ發顯スル諸形狀ヲ論スヘシトス  
忿恨ハ、傷害ヲ受ケタリト、見タル時醒發スル感動ニテ、正シク、恩惠ヲ受  
ケタル時醒發スル感動タル、感謝ノ反體ナリ、此後ノ事例ニテ、心腸裏ニ、  
一時ニ、其惠人ニ對シテ、愛敬ノ情ノ、發生スルカ如ク、前ノ事例ニテモ、一  
時ニ亦、我ニ、不正ヲ、爲シタル人ニ對シテ、忿恨ノ感動、發生スルナリ、是本  
能上ノ情ニシテ、吾人、傷害ニ就テ、意識ヲ有スレハ、即チ直チニ又、忿恨ノ  
感動ニ就テ、意識ヲ有ス

此本元ノ  
圖略ヲ論  
ス

人性ニ、此本元ヲ具スルノ圖略ハ、較著ナルコトニテ、是吾人ヲシテ、先見  
ノ達スル能ハサル、深慮ノ防ク能ハサル、不意ニ、起レル危害襲撃ヲ、防禦  
セシムルノ具ニシテ、若其襲撃ヲ受ル時ハ、即時ニ、發作ヲ要シ、速カニ、救  
援ヲ假ス者ナリ、此ノ如キ事例ニ、臨ミテハ、理性省察ノ事ハ、我カ救援ニ  
來ルモ、甚タ遅クシテ、若吾人、只管ニ唯、理性省察ノ議ニ、委任スルノミナ  
ル時ハ、其評議、如何ニ賢智ニ屬スルモ、既ニ已ニ、傷害ヲ受ルニ至ルヘシ、  
故ニ、理性思慮ハ、其傷害ヨリ、我ヲ保護スレド、機會ヲ失フナリ、是ヲ以テ、  
一層迅速ノ舉動ヲ、促カス者ヲ要シテ、警ヘハ、警醒ナル看守人ノ、能我裝

シテ、危急ノ初頭發スルニ臨ミ、其急報鐘ヲ打チ、衛戍兵ノ進發ヲ、令スル  
如クナラムヲ要ス、是吾人ノ有スル、忿恨ノ本元ナリ、且ソレ、若此本元ノ  
存スルコト、微リセハ、卑怯迂遠ノ計略、屢、正義、名譽、權利ノ旨趣ニ超エテ、  
旺盛ナルニ至リ、私欲ノ計略、吾人ヲ控制シテ、傷害ヲ蒙レル者ノ保護ト、  
侵攻者ノ責罰トニ於テ、自ラ危害ヲ冒カシテ、其間ニ居ルヲ、妨クルニ至  
ルヘシ、故ニ、此本能ハ、理性、將ニ發作セムトスル前ニ、此ノ若キ事ニ於テ、  
我ヲ正義ニ置ク者ナリ

罪業ノ實  
罰ニ必要  
ナルヲ論  
ス

惡意ノ情狀ハ、爰ノ論題ナル形狀ニテハ、少クモ、一定ノ度ニ、達スルマテ  
ハ、罪業ノ責罰ト、社會ノ保護トノ爲ニ、必要タリト見ユ、此情ナクシテ、吾  
人、他ノ邪行ヲ、我カ身ニ受ケスシテ、他人之ヲ蒙リタル時、之ヲ救援セム  
トシテ、十分ナル力ヲ盡シ、迅速ナル舉動ニ及フヘキカ、是疑フヘキ所ナ  
リ、蓋シ、天ノ以テ、此ノ如キ危害ヲ、保護スル爲ニ、人ノ心胸中ニ、正義ノ固  
有性ヲ賦植シ、肆イマ、ニ、蒙リタル不正傷害ニ就テ、怨惡ヲ發シ、其暴行  
者ニ對シ、速カニ忿恨ヲ發シ、以テ我ヲシテ、其事主ヲ睇出シテ、之ヲ責罰  
スルコトヲ、求メシメ、之カ爲ニ、他人、慍恤ノ辨白ヲ止メ、我ヲ禁シテ、報復



ノ拳打ヲ行フニ至ラサラシム然モ是唯慈悲ノ微小短視ナル者ニテ其  
罪業ト罪人トノ憎惡ニ猶不足ナル所アリ是唯仁愛ニテ不幸ヲ相憐ム  
ノ情僅カニ顯ハレカノ社會至高ノ切要事項ニ撞着シ凡テ人ノ最モ受  
シ最モ秘スル所ヲ危險ニ擠スル者ヲ正義ノ判決正當ノ刑罰ヨリ保庇  
スル所ナル耳乃チ其相憐ムノ情強クシテ眞ニ之ヲ惡ムニ至テハ嚴厲  
ナル忿怒反テ無二眞實ノ慈悲タリ神ハ至大ノ慈悲心ヲ以テ邪惡ヲ惡  
ムニ嚴厲撻ムコトナキノ情ト結合スル者ニシテ是其至高至大ノ性質  
タリカノ經典ニ比喻セル如ク上帝ハ愛ナリト眞實ニ云ヘル如ク亦同  
一ノ眞實ヲ以テ我カ上帝ハ燒燬スル火ナリト肯定シ得ヘキナリ

過失ニ陷  
リ易キヲ  
論ス

然ルニ論題ナル本元ノ其用ニ供スルハ吾人ノ急ニ供スル天賦ノ至要  
タリト視ルヘクシテ又此本元ノ過失ニ陷リ易キヲ以テ之ヲ細心ニ懲  
窒スルヲ要スルコトハ知ラサル可ラス殊ニ其卒爾ニ發動スル本能タ  
ルヲ以テ身ノ傷害危害ヲ受ルニ當テハ吾人之ヲ其極度ニ致シ易キノ  
弊アリテ其時下ノ景況ニ應スル適度ヲ越エテ忿怒ヲ肆イマニスル  
コトアリ

過度ナル  
忿恨ノ勦  
遏ヲ論ス

其傷害實地ナルト想像ナルトニ拘ハラズ忿恨ノ過度ナルニハ亦天然  
コト之カ爲ニ必要安全ナル控勦ヲ設ケタリ其憤怒甚タシクシテ露發  
ノ表象他人ニモ正シク見エ得ル如キニ至テハ諸人ノ同感ヲ失ヒ激怒  
タニ無カリセハ諸人ノ同感我カ方ニ屬スヘキ者是ニ依テ以テ吾カ甚  
ク怨惡スル人ノ爲トナリテ諸人ノ同感彼ニ轉スルナリ故ニ賢明深慮  
ノ人ハ細心ニ此ノ如キ效驗ヲ避クルヲ以テ此深慮ハ其怒氣ニ強テ勦  
脚ヲ施スヘシ又有徳ニテ品性高キ情操アル人ニハ猶他ノ羈約アリテ  
是又不相當ニ惡意ノ感動ヲ發スル上ニ弱カテサル控御ヲナス是即チ  
自ラ辱シメ自ラ卑シスルノ感動ニテ有徳ナル人ハ己レ過度ノ忿怒ニ  
至リタル後ハ情欲ノ熾熱漸ク冷メ靜カニ省察スル瞬時ニ至レハ自ラ  
心ニ感スヘキ所ナリ蓋シ相當ナル疆域内ニ發用シタルサヘモ惡意ノ  
情欸ハ其本性ヨリシテ痛苦ナル者ナリ其傷害若クハ凌辱ヲ受ケタル  
時初頭發スル情ノ不快ナル性質タル耳ナラス其脚下ニ繼キテ之ト相  
伴フ欲願即チ其暴行者ヘ報復トシテ惡ヲ被ラシメムト欲スル情モ亦  
此心ヲ騷擾亂擦シテ之ヲ念フ心ニモ其念一種ノ痛苦ヲ受クルナリ是



此感動ノ  
激發スル  
ハ何ニ本  
ツクカラ  
論ス

本來ナラス也、此情自己ノ實罰ト名ケ得ヘシ  
故ニ此感動ハ其性質ニ於テ、培育ナキ生體ナル者ニテ、自ラ管束スルニ  
モ、道理ト、教門トノ控勒ニモ、慣習セサル者タリ、是ヲ以テ、却テ、其情欲ト  
ナリ、暴激過度ノ發動ヲナスニ及ヒテハ、吾人、自然ニ、道理教律ノ控勒ヲ、  
要スルナリ、一ハ、我カ自己ノ福祉ニ、傷カムコトヲ恐レ、一ハ、我カ自己ノ  
尊重德量ヲ、願ルノ意ヲ以テシ、一ハ、カノ世間衆口ノ、同感稱譽ヲ欲シテ、  
却テ、公論ノ爲ニ、我カ端正ナラサルヲ、譏ラレムコトヲ恐レ、縱ヒ其激力  
ヲ、減スルニ至ラサルモ、少クモ、其表象ニ顯ハル、ヲ、壓住シテ、頗ル忿恨  
ノ感動ヲ、節スルニ至ルヘシ、是其齡、稍是非ヲ、辨別スルニ至リテ、自ラ體  
驗ノ業課ヲ、歷タル者ニ在テハ、自然然ラサルヲ、得サルナリ、カノ小兒ハ  
蹉跌シテ、其足ヲ、撲シ、石ニモ、怒ヲ發シ、意識ナキ器械ノ爲ニ、傷害ヲ受ケ  
タルモ、忿恨ヲ、洩シ、又、戾狄ハ、其肉裏ニ、貫キタル、矢ヲ、抜キ、取リテ、之ヲ、裂  
爛碎粉スルニ至ル、故ニ、此本元ハ、道理省察ニ、因テ、教エラレタル者ニ、非  
スレテ、自然ノ本能タルコト、疑ヒナシ、蓋シ、直チニ、其傷害ヲ、受ケタル器  
械ニ、向ヒテ、様法ノ如何ニ、拘ハラヌ、其忿恨ヲ、表スルハ、人々ノ、第一、初頭

忿恨ノ思  
慮ニ出タ  
ル形狀ヲ  
論ス

ノ衝動ニシテ、其傷害ヲ受ケタル、刻下ニ發シ、此ノ如キ思念ノ、愚タルヲ、  
省察スルニ、暇アラサルナリ  
其初頭ノ衝動經過シテ、漸ク省察ノ機會ヲ、得ルニ及ヒテ、此本能上ノ忿  
恨、漸ク消滅シ、而テ、其情ハ、同一ナレド、思慮スル理性上ノ形狀ニ、轉スル  
ナリ、此ノ如ク、情款ト、ナリタル所ニテハ、其心ヲ、周圍ニ、廻ラシ、其傷害ノ  
實ニ及フ處、幾何ナルヲ、察シ、之ヲ、救解スルノ、良策ヲ、思フ、此時ニ、當テハ、  
其邪害ヲ、受ケタル物ニ、就テ、意識アル主者ト、意識ナキ器物ト、故謀ニ、屬  
スル傷害ト、過失ナル傷害ト、區別シ、又、儘アリ得ル如ク、其事ノ、偶然ナ  
ルヲ、知ル、此ノ如ク、ナレハ、理性ニテ、其時下ノ、景況ヲ、見解中ニ、取り、其主  
者ノ、動機、蓋シ、然ルヘシト、察シテ、準シテ、以テ、其忿恨ヲ、節スルニ、至ルナ  
リ  
カノ復讐ノ法ハ、夷蠻ノ部落ニ、行ハル、者ニシテ、血ハ、血ヲ、要シ、命ハ、命  
ヲ、要シ、硬斷固決ノ正義ニ、依テ、酷刑ヲ、嚴加ス、縱ヒ、久レク、實決セサルコ  
ト、屢、ナリト、雖モ、必ス、之ヲ、要シ、年所ヲ、歴ルト、雖モ、遠方ニ、在ルト、雖モ、河  
海ヲ、隔ツト、雖モ、曾テ、其罪犯ヲ、失フコト、ナシ、是、本能上ノ、忿恨ト、思慮上



ノ怨恨トヲ區別スルノ比喩トスルニ足レリ、開化諸國ノ間ニ於テハ、今猶存スル所謂名譽律武人名譽ヲ挽スヲ裁判スル律法日耳曼名譽會議等是ナリ比武決闘ヲ判スル亦此ニ屬スノ若

勃多列爾  
諸氏ノ指  
表ヲ舉ク

此情ノ本能上ト思慮上トノ差別ハ、勃多列爾ノ指表セル所尤モ明亮ナリトス、是他ノ著者ノ假定セル如ク、勃氏ニ淵源セルニ非ルコト、明カナレト、從來諸家ノミナラス、古昔ノ哲家ト雖モ、之ヲ表章セルニ及ハサリシハ、殊ニ著明ニシテ、實ニ切要ナル差別ニシテ、且又、此別、獨リ此一情款ニ、殊ニ種別ナル耳ナラス、余既ニ云ヒシ如ク、諸感性ニ、凡テ相通スル者ナリ

此一本元  
ノ變性ヲ  
論ス

惡意ノ情款ニハ、一定ノ變性アルコト、確實ニシテ、是茲ノ連絡ニ於テ、表章一過スルヲ要ス、余カ指ス所ハ、尋常忌嫉、嫉妬、報復トシテ、知ル所ノ諸情ニテ此等皆唯相通スル同一本元ノ諸形狀タルノミ、是唯此情ヲ喚起スル境遇ノ諸種ナルト、物體ノ差異アルトニ從ヒテ、變化アルノミ、忌嫉ハ、怨恨ノ一形狀ニシテ、他人、我ヨリモ、幸福多ク、或ハ成巧多ク、或ハ稱譽ヲ受ケ、或ハ推尊ヲ受ル時ニ、我カ心腸ニ、生發スルコト、極メテ屢、且

忌嫉ノ性  
質ヲ論ス

容易ナル者ナリ、其幸福ナル人、我カ伴友タリ、其生活モ、我カ等輩タル中ヨリ出テ、其運命ニテ得ル所ノ名譽、貴重、若クハ富榮、權勢モ、我ヲシテ、企テハ及ハシムヘキ者タル時ニ、特ニ此事例アリ、故ニ、余以謂フニ、其人ノ地位、固ヨリ遙カニ、我ニ超エタル時ハ、吾人、曾テ之ヲ忌嫉スルコトナシ、是ヲ以テ、農夫、其國ノ公侯ヲ忌嫉セス、乞人、國王ヲ忌嫉セスシテ、唯其同輩ノ農夫ト、同輩ノ乞人トニ於テ、其茅舍ノ、我ヨリ温カナルト、其襤褸ノ服、我ノ如ク、襤褸ナラサルトヲ、忌嫉スルナリ、是脆弱狹隘ナル情欲ニテ、其情、卑劣賤汚、總テ尙寛大ナル事ノ、反對タリ

嫉妬ノ性  
質ヲ論ス

嫉妬ハ、惡意情款ノ一形狀ニテ、カノ男女ノ間ニ、存スル愛戀ニノミ、限レリト、謂フニハ、非レト、殊ニ一層多ク、此關係ヨリ、發シ、他ニ競争スル者アリト、假想スルヨリ、發スル者タリ、是惡意ノ情款中ニモ、最モ苦楚ナル者ニテ、若全然發動スルニ及ヒテハ、人性ノ至強至盛ナル、本元ノ一ナリ、而テ此情欲ノ奇特ナルハ、其猜疑怨恨スル目的ハ、同時ニ又、我カ心腸ニ、深ク鍾愛スル目的ニテ、時トシテハ、其尊奉スル所タリ、而テ此情欲ノ強力ト、激烈トハ、其愛情ノ誠實熱炎ノ度ニ、準スル者ナリ、阿那拉魯フセル詩篇ニ於



テ、人性中ノ、此癖根ノ發動開張セルヲ仔細ニ繪畫シテ、甲削斯ニ於テ、嫉妬ト相通セル情愛ノ照像ヲ見ルナリ

報復ノ性質ヲ論ス

報復ハ、怨恨ノ一形状ニテ、其最も思慮セル所ニ出テ、謀リテ、之ヲ施行ニ發スルニ至ル、是其罪業ト、傷害トノ拒防ニ、於テスルニ非ス、又且、正義ノ目的ヲ、主トスルニ非ス、唯惡ム人ニ對シテ、徒ニ己レカ意ヲ快ウスル耳、是其形狀タル、既ニ此ノ如ク、又此ノ如キ動機ヨリ、發スルヲ以テ、常ニ其度ノ過甚ニ失シ、其品性モ、毒害タリ、是暗黒ナル情欲ニシテ、之ヲ蓄匿スル心腸ヲ、辱カシムルコト、社會ノ害タルヨリモ甚シ、之ヲ稱譽セムト、欲スルモ、一モ、之ニ對償スヘキ品性ナシ、是固ヨリ、高雅寬恕ノ標徴ニモ非ス、然ラハトテ、壯烈勇剛ナル精神ヨリ、出ルニ非ス、故ニ、之ヲ稱武ノ所行ト、ナス可ラスシテ、寧ロ、恐懼ノ餘ニ出ツト謂フヘシ、故ニ、之ヲ行フハ、必ス秘謀密計ヲ以テ、不法ノ策ニ依ルヲ常トシ、正明稱譽スヘキ計策ヲ以テ、公然之ヲ行フヲ羞チ、且、厭フ者ナリ、是惡鬼ノ胸中ニ、絶エス旺スヘシト、假想スルニ、堪タル情欲ト、密ニ相隣比スル者ナリ。

此情ノ變

余既ニ、忌嫉、嫉妬、報復、ヲ以テ、怨恨ト云フ普通ノ一本、即チ、激發スル偏向

性タルヲ論ス

ノ、變化シテ、諸種ノ形状ヲ、取ル者トシテ、之ヲ論シタリ、然ルニ、此諸形状

ニハ、皆切要ナル一形象アリテ、是ヲ以テ、其由テ生スル所ノ、幹元ヨリ、異ナリトス、其怨恨ナル幹元ハ、吾人ノ性ニ本ツクト雖モ、之ヲ發スルハ、或ハ、本能上ヨリシ、或ハ、思慮上ヨリスルコト、既ニ、論述シタルカ如シ、然ルニ、此諸形状ハ、余謂フニ、必ス、思慮ノ元行ヲ、稍含ム者ニテ、之ヲ選執スルニ、堪エタルナリ、故ニ、此情款ハ、一定ノ景況ニ處シ、吾人ノ性ノ、偏向ニ因テ、此感動ノ發スル所ト、其由テ來ル本元ノ、吾人ノ性中ニ存スル所ト、此二ツニ就テハ、之ヲ自然ノ性ニテ、固有ノ一元行ナリト、謂フヘシト雖モ、既ニ發スルニ至テハ、其本元ノ如ク、或ハ、本能上ヨリ、發スルニ非スレテ、反テ必ス、意思、省察、思慮、選擇ノ運用ヲ、含蓄セリト、見ユルナリ、此篇ニテノ論題ナル、感動ノ種類ハ、其品性、道德ニ合ヘリヤ、而テ、若合ヘルコト、有リトセハ、如何ナル所ナリヤ、ト云フハ、極メテ論辨ヲ、費シタル疑問ナリ、恐ラクハ、此問題ハ、其本來ニテハ、心理ノ學ヨリモ寧ロ、道德ノ學ニ屬スヘキ事ナレド、余茲ノ連絡ニテ、之ヲ表章スルコト無ケレハ、通過スルコト、能ハス、茲ニ最後ニ論シタル忌嫉、嫉妬、報復ト云フ、惡意ノ情



ノ諸形狀ニ就テノミハ、疑フヘキコトナシ、之ヲ發スルハ、既ニ述ルカ如ク、少シク省察選擇ノ運用ヲ含蓄ス、故ニ其運用ハ、本能ニ非ス、有意ニ屬スレハ之ヲ管束スルニ堪ユヘキ者ナリ、是ヲ以テ、之ヲ道理ノ嚴正ナル管轄ニ屬シ、恒ニ吾人ノ躬行ヲ指揮スル、高キ諸規ヲ以テ、之ヲ束縛屈折スルニ非レハ、吾人責黜ヲ免レス、其形質ト、度量トニ於テ、之ヲ縱イマ、ニスルハ、視テ以テ、擯斥スルニ足レリトス、是カノ智慮深キ一理ヲ以テ、人性ニ賦與セル忿恨ノ一元ノ顛例セル者ニテ、其偏尙ハ、過惡ニ出サルコト莫ク、而テ、唯過惡ニシテ、其善アルヲ見ス、此諸語ノ本來、全ク惡意ナリトス

單素ナル  
忿恨ヲ論  
ス

忿恨ノ初元、其單素合當ナル者ニ至テハ、其運用、純然タル本能タルヨリモ、寧ロ、有意思慮ニ屬シ、中ニ、省察理性ノ運用ヲ含蓄スレハ、凡テ此等諸種心性ノ作用ト共ニ、稍德義ノ品性ニ合スルアリト謂フヘシ、故ニ其該當ナル疆界内ヲ、出テスシテ、發スルコト、機ニ中レハ、是固ヨリ、一徳トナスヘク、唯其疆界ヲ越ニ、過度ニ失シ、其境遇、之ヲ要セサル時ニ、發スレハ、惡徳トナル耳

本能タル  
忿恨ヲ論  
ス

茲ノ問題ハ、本來忿恨ノ一形狀、純然本能ニシテ、理性省察力ノ運用ヲ兼テサル者ニ係ハル即チ、此ノ如キ情モ、嚴密ニ名狀シテ、德義ノ經ニ、合フ品性アリヤト、云フコトナリ、人ノ行爲、凡テ自ラ其責ニ任スヘキ者ハ、唯其理性ニ本ケル、有爲ノ動作ニシテ、之ヲ爲スト、爲サルトハ、全ク、其人ノ自ラ擇ム所ニ任スヘキ事ニ於テノミ、其實ニ任スヘシト、謂フコト、的然タル正義ノ本則ニシテ、人間普通ノ理會ト、一致スルコト、見エタリ、然ルニ今、純然タル本能上ノ事ハ、此ノ如キ品性ヲ、具セサルコト、明カナリ、然ルニ、余今、的然不正横虐ヲ、被リタル時、余カ胸中ニ、生スル忿恨ノ感動ヲ、壓伏スルコトハ、余カ力ノ能フ所ニテ、余能、此ノ如キ感動ヲ、胸裏ニ匿スコト、拒ミ、余能、之ヲ擠壓シテ、其上ニ超然タルヲ得ヘシ、然レ、其感動ハ、固ヨリ本能ニシテ、余其初頭醒發シテ、衝動スル所ハ、之ヲ防クコト能ハサルナリ、故ニ、余ハ、唯、外科醫ノ剪刀ニテ、切斷ヲ受ル時ニ、我カ筋維ノ無意ニシテ、収縮スルヲ、努力シテ、拒ム耳

阿巴威、來  
德札拉墨

余以謂フニ、方今、一般ニ、性理家ノ主張セル見解ハ、大率左ノ如シ、阿巴威氏曰ク、本能上ノ忿恨ハ、絶テ、道義ニ合スル品性アルコト無シ、道義ニ合



耳諸氏ノ見解ヲ論ス

セル品性ハ、恚恨ニテモ、獨リ有意ノ形狀ニノミニ、歸スヘシト、是ト同一義ニテ、他ノ情款并ニ、一般ノ感性ヲ論シ、凡テ諸情共ニ、純然タル本能ヨリ、發スル者ハ、絶テ道德ニ合フ品性ヲ具スル者ニ、非ストセリ

學士來德ハ、人心能動勢力論中ニ、左ノ語ヲ載セタリ、曰ク、意ノ關セサル事ニ於テハ、何事ニテモ、之ヲ、德義ニ合セリトモ、德義ニ背ケリトモ、正シク、名狀ス可ラサルナリト、凡テ文明ナル國ニ於テ、刑法裁判所ノ慣習ハ、皆此本規ニ本ケリト、其言ニ曰ク、若一國ニ於テ、一裁判權アリテ、一人ヲ罪アリトシ、之ヲ刑罰ニ處セムトスルニ方リ、其罪タル、其國人舉リテ、究竟ニ無意ヨリ、發シタル事ナリトセハ、則チ滿世界、皆其國ヲ譴責シテ、正義ノ元規本則ヲ、知ラサルノ國トセム耳ト

學士札拉墨耳ハ、茲ノ論題ナル道理ヲ以テ、人間道德上ノ辨別中、元始普通ノ一理ト見ムト欲セリ、曰ク、人ノ辨別ノ通俗タル耳ナラス、普通ニ沙ル所ヲ觀レハ、依テ以テ、道德學ノ眞實ナル元理ハ茲ニ存スルヲ、知ルナリ、而テ、其辨別ノ通俗タル耳ナラス、普通タリト、確定スヘキ者ノ中ニ、就テ、其第一ハ、有意ニ屬セサルノ事ハ、道德ト、不道德トヲ、論スヘキ無シト、

辨決スル事ナリト

又曰ク、是ヲ以テ、其行事之ヲ道德ニ徵シテ、或ハ善スヘキ事タリトシ、或ハ罪スヘキ事トシテ、正シク、之ヲ辨決ノ目的ト、ナサムト欲セハ、其事ヲ行フニ方リ、意ノ許諾アリテ、共ニ經行シタル者、タラサルヲ得カ、故ニ、其事タル、必ス執意ノ結果ナラサルヲ得スシテ、苟モ執意ヲ兼ルニ非レハ、其德義タルカ爲ニ、之ヲ譽メムト欲スルモ、其罪業タルカ爲ニ、之ヲ譏ラムト欲スルモ、其場圈内ニ在ラサルコト、明カナリ、是ヲ以テ、其行事タル、誠ニ無意ノ事タラハ、道德ニ於テ、其是非ヲ論スヘキ者タラサルハ、猶手腕上動脈ノ、遲速道德ヲ以テ、論ス可ラサルカ如シト、(道德性理學稿本第五篇、情ノ道德論ヲ見ヨ)

第三部 欲ヲ論ス

第一篇 欲ノ情狀并ニ、彙類ヲ論ス

欲ノ一般ノ品性ヲ論ス

吾人、自ラ享ル所ノ物ヲ愛シ、而テ、享テ愛スル所ノ物、既ニ現存セサル時、若クハ、猶現存スレド、將來必ス亡スヘシト、視タル時ハ、其物欲ノ目的トスルナリ、此中、後ノ事例ハ、蓋シ、其欲スル所ノ物ヨリモ、寧ロ、其愛ヌル目



的ノ續ヲ止マサルニ在ルチ、一層本來ナリトス、之ヲ嚴密ニ言ヘバ、吾人、  
 欲スル所ノ物ハ、唯其物佳好ニシテ、快樂ニ供スヘシト雖モ、未タ我カ有  
 マラサル所ニ、存スルナリ、故ニ、欲ノ目的ハ、我自ラ、現實ニ、稍其樂ヲ享ケ、  
 體驗ニテ、其估價如何チ、知リタル物ナルコト、一層屢ナリ、然レ、我カ自己  
 ノ體驗ヨリモ、他ノ道ニテ、其物ノ貴重チ、知ルコトモ、亦鮮カラスシテ、吾  
 人之ヲ觀察ヨリ、又、他人ノ證言ヨリ、採リ、又一分ハ、想像ヨリモ、取ルコト  
 アリ、此ノ如キ時ハ、蓋シ、其物タル、曾テ自ラ、現實ニ、之ヲ享ケタルコト無  
 キモ、佳好ニシテ、快樂ニ供スヘシト、世ニ稱シ、若クハ、自ラ、假想スル所ノ  
 物モ、亦欲ノ目的トナルナリ、故ニ、吾人ノ富ト、權勢トニ於ケルハ、我カ有  
 トナリテ、之カ樂ミチ、享ケサル前ニ、既ニ久シク、之ヲ欲スルナリ、カノ吾  
 人ハ、猶地球上ニ、香花ノ旅客タレハ、未ダ曾テ、甚々遠遠ナル國チ、見タル  
 コト無シト雖モ、未來ニテ、公義ノ人チ、待スル祺福ハ、欲ノ中ニテモ、格別  
 一定セル目的タリ、然レ、此ノ如キ假想ニ、出タル事例ニテサヘモ、縱ヒ同  
 一物ナラスモ、猶其物ニ就テ、彷彿ニハ、體驗ニ享ケタルコトアリ、其眞ニ、  
 富ト權勢トニ依テ、被ムル利益ニ比スレハ、其度量、極メテ些少ナルモ、層

體驗ニ根サスハ、明カニシテ、カノ今日、我カ享ル幸福モ、未來ノ一層盛ン  
 ナル福分チ、想像中ニ、生セシムルコト、疑ヒ無シ、故ニ、吾人ノ欲ノ基礎チ、  
 立ツル者ハ、過去現在ニ、享ケタル佳好チ、此心ニ、旺現セシムルニ、非ルコ  
 ト莫ク、若吾人チシテ、曾テ其一點モ、享ケタルコト、無ラシメハ、亦其一點  
 モ、欲スルコト、無カルヘキカ、是疑フヘキ所ナリ

感性ノ理  
法ヲ論ス

然ラハ即チ、感性ノ一大理法ハ、情ノ諸種類ノ、交互ニ相旺相スル次序ト、  
 關係トニ就テハ、左ノ如クニ、説クコトヲ得ヘシ、曰ク、我○享○ケ○我○愛○シ○而○テ○  
 我○欲○ス○ル○ナ○リ○而○テ○其○反○對○ハ○我○苦○シ○ミ○我○厭○ヒ○而○テ○我○憎○惡○チ○生○ス○ル○ナ○リ○  
 是即チ、心ノ運用ノ、次序理法タルコトハ、達美論ノ、哲學課本中ニ、能示セ  
 ル所ニテ、其前ニハ、猶弗魯哇モ、之ヲ論セリ

欲ノ状態  
ヲ論ス

欲ハ、單純ニテ、限局ナキ感動ナリ、唯其見ルヘキ状態ト、依テ起ル所ノ機  
 會トチ、名狀シ得ヘキ耳、而テ、此状態ト、機會トハ、既ニ語リシ二個ノ事情  
 ニテ、一ハ、其快樂ニ供スヘキ物體ニ於テ、以前、少シニテモ、其樂ミチ、享ケ  
 タル事ト、現在ニ、其物體ノ在ラサルカ、又ハ、此後アラサルヘシト、觀定メ  
 タル時トナリ、故ニ、此二様ノ約束タニ、備ハレハ、我ノ欲、一時ニ、心中ニ發



動ス、而テ、其欲ノ度量ハ、其以前ニ、享ケタル深淺ト、我カ指目スル物ノ、我カ心ニ、醒發スル情款ノ強弱トニ、準スルナリ

欲ノ反對  
タル厭惡  
ヲ論ス

欲ノ反對ハ、厭惡ニテ、其物體ヲ、快樂ナリト視ス、不快樂ナリト視、善ナリト視ス、惡ナリト視テ、生スル感動ナリ、是亦、欲ノ如ク、少シニテモ、經驗ニ本ツシ者ニテ、稍現實、若クハ、想像上ヨリ、苦チ生シ、其意ノ存スル中ハ、其物ヲ、不快憎惡ノ目的トシ、縱ヒ、目前ニ存セサルモ、將來ニ、現形スヘキ物ナリト、視タル所ニテ、厭惡ノ目的トナル、故ニ、厭惡ト、并ニ、其反對タル、好欲トハ、其基礎ヲ、過去ニ居エテ、其目的ヲ、未來ニ見ル者ナリ

吾人ノ厭惡ハ、情中ノ一種別ナル種類トシテ、別段ニ、之ヲ論明スルハ、要セサル所タルヘシ、何トナレハ、是皆唯、欲ノ反對タルコト、許多ニ居レハナリ、猶生チ欲シ、幸福ヲ欲スルノ、欲アレハ、是ニ對稱スル、勞苦ヲ惡ミ、死チ惡ムノ、厭惡アルカ如シ、其他ノ欲ニ就テモ、然ル者ナリ

欲ハ必ス  
情ノ先ダ  
ツ者アル

欲ノ性ニ就テ、見レハ、其他、猶表示スヘキ事アリ、欲ニハ、必ス、一ツノ物アリテ、此物、快樂ニ供スヘク、而テ、今現ニ存セサルノ意アリ、又欲ニハ、其今、現存セサル物ニ就テ、前時嘗テ、少シシモ、其樂ミヲ享ケ、或ハ、然ラサルモ、

ヲ論ス

稍、其存スル所アルチ知り、且我カ缺乏ヲ、補足スルニ、足ルチ知ルノ意アリ、是欲ノ、由テ生スル基礎ナレド、然レ、其欲、此現存セサル物ヲ、只ニ知り、智力ニテ、觀シテ、再ヒ我カ意思、想像中ニ、現ハレタルヨリ、直チニ、發生スル者ニ、非スシテ、必ス先ツ、其意思、知覺ヨリ、多少ノ情緒情款ヲ、提陞シ、其情ニ亞テ、欲生シ、其情ヨリ、發スルナリ、故ニ、以前余カ、愉悅セシ物ヲ、只知覺シタル耳ニテハ、直チニ、余カ心ニ、其物ノ欲ヲ、自然ニ、發生セスシテ、情緒情款アリテ、始メテ、之ヲ發シ、情ヨリ、欲ハ生スルナリ

欲ノ永久  
ナルヲ論  
ス

吾人ノ欲ハ、他ノ情緒情款ニ比シテ、一層永久ニ、引ク者ナリト見ユ、依テ、以テ、或ハ此一種ノ感動ヲ、他ノ感動ヨリ、區別スル品性トシテ、觀ル者アレド、蓋シ恐ラクハ、是甚シク、欲ノ性ニ、關スルコトニ、非スシテ、其欲スル所ノ物ハ、必ス我カ前ニ在ラサル物ナルニ、其物ヲ得サル間ハ、之ヲ欲スルノ欲、必ス陸續トシテ、間斷ナク旺スト云フ事實ニ、係ハルナリ、故ニ、我カ欲ノ、既ニ發シテ、一定シタル時ハ、速カニ必ス、之ヲ飽足スヘキ者メラシメ、ハ、欲ト雖レ、心ノ他ノ形狀ヨリ、一層永久ニ、存スルコト、莫カルヘシ

欲ハ起動

且又爰ニ表章スヘキハ、欲ト云フ者、其性質ニ於テ、心ニ、發作チ命スル發



カタルヲ 條ニシテ、起動力ナリ、故ニ、是若シ無二ノ源由ヲラサルモ、必ス心ノ發作ス  
ル首因タルコト、明カニシテ、此心ヲ、事ノ舉行ニ、促カシ勸ムル者ナリ、故  
ニ、形體并ニ、心意ノ能力ニ、一様法ヲ以テ、欲ノ管轄ニ屬セリ、心ノ靈智ノ  
ミニテ、事ノ舉行ニ、導ク者ニ、非ス、又情ノミニテモ、斯ニ導ク者ニ、非ス、恆  
ニ情以テ、此心ヲ、攪動シ、此欲ヲ、提醒スルニ、至ル耳、而テ、欲ハ、一定ノ物、得  
ヘクシテ、未ダ得サル所ニ、此心ヲ、定メ、心ト體トヲ、促カシテ、兩ツナカラ、  
欲スレド、未ダ得サル目的ニ、達スヘク、進發セシムル者ナリ

欲ノ彙類 吾人ノ欲ハ、其目的ニ、從ヒテ、類別スルヲ得ヘシ、而テ、其目的ハ、二種類ナ  
リトス、一ハ、形體ノ性質ニ、屬シ、一ハ、形體ヨリモ、寧ロ、心ノ要求ニ、關スル  
者ナリ、故ニ、肉體上ト、理性上トノ、二種トスヘク、而テ、肉體ノ欲ハ、其源ナ、  
人ノ形體ノ資質ニ、取リ、理性ノ欲ハ、其源ヲ、形體ヨリモ、此心ノ性質要求  
ニ、取ルナリ、肉體欲ノ一類中ニハ、飲食ノ欲、男女ノ欲、隙力ノ欲、休憩ノ欲、  
其他、何ニテモ、言ハ、肉體獸性ノ資質要求ニ、適當スル者ナリ、理性欲ノ  
一類中ニテ、尤著シキ者ハ、幸福ノ欲、知識ノ欲、權勢ノ欲、倫交ノ欲、他ヨリ  
敬重ヲ、受ルノ欲ナリ

此欲トノ連絡ニ於テ、又カノ情ヲ、講究スヘシ、是尋常、希望、恐懼ト名クル  
者ニテ、前ニ、余カ、感性ノ分解中ニ、述ヘシカ如ク、此心ノ發動ノ、殊別ナル  
本元様法トスルヨリモ、寧ロ、欲ノ變形ナリトシテ、觀ルヘキ者ナリ  
第二篇 形體ノ資質ヨリ、生スル諸欲ヲ論ス  
形體ノ資質ヨリ、生スル諸欲ハ、尋常、嗜欲ト名ケ、心意ノ性ニ本ツク諸欲  
ヨリ、之ヲ區別シタリ、然ルニ、カノ哲學諸家ニ在テハ、之ヲ、欲中ニ列スル  
ヲ、必トセサル者アレド、是皆、本來、欲ノ一種ナリトス、是皆、或一物ヲ、良好  
ナリト觀、其真ニ然ルト、假想ニ出ルトヲ、問ハス、以テ、我カ體ノ急需ニ、供  
スルニ足レリト、做シ、未ダ現ニ、之ヲ有スルコト、能ハサル時、生スル所ノ  
感動ナリ、其物ヲ、現ニ有セサルニ、因テ、以テ、渴望ヲ起シ、其渴望、カノ、饑渴  
ノ如ク、唯、筋肉維ノ感覺ニ、ノミ屬セス、總テ、心ヲ、動かサスニ、至レハ、純然  
タル欲ナリ、是斯ニ、述ヘタル所ニ、就テ、觀テ、他ノ諸欲ト、異ナル所ハ、心ノ急  
需ヨリモ、形體ノ性ト、其急需ヨリ、發生スト、云フニ、在リ、然レ、此故ヲ、以テ、  
心ノ情狀ヲ、異ニシ、心裏ノ現象ヲ、生スルコト、鮮キニ、非ルナリ

此語ノ意 嗜欲ト云語ハ、曖昧ニテ、時トシテハ、唯、筋肉維并ニ、神經維ノ情狀タル、饑  
百四十七



曖昧ナル 渴等ノ如キ形體ノ不平ナル感覺マテヲ徴シ、又時シテハ、其情狀ヨリ發  
テ論ス シ、本來欲ト呼フヘキ心ノ情狀ヲモ指セリ、性理學ニテ論スヘキハ、此後  
ノ所ニノミ在リテ、前ノ所ハ、生理學ノ域内ニ在ルナリ

尤切要ナル者ノ枚  
舉并ニ各ノ完成ス  
ヘキ目的  
ヲ論ス  
余カ今指ス欲ハ、其一類中ニ、諸種アリ、總テ直チニ形體中ノ諸種ノ急需  
ニ係ハリ、而テ是ヨリシテ發スル諸嗜欲ヲ包含セリ、其中尤切要ナル者  
ハ、飲食ノ欲、男女ノ欲、是ニ又陳力ノ欲、休憩ノ欲ヲ加ヘ、得ヘシ、人ノ形體  
ノ性ハ、此欲ノ基礎ヲ居エタル如キ者ニテ、是皆我カ血氣ノ性ニ屬シテ、  
生々ノ家道ヲ成ス爲ニ、至切要ノ部分ナリ、是皆直接若シハ、媒接ニ於テ、  
其一個體ニ在ルト、其種屬全體ニ在ルトヲ論セス、生々延長ニ資スル者  
ニテ、嗜欲即チ名稱ヲ撰ヒテ、之ヲ唱フレハ、肉體欲ト云フ者ハ、各自種別  
ノ目的アリテ、之ヲ完好ナラシメムト欲シ、以テ、其普通ノ一目的ヲ達セ  
シムル者ナリ、故ニ飲食ノ欲ハ、一個體ノ生ト力トヲ保全延長スルコト  
ヲ期シ、形體上ニ於テ、陸續經過スル消耗ヲ、充補スル者トシ、筋維上、陳力  
休憩ノ欲ハ、亦同一普通ノ謨圖ヨリ出テ、而テ、男女ノ欲ハ、種屬全體ヲ保  
全延長ナラシムルヲ、其目的トナスナリ

此本元ノ  
切要タル  
ヲ論ス

此諸欲ノ各自ハ、唯其完成スヘキ種別ノ目的ヲ有スル耳ナラス、吾人ノ  
見ル所ニテハ、此ノ如クナラサレハ、完成スヘキ道ナキ、一目的アリ、理性  
ハ、此形體ヲ、榮養スル爲ニ、飲食ヲ取ルノ便利、又我カ疲勞シタル力源ヲ、  
更新スル爲ニ、陳力ノ間歇ニ於テ、休憩スルノ便利ヲ、告知シ得ヘシト雖  
也、然レ、天ヨリ我ニ、賦與シタル欲ノ在ル有リテ、以テ實ニ、其鑿足ヲ求メ  
シム、若吾人、血氣ノ體ヲ、管束スル所ノ理法ヲ、擅マ、ニ、超過スルコト有  
レハ、此欲、直チニ理性ヲ促カシテ、我ニ省察セシムルコト、微リセハ、カノ  
人間事務ノ繁劇ナルニ當リ、幾ハクカ、ソレ吾人ヲシテ、適宜ニ、形體ヲ保  
護スルコトヲ忘レ、要スル所ノ食物、要スル所ノ休憩、要スル所ノ筋維ノ  
陳力ヲ、廢スルニ至ラシメサラムヤ、若嗜欲ノ急需、促ス所アリテ、理性爲  
ニ之ヲ指揮スルコト、微リセハ、其形體ノ要スル所、食物、休憩、并ニ、筋維ノ  
屈伸ニテ、充補スル所ノ者ニ於テ、其度量ヲ制シ、其形質ヲ定メ、其比例ヲ  
酌量スルニ當リ、幾ハクカ、ソレ吾人ノ辨決ヲ誤ルコト、無クサムヤ、是他ノ  
獸性欲ニ於ルモ、亦均シク、然ル者ナリ、故ニ、此諸欲ハ、皆生々ノ家道ニ於  
テ、動機ヲ生スル爲ニ、少ク可ラサル者ニシテ、其動機ハ、他ノ道ヲ以テ、存



ス可ラス、故ニ亦依テ以テ、他道ニテ得可ラサル效用ヲ成スナリ、故ニ、余  
カ指ス所ノ本元ハ、形體ノ急需ニ係ハリ、人獸ヲ通シテ、一般ニ須要ナル  
所ナレハ、之ヲ切要ノ瑣々タル者トシテ、視ル可ラスシテ、反テ、至高ナル  
切要貴重ノ者トスヘシ、故ニ、是ヲ適宜ニ貴重スルハ、固ヨリ、吾人至高ナ  
ル福履ニ、少ク可ラサル者ニシテ、之ヲ慢ニシ、之ヲ過ルハ、自己直チニ其  
實責ヲ被ル者ナリ

吾人、肉體ノ性ヲ辱カシムルコト有レハ、是自己ヲ辱カシメ、且天ノ我ニ、  
賦與スル性ヲ辱カシムルナリ、之ヲ輕忽ニスルハ、是皇天ノ睿明仁慈ヲ、  
輕蔑スルナリ、故ニ、カノ寶玉ヲ愛スル者ニシテ、之ヲ藏スル匣櫃ヲ輕シ  
スルハ、豈智慧アリテ、道理ヲ知ルノ部分ナラムヤ、若其匣櫃ヲシテ、貴重  
スルニ足サラシムルモ、其用ヲ爲スニ於テ、豈貴ナラスト、謂ハムヤ、況ヤ、  
是固ヨリ、奇巧美妙ヲ極メタル、稀世ノ工手ノ作タルヲヤ

私欲ナラサルヲ論ス

嗜欲ハ、其性ニ於テ、本體ヨリ、私欲ナリト、視ル可ラス、是皆實ニ、吾人自己  
身體上ノ、急需ニ係ハル、是凡テ、吾人ノ諸欲、并ニ、少シクハ、凡テ、吾人ノ感  
性モ、亦皆、此ノ如キ者ナリ、然ルニ、適宜ナル界限内ニ、之ヲ行フハ、他人ノ

正義、幸福ト、相忤スルコト無ク、寧ロ、此ノ如キ效用ヲ、促進スヘシトス、故  
ニ、此語ノ本來ノ意味ニハ、非レド、私欲ノ偏癖タルニ非ス、此諸欲ノ、至極  
ノ正鵠ハ、其人ヲシテ、此饜足ニ依テ、享樂ニ、一定ノ總計ヲ、獲セシムルニ、  
非スシテ、此享樂ニ依テ、他ノ道ニテハ、達ス可ラサルノ、一目的ヲ、獲セシ  
ムル爲ナリ、故ニ、是皆、吾人ノ性ニ、稟テ固有スル者タリト、定ムヘクシテ、  
私欲ニテ、慣習ヨリ得タル偏癖ト、爲サ、ルヲ、勝レリトス

危殆ナル偏尙ヲ論ス

然也、余亦決シテ、忽略ス可ラサル事實アリ、肉體上ノ諸欲ハ、之ヲ放肆ニ  
シテ、此心ニ頗ル管束ヲ得ルニ至レハ、危殆ナル偏尙ニシテ、是カ爲ニ、慎  
重シテ、之ヲ界限内ニ、控勒スルコトヲ、要スルナリ、是皆、過失ニ、陥リ易キ  
者ニテ、若他ノ一層高キ躬行ノ、諸本元ヨリ、上ニ位シテ、盛旺スルノ難ア  
ル時、又若、此諸欲、服從控御ヲ免カレ、己主ト爲リテ、人ヲ管轄スルニ、至ル  
時、ハ人ヲシテ、獸畜ノ水平マテ、沈没セシム、此時ニ方テハ、凡ソ日ノ照ス  
地球上ニ於テ、觀テ以テ、慘怛悲哀スヘキ者、此人ヨリ、甚シキハ莫ク、理性  
靈智ノ才能ヲ以テ、賦セラレタル心ニシテ、自己ノ卑劣ナル欲ノ爲ニ、奴  
隸タレハナリ、凡ソ奴隸ノ中、此ノ如キ汚辱ナル奴隸ナク、是復舊ノ望ヲ、



絶ッ者ナリ、此時ニ當テハ極メテ、懇篤ナル努力モ、至善ナル志望モ、至切ナル決断モ、之ヲ爲シテ、無益ニ屬スルコト、殊ニ屢ニシテ、此心、其自己ノ偏癖ト争ヒ、其自己ノ壞敗シタル慣性ト、闘フト雖モ、既ニ其目的ヲ失ヒ、其管制ス可ラサル怖ルヘキ急流ノ中ニ、漂蕩シ去ラル、是ニ於テヤ、其嗜欲ハ、遂ニ控勒ヲ脱シ、猶カノ帆モナク舵モナキ船ノ、如何トモ爲ル勢力、無キカ如ク、旋颯ノ難ニ依テ、迅速ニ減縮スル颯心ニ、埋没スルニ至ル

吾人ノ活動ノ本元ハ、練磨ニ依テ、愈、強力ヲ得ルト雖モ、其本元ヨリ供スル所ノ、苦樂ヲ受ルノ度ハ、反復ニ依テ減スルコト、是人性理ノ法タリト見ユ、是士低瓦的氏ノ、明カニ説カレタル所ニテ、此理法ヨリシテ、肉性欲ハ、孰レニテモ、久シク過度ニ耽リタル時ハ、本本此ノ如キ沈溺ヨリ、鑿足ヲ得タリト雖モ、竟ニハ、依テ以テ、快樂トスルニ足ラサルニ至ルト、云フコトヲ、生スルナリ、此ノ如クナレハ、其欲ノミハ、甚シク增長シテ、陸續トシテ、其要求ヲ増スノミ、蓋シ、凡ソ此心ノ情狀窮苦慘怛、是ヨリ甚シキ者ハ、莫カルヘシ、此ノ如ク、欲ノ爲ニ、壓搾セラレタル心ハ、猶歡樂ノ杯ヲ舉テ、最後ニ、辛苦ナル滓滴ヲ、飲ムカ如ク、是猶、健啖流飲、長夜ノ宴ニ於テ、反

復シテ、限極ナキカ如シ、是ニ至リテハ、一瞬時間ト雖モ、之カ鑿足ヲナスノ、術ナキニ至ル、其愚モ亦甚シ、眞ニ妖魔ノ性ト謂フヘシ、憐ムヘキノ甚シキナリ、カノ醉漢、饕餮、蕩子、嫖客ハ、此本元ノ的然タル例ナリ

爰ニ至ルマテ、余カ話シタル、天然ノ嗜欲ハ、形體ノ性ニ本ツク者タリ、而テ之ニ加ヘテ、一ノ嗜欲アリ、是人爲、又慣習セル欲トシテ、視ルヘキ者ニテ、即チ、野蕃ト、開化ノ國トチ論セス、彼カ如ク、廣布シ、殆ト普通ニ、盛ナルニ至リタル、カノ麻醉衝動ノ諸種并ニ、催醉ノ飲料、是ナリ

第三篇 心意ノ資質ヨリ、生スル、諸欲ヲ論ス

第一章 幸福ヲ願フノ欲

形體ノ性ニ根サスヨリモ、寧ロ、心意ニ、其基本ヲ立ル諸欲ノ、種類中ニテ、最モ切要ナル者ハ、幸福ヲ願フノ欲ニテ、即チ、屢稱號スル、自愛ナリ、此名義ノ宜不宜ニ就テ、爭案ヲ生シ、士低瓦的氏ハ、曰ク、此表名ハ、廢スヘシ、蓋シ、カノ道理ヲ知ル者ハ、各、其自己ノ幸福ヲ、重ニスルコト、已ム可ラサルニ出ツ、然ルニ、此愛ト云フ語ハ、此貴重ト、吾人、同人ニ附スル所ノ、仁愛ノ情トノ間ニ、類似ノ意ヲ、(其實爰ニ一モ、類似ナルコト、無シ)徵スル故ナリ、

自愛ト云フ名義ノ宜不宜ヲ論ス

情トノ間ニ、類似ノ意ヲ、(其實爰ニ一モ、類似ナルコト、無シ)徵スル故ナリ、



然ルニ此二元ノ中ニテ前アル者ニ於テ愛戀ノ情ニ類似シタルコトハ、絶テ無キコト必セリ故ニ之ヲ呼フニ自愛ノ名稱ヲ以テスルハ其欲ノ性ヲ目的トシテ一ノ考定ヲ立ルナリ而テ其實絶テ基礎ナキ考定ナレハナリト

此疑問ノ有ル所ヲ論ス

余カ曉解ニ於テハ以謂ヘラシク此表章ハ士低瓦的氏殊ニ其穿鑿ニ過キダリトソレ吾人自己ノ幸福ノ爲ニスル貴重ハ固ヨリ他人ノ幸福ノ爲ニ存スル所ノ貴重トハ異ナルコト明カナリ何トナレハ孰レノ事例ニテモ其貴重ヲナス所ノ目的固ヨリ異ナレハナリ然レ其情ノ本體ニ於テ同一ノ性質ニ非スト云フハ之ヲ性理ニ考徴シテ甚ダ明確ナラス愛即チ情款ハ既ニ前篇ニ於テ之カ定義ヲ示シタル如ク其目的タル物ノ善ヲ欲シ善ヲ願フノ意ヲ混シテ其物ヲ樂シムコトナリ故ニ朋友ノ愛ハ朋友ニ於テ感スル樂ミニテ之カ爲ニ仁愛以テ之ヲ貴重スルナリ是ト同様ニテ自己ノ愛ハ自己ノ善ヲ樂ミ之ヲ欲スルコトナリ乃チ誰ニテモ自己ニ樂ミヲ享ケ自己ノ善ヲ願フ時ハ是自愛ヲ爲スナリ故ニ此情款ノ本體タル劑料ハ其人自己ノ幸福ニ就テノ欲タルニ過キス然ラ

ハ則チ我カ自己ノ幸福ノ欲ト吾人他人ニ向ヒ感スル所ノ貴重トニ於テ此二元ノ間ニ類似アル耳ニ非ス類似ヨリモ一層密ナル事アリトス是皆孰レノ事例ニ於テ其情ノ發スルモ心ノ活動ニ就テ觀ル所ニ於テハ其本體ニ於テ同一性ノ者ナリ而テ愛ト云フ語ハ本來心ノ此情狀ヲ徴スルコト彼此共ニ異ナルコト無シ余吾カ身ヲ愛スル實ニ吾カ友ヲ愛スルニ異ナルコト無シ況ヤ自愛ノ元ヲ視奪スルハ道理ヲ知ル性ニ於テ其本分ヲラサルチヤ

私欲ト混ス可ラサルヲ論ス

自愛ト云フ語ハ幸福ノ欲ヲ徴スル爲ニ用非タル者ナレト此話ニ就テ士低瓦的氏ノ懲懲セル論駁ニハ又一層ノカアルコトアリ是此論ハ其訓義ヨリシテ動モスレハ私欲ト云フ語ト混同シ易ク又事實ニ於テモ屢混同スルコト有レハナリ然レ私欲ト云フ語ハ此心ノ情狀ノ甚ダ異ナル者ヲ徴スル語ニテ是ハ他人ノ幸福權利ヲ蔑視スルコトヲ徴スル爲ニ不善ノ意ニ用ウルヲ常トス然レ自愛即チ幸福ノ欲ト云フ語ニハ此ノ如キ觀念ヲ著セス是士低瓦的氏ノ正シク表章セルカ如ク吾人道



神理學家ノ見解ヲ論ス

神理學ノ諸家ニ在テハ、古今共唯自愛ヲ以テ本體ヨリ罪業ナリトシテ、表セシ耳ナラス、是ヲ以テ人間固有罪業ノ本元過惡ノ根源トシテ、之ヲ

視タリ、是恐ラシクハ、語ノ類似ヨリ、錯マレル者ナルヘシ  
故ニ波爾樓ハ、誰因給拉ヲ援テ、其證トシテ、之ヲ確斷シ、英吉利ノ道德家モ、時ニハ、此見解ヲ執レル者アリ、又藝時ノ亞米利加ノ神學家モ、甚タ一般ニ此說ヲ主張セリ

自愛ハ罪ナラサルヲ論ス

ソレ人ハ、靈智ヲ具ヘ、道理ヲ知ルノ體ナリ、其性ニ屬セリト、見ユル所ノ本元ハ、何レニモセヨ、本體ヨリ、其性ニ於テ、罪責ニ屬スヘキハ、無カル可キノ事ナリ、此錯誤ハ、既ニ舉ケタル自愛ト、私欲トノ差別ヲ、忽略シタルヨリ、起リシコト、疑ヒ無シ

自己ヲ愛スルハ、之カ極ヲ盡シ、他人ノ幸福ヲ蔑視シ、他人ノ權利ヲ干犯シテ、只ニ自己ノ饜足ヲ謀ルノ道ニ於テセハ、實ニ正義ノ本元ヲ犯ス者ニシテ、尋常理會ニテ、人々ノ理性ニ因テ、論スルモ、固ヨリ罪スヘキ所トシ、又天啓ノ道ニ於テモ、均シク罪ス可キ事ニ屬ス、然リ而テ、カノ自愛ノ理ニ於テ、本來眞義ノ存スル所ニ越ユルコト無ク、吾人自己ノ幸福ヲ重

スルハ、固ヨリ、理性ノ禁スル所ニモ非ス、又神法ノ禁スル所ニモ非ス、是各人ノ胸裏ニ存スル所ニシテ、靈智ト、理性トノ光輝、滅絶シテ、全然黯黒ニ至ラサルヨリハ、人皆之ヲ認識スルコト、斷然肯定スヘキニ屬ス、カノ神典ノ如キ、何處ニ、此本元ヲ禁シタル語アル、其中實ニ吾人ヲ教誡シテ、我カ同人ノ愛ヲ重ンセシム、然ルニ、人ヲ愛スル、己レカ如クセヨト、云フ教語ノ中、其自愛ヲ禁スルトハ、相水火シテ、事ノ理勢然ラシムル所トシ、自愛ノ存スヘキ意ヲ含メ、依テ以テ吾人、他人ニ對シテ、有スル所ノ愛ヲ測量スヘキ者ハ、自愛マルコトヲ表明セリ

亞立斯度德ノ說ヲ論ス

余カ此前ニ、指述シタル諸說ヨリモ、猶一層正シキハ、亞立斯度德ノ、其弊倫學中ニ、取レル見解ニテ、善人ハ、其本體ニ於テ、自己ヲ愛スル者ニテ、眞ノ意味ニテハ、己ヲ愛スル故ニ勝ルナリト、曰ク、人アリ、正義節儉、其他ノ善行ヲ、行フコト於テ、人ヨリモ、勝サラムト欲セハ、縱ヒ、此ノ如キ人ハ、實ニ、衆人ヨリモ、一層眞ノ自愛ニ出ルモ、誰レカ亦、其己ヲ愛スルヲ、以テ之ヲ罪ナリトシテ、算スル者アラムヤ、然リ而テ、其自ヲ取ル所ノ者ハ、衆善ノ中、至美至大ナル者ニシテ、就中、己カ性中ノ主司タル本元ニ、尤モ悅フヘ



是固有無

キ者ニ非ル莫シ蓋シ人ノ性中ノ主司タル者ハ本來自己タル耳是猶各  
 國ノ君權ノ如ク一般ニシテ依テ本來其國ヲ成ス者ナリ且ソレ人ニ在  
 テ此本元統御ノ權ヲ執リ或ハ他ニ管制セラルニ準シテ其人自己ノ  
 志尙ヲ貫キ若シハ貫クヲ得スト云ヘリ然リ而テ其行事ノ中最モ有意  
 ノ舉トシテ視ルヘキ者ハ何ソヤ他ナシ此本元ノ立法ト主權ヨリ出ル  
 者ニ非ルハ莫シ故ニ人能其性中主司タル者ヲ優養シテ努メテ其欲ス  
 ル所ニ鑿足セシムレハ則チ嚴ニ之ヲ自己ヲ愛スル者ト謂ヒ其特  
 別ナルヲ稱スヘシ然レ自愛ヲ以テ訴責ノ事トナシテ視ル者ニ至テハ  
 其意全ク相反セリト（弊倫學ニコム名第九卷第八篇ニ出ツ）  
 人此本來ノ眞意ニ於テ自愛者タラスシテ其將來永久ノ福履ヲ蹂躪シ  
 テ只現在ノ快樂ヲ取り或ハ他人ノ權利幸福ヲ踏破スルハ徒ラニ其鑿  
 足ヲ求ムルナリ故ニ鑿發醉漢蕩子嫖客ハ眞ニ自己ヲ愛スル者ニ非ス  
 蓋シ此輩ノ實ニ譴責スヘキハ其自己ノ幸慶福履ヲ甚ク重ニスルニ非  
 スシテ殊ニ之ヲ輕ニスルニ在ルノミ

二ノ本元  
ナラサル  
ヲ論ス

ムルニ過キスシテ一本元タルハ固ナリト雖也然レ絶テ人性固有ノ無  
 二ノ本元トシテ視ルヘキニ非ス或ル道德學家ハ他ノ凡百本元ヲ自愛  
 ノ一ツニ歸シテ之ヲ以テ人々躬行凡百ノ源由トナサムト欲シ吾人行  
 フ所ノ事ハ直接ニテモ媒接ニテモ皆其因由動機ヲ斯ニ於テ視ルヘシ  
 トセリ此見解ニ從ヘハ余我カ朋友ヲ愛シ我カ親族ヲ愛シ我カ邦國ヲ  
 愛スル者ハ唯其福祉ト余カ自己ノ福祉ト親密ニ相連絡スルヲ以テノ  
 故ナリ余人ノ不幸ナルヲ憐愍シテ之ヲ救援スルハ唯其景況ニ依テ提  
 醒セラレタル不快ナル感動ヨリ我カ免カレムトチ欲スル爲ナリ余我  
 カ財寶ヲ捐テ我カ康安ヲ危ウシ我カ健全ヲ失ナヒ或ハ此生命ヲモ捨  
 ルニ至ル者ハ唯此ノ如クニ爲シテ得ラルヘキ所ノ一層盛大ノ善ヲ獲  
 ムト欲スルカ爲ナリ加旃正義ノ意味并ニ上天ヲ報スル義務ノ意味ノ  
 若キ凡ソ以テ我ヲ管束シ我ヲ控制スル者今日行事ノ本元ナリト雖レハ  
 其首トシテ維持ノカアルヲ見ルハ我カ自己ノ福祉ノ爲ニ之ヲ重ニス  
 ル所ニ在テ自己ノ幸福ハ他凡百ノ論題ニ於ケルモ亦皆然ラサル莫シ  
 此ノ如キ 此見解ハ凡テ眞ノ性理學ト相戾ルノモノナラス又人性ノ眞ヲ賊スル者



見解ノ執  
ル可ラサ  
ルヲ論ス

ナリ、論題ナル本元ハ、人々ノ躬行ニ於テ、至盛ナル源由中ノ一タリト謂  
ヒ、又此本元ハ、吾人ノ動機トナリ、行事ニ發スル所、登時之ヲ觀ルニ、全ク  
利害ニ關セサルカ如ク、見ユルト雖モ、其自己ニ知ル所ヨリハ、一層大イ  
ニ、吾人行事ノ源由中ニ存スル者ナリト、謂フハ余固ヨリ、之ヲ容ル、所  
ニシテ、又吾人正義ノ意味、并ニ奉神ノ義務ノ意味トモニ、本分ヲ盡シテ、  
幸福ヲ得ルノ連絡親密ニシテ、離析ス可ヲサルノ中ニ、強援ノ存スル有  
リト、謂フモ、亦拒マサル所ナリ、且ソレ、カノ經典ノ如キ、吾人正善ノ行爲  
ハ、其動機ニ、我カ幸福ノ愛ヲ省ルヲ常トセリ、故ニ、一方ニ於テハ、其報賞  
約束、又他ノ一方ニ於テハ、其儆誠威嚇、凡テ上ニ取レル、人性ノ此理法ニ  
本ツカサルコト莫シ、故ニ、人ハ、何ノ處ヲ論セス、何ノ時ヲ問ハス、其自己  
ノ、福履ヲ願フハ、其心ノ理法タルコト、著明ナリ、然モ、之ヲ以テ、人々行爲  
ノ、無二極功ノ地トナスト、謂ヒ、凡百仁惠ノ情意、凡百廉耻ノ操、凡百德行  
ノ事、凡百本分權利ノ意義、舉リテ悉ク、此一本中ヨリ、離解スヘシト謂フ  
ハ、是、吾カ理性ノ示サ、ル所、人心ノ縝密ナル、觀察モ、教ヘサル所、又天啓  
ノ道ニ於テモ、宜ヘサル所ナリ。

此欲理性  
ニ合フハ  
如何ナル  
意味ナル  
カヲ論ス  
○士低瓦  
的ノ見解

余斯ニ至ルマテ、幸福ノ欲ヲ、理性ニ合フ本元トシテ、之ヲ論シタリ、然ラ  
ハ、則チ、其意味ニテハ、幸福ノ欲ハ、道理ヲ知ル靈智ノ性ニノミ、特有ナル  
カ、然ラハ、則チ、此本元ト、連絡スルコト無ク、此本元ノ效驗タルコト、無キ  
時ハ、所謂理性ナル者ハ、他ニ觀ル可ラスト、云フカ如ク、理性ノ演用ヲ、合  
蓄スル者タルカ、果シテ以テ、然リ爲ハ、此欲ハ、乃チ、賦天固有ノ欲ト、謂  
フ可ラス、少クモ、之ヲ本能上ノ欲ト、謂フ可ラスト、是乃チ、士低瓦的氏、其  
作用徳性両力論中ニ、取レル見解ナリ、故ニ、幸福ノ欲ハ、士氏ノ意ニテハ、  
享樂ノ諸源由ヲ概觀シ、智力以テ、之ヲ思慮シテ、之ヲ前時ニ考ヘ、之ヲ將  
來ニ照シテ、何物カ、能ク極功ナル、恒常ノ福履トスルニ足リ、何物カ、其福履  
トスルニ足ラスト、云フコトヲ確定スルノ義ニ中レリ、然ラハ、則チ、之ヲ  
成スハ、理性ノ部分タリ、欲ニハ、非ルナリト  
幸福ノ欲ハ、理性ニ依テ、之ヲ演用シタル時、其中ニ、上ニ述ヘタル運用ヲ、  
多少含蓄ス、即チ、何物カ、幸福ヲ合成スヘキ、全體ノ中ニテ、何物カ、最モ善  
ナル、其善ナルハ、徒ニ現在ノミナラス、後來ニ至テ、如何ナルヘキヲ、稍理  
會スル等ノ、概括ノ觀念、又此普通ノ正鵠ヲ、達スヘキ弓矢トシテハ、行爲

專ラ然ル  
ニ非ルヲ  
論ス



ノ諸本元并ニ躬行ノ本末ヲ稍通覽シタル見解并ニ其中ニ就テ計較等  
 ナリ此等理性ノ運用ヲ含蓄スルハ固ヨリ容スヘキ所ナリ而テ自愛ヲ  
 演用スル時ニ斯ニ擧ケタル性質ヲ含蓄スル所ノヨミニ就テ云ハ、幸福  
 ノ欲ハ本能上ノ發動タルト云フヨリモ寧ロ理性上タリト謂フチ確的  
 ナリトス然リト雖田余カ解セサル所ハ同一ノ情其類ノ何タルニ拘ハ  
 ラス苟モ心ノ發動タル時一時ハ省察ヨリ發シ又一時ハ衝動ヨリ發シ、  
 其品性ニ於テ今ハ思慮セル理性上タリ次ニハ本能上タルコトヲ得サ  
 ルカ是何等ノ道理ソヤ吾人此事ハ事例アルチ知ル譬ヘハ善意ニテモ  
 惡意ニテモ情款ノ發スル時ニ於ルカ如シ人若其齡長シ能是非ヲ辨別  
 スルニ至レハ其理性ヲ演用シテ其性ヨリ示ス所ノ事ヲ確定固執ス或  
 ハ理性ノ決定ヲ其已チ行フノ首本トシテ取ル者アルニ至ル然ルニ此  
 事實ヨリシテ行爲ノ本元本能ヲラス本來人性ニ賦與セラレタル者ニ  
 非スト謂フ可シヤソレ凡百善好ヲ欲願スルノ事ノ爲ニ其善好ノ存ス  
 ル所何如タルヲ全然悉皆知ラサル可ラスト云フノ理無シ余ハ苟モ現  
 在ニ在テ幸福タルヲ知レハ余カ知識才能ノ度ニ進シテ余カ自己ノ福

社ヲ願フヲ得ル耳

其生存永  
 久ヲ願フ  
 ノ欲ヲ論  
 ス

上ノ論題ナル本元ト極メテ親密ニ一致シテ生存永久ヲ願フノ欲アリ  
 テ或ハ其實本來自愛ノ欲ノ變形タルモ知ル可ラサルナリ蓋シ人ノ心  
 腸ニ存スル所ノ欲此欲ヨリ一層強ク一層普通ナル者ハ莫カルヘシ故  
 ニ生命ハ他ノ凡百所有ニ超過シテ貴重ナル者ニテ富有名譽地位權勢  
 安樂ハ之ト比較シテ殊ニ其貴重ヲ缺ク者ナリトス然レ又耻辱ヲ受ル  
 時或ハ我カ保護ニ依頼スル無罪ニシテ慙恤スヘキ者ヲ保守スル時或  
 ハ至大至善ノ源由アリテ是カ爲ニ善正眞實ノ人ノ生命ヲ捐ル如キ大  
 難アル時此等ノ事ノ爲ニ寧ロ自ラ生命ヲ犠牲ニスルノ機會ナキニ非  
 ルハ固ナリ然ルニ此等ノ事例ニ當テサヘモ其生ヲ犠牲ニシテ要求ス  
 ル所ノ事ハ其切要タル莫大ニシテ吾人神卓上ニ在ル犠牲ヲ貴重スル  
 ハハ幾何ソヤ

此欲齡ト  
 共ニ增長  
 スルヲ論

生存永久ノ欲ハ齡漸ク進ミ生漸ク滅スルニ臨ミ增長スル者ト見ユ吾  
 人ハ多キ中ニ極メテ少ナキ者ヲ貴重スルチ常トス是神意仁惠ノ然ラ  
 シムル所ニテ其的然タル證憑ナリ何トナレハ此世界ハ注意勞苦悲憂



ス  
チ以テ、眞滿セル世界ニテ、其住人ノ大衆、現在モ、然ル如ク、將來モ、又然ルヘケレハ、僅少ノ價直ニテ、買フヘキ豆ノ如ク、此生命ヲ、輕ンヌ可ラスシテ、生命ヲ輕シスルヨリ、慘怛ナル者ハ、非レハナリ

第二章 知識ヲ求ムルノ

固有ノ一  
本性ヲ、混成スル諸本元、此心ノ動機力ニシテ、其發力ヲ、提醒喚起シ、以テ之ヲ行爲ニ、驅迫スル者ノ中、知識ヲ求ムルノ欲ハ、切要ノ地位ヲ、占メタリ、是理性省察ノ、未發ノ前ニ、既ニ、夙歲ヨリ、多少表現スル者ニシテ、縦ヒ、

其存在、普通ナラサルモ、一般ニ涉ルチ以テ、吾人、此本元ハ、本來、吾人ノ有體ノ大創造者ニ因テ、性中ニ、賦與セラレタル者ナリト、引證スルナリ

新奇特好  
ムト同シ  
カラサル  
ヲ論ス  
智識ノ援ハ、新奇ヲ好ムト、屢、同一意ナリトシテ、論スル者アリト雖、而、盡ク是ト、同一ニハ非ス、新奇ヲ好ムハ、何ニテモ、心ノ前ニ現ハル、物ノ、新鮮奇異ナルニ、係ハルコト、重シ、故ニ是ハ、未タ知ラサル物ヲ、知ラムト欲スルノ、一般ナル欲ヨリモ、寧ロ、新奇ナル形質ヨリ、提醒シタル感動ナリトス、是其用一層狹クシテ、其觀テ以テ、提醒セラレタル物ニ於テ、之ヲ理會セムト、欲スルノ欲ヲ、含蓄スルカ上ニ、又多少、驚異ノ意ヲ含ミ、其表現

シタル物體ノ、非常不意ナルニ、係ハルナリ、是ヲ以テ、新奇ヲ好ムハ、知識ノ欲ニ、至強ナル援助ヲ假シ、此心ノ發陳ニ、刺戟ヲ起シ、是無ケレハ、其發達ヲ、遲緩ナラシムト雖、而、之ヲ以テ、論題ナル本元ト、同一ナリト觀ルハ、難シトス

此欲夙歲  
ニ表現ス  
ルヲ論ス  
知識ノ欲ハ、恐ラクハ、夙歲ニ於ケルヨリ、其開發強キ時ハ、非ルナリ、又新奇ノ觀ヲ、ナスノ品性モ、此時ヨリ、十分ニ、援助ヲ假スノ時ハ、非ルヘシ、小兒ニハ、凡百ノ事物、皆新珍奇異ニシテ、凡テ世間ノ事物ヲ、周視シテ、皆知ラサル者トナスハ、世間ニテ、其兒ヲ知ラサルカ如シ、其目視ニ、遠スル所ノ萬物ハ、各其新タニ、學フ所、皆己レニ、隱微ナル者ナリ、故ニ己レカ、周匝ノ、新奇ニシテ、知ラサル世界ト、己レチ、慣熟セムト、欲スルノ欲、陸續其用ニ、供シ、陸續其學習ニ、供スルナリ

後年ニ於  
ケルヲ論  
ス  
漸ク生長シテ、其靈智ニテ、視ル所ノ眼界、漸ク廣大ナルニ至レハ、其進趨ノ步、毎ニ、新タニ、一層廣キ原野ノ、探查スヘキアリテ、前時ノ考究ノ界外ニ、涉レリ、故ニ、兒クリシ時、知ルチ好ムコト、鮮ナケレハ、長シテ、其熱心愈深ク、知ラムト欲スル欲ト、志ト、抗制ス可ラサルニ至ル、是ヲ以テ、其學習



ハ、其土ノ風習ニ依リ、其性質ニ從ヒ、又夙歲ノ交友ニ據リ、或ハ境遇ノ勢ニ沿ヒ、彼此ノ方向ヲ取り、或ハ科學ノ生徒、文學ノ生徒、藝術ノ生徒、若クハ商業、其他、生計ヲ謀ルノ徒タル等ニテ、如何ナル方向ヲ立テ、如何ナル職業ニ轉セムト欲スルモ、知識ノ欲ハ、常ニ心中ニ存シテ、眞理ノ籠前ヲ照ス、神秘ナル、永久燈火ノ如シ

傳説ノ愛  
ヲ解説ス

兒童ノ傳記、歴史、稗史ヲ聽クコトヲ欲スルノ熱心ハ、人皆知ル所ナリ、是夙歲ニ於テ、尋常甚ク強ク開發スル、理想ノ愛ニ係ハルニハ非スシテ、未ダ知ラサル、新クナル事ノ心ニ現ハレ、恰モ、其眞ニ迫ルカ如キヲ以テ、之ヲ知ラムト欲スルノ欲ニ關スルコト、一層甚シトズ、尙又此傳記ヲ愛スルコトハ、吾人、老大ニ至ルモ全ク吾ヲ棄置スル者ニ非ス、故ニ吾人、此年ニ至ルモ、猶稗史ナリ、歴史ナリ、詩篇ナリ、琴歌ナリ、悲曲ナリヲ愛シ、生活ノ計慮、痛ク我ヲ重困スルノ際ニ於テモ、依テ以テ、我ヲ樂マシムルコトアリ、恐ラシクハ、老人ト雖モ、傳記ノ説話ヲ聞キ、其情意ヲ曉解シテ、一次其情實知好ヲ、醒發スルコトアラハ、其感動ニ堪エサルコト、兒童ニ異ナルコト、莫ルヘシ

其仁惠ナル天賦タルヲ論ス

ソレ獨リ知識ノ欲ノミナラス、知識ヲ學習スル運用モ、亦眞ニ樂ムヘキ者タルハ、造物者ノ、人性ヲ混成スルノ、妙ニシテ、豈之ヲ視テ、唯仁惠ナル、天賦ナリトシテ、止マムヤ、此知識ノ欲ノ、人ニ於ケル、其切要ナル、幾許ナルヲ考ヘ、又其進歩ノ道、カノ靈智ノ曙光ヨリ、以テ其十分ニ、成熟強堅ヲ、得ルニ至ルマテ、ニヒト縦ヒ、クナレ卑下ナル胸裏ニ於ケルモ、日進月至ノ功ノ、幾何ナルヲ量リ、又紐順ノ若キ、ベイト夾波列爾ノ若キ、タスル脛根ノ若キ、ライ埒加爾多ノ若キ、フニット武尼多ノ若キ、其嬰房ノ、徐々軟弱ナル、學習ヨリ、始メ、竟ニ至大至高ノ發明ヲ、爲スニ至リ、其光輝ヲ發射スル、獨リ、此發明者ノ名ニ於ケル耳ナラス、後世ノ之ニ繼グ者ヲシテ、其餘光ヲ受ケシムルニ、至ラシメシハ、其心、此知識ノ欲ニ衝動セラレタルヲ知ルヘシ、凡ソ、此等ノ事ヲ、通考スル時ハ、吾人ノ心性中、此部分ノ切要タル、豈徒ニ、殊ニ高シト謂テ、止マムヤ、智識ノ欲ハ、既ニ余カ表章中ニ、入りタル多クノ能動ノ、諸本元ノ如ク、天賦ニ根サシテ、本能上ノ本元ナレモ、同時ニ亦、理性ノ演習管束ヲ、受クヘシトス、是其初メハ、寧ロ、ニヒト警突ノ衝動トシテ、發動シ、此心ヲ、一定ノ目的ニ、驅使スル者ナレモ、ニヒト理性一タヒ、此心ノ控勒ヲ、執ルニ當テハ、其活力ヲ發

本能上ノ本元ナレモ、理性ニ合スルヲ論ス



揮シテ息マズ、初メニ徒ニ衝動ニテ、其性本能タリシ者、今ハ思慮シテ、理ニ合フノ目的ヲ達スルニ至ル

其道德ノ品性ヲ論ス  
此欲、道德ノ品性ニ於テハ、論題ナル本元、即チ、理性ノ演習ニ關スルト、關セサルトアリ、智識ノ欲ハ、必ス、此心ノ善徳ニ合ヘル情狀ナリト、謂フ可

ラス、是其品性タル、固ヨリ徒ニ、肉性欲、即チ衝動タルヨリモ、一層高上秀出ニシテ、其格勝レ、等貴キコト、確然タリ、然レ、是道德上ノ極美ト、相結ヒテ、離レサル者ニハ非ス

是理性ニ據テ、之ヲ演習シ、當然ノ動機ヨリ發シ、正シキ目的ニ於テ、知識ヲ求ムレハ、善徳ニシテ、稱ス、ヘキノ事タリ、然レ、之ニ反スレハ、惡徳タリ、然ルニ、他凡百事ニ於ケル如ク、吾人、純然タル動機ヨリ、正シキ目的ニ向

ヒ、此欲ニテ、舉動スルノ義務ヲ、奉スルタケニテハ、善行タレ、苟モ、此ノ如キ動機ニ、出ルナクシテ、他ノ動機ヨリ發シ、他ノ様法ニ、於テスレハ、知識ノ欲ト、實行トハ、亦、擯斥スルニ、足レリトス

第三章 權勢ノ欲

其生來ノ勢ノ欲ハ、人性固有ノ一本元トシテ、視サルヲ得ス、幸福并ニ知識ノ欲

本元タルノ如ク、是亦、其開發ニ於テモ、夙歲ニ在リテ、此心ヲ、歷シテ、其變動ヲ起ス

チ論ス  
モ、亦盛ニ且表顯モ、亦普通ナリトス

如何ナル權勢、即チ、事ノ原因ノ觀念ト、此心、其事ニ逢フノ初メニ方リ、其觀念ヲ作

様法ニテ、提

醒セラ

ル、カチ

論ス  
起セラル、原因ノ觀念ニテ、原因ノ中ニ、其一定ノ效驗ヲ、生スル爲ニ、

一物ノ他物ニ勝レリト、云フ權勢ノ意ヲ含クメリ、吾人又我カ意ノ向フ

所ニ依テ、外界ノ物體ニ亦相通スル效驗ノ、生スルヲ視ル、依テ以テ、猶又、

吾人自己モ、他ノ諸物ニ勝ル權勢ヲ有スルヲ知ルナリ、此ノ如ク、此心ニ、

提醒セラレタル觀念アリテ、愛ニ又、此觀念ト、連絡シテ、感性ノ活動ヲ生

ス、即チ、吾人、我カ周匝ノ物ニ、勝ル勢力ヲ、有スレハ、我ニ快樂ナルノ感ヲ、

興起スルニテ、吾人ハ、其享樂スル所ノ物ヲ愛シ、其愛スル物ヲ欲ス、此ノ

如クニレテ、此心ニ、權勢ヲ有スル爲ニ強キ欲ヲ發生シテ、漸ク盛ナルニ、



權勢ヲ張ルノ樂ニ  
ヲ論ス

何レノ時ヲ論セス吾人一ノ較著ナル效驗ヲ發セシムルヲ得而テ其效驗ハ我カ好ム時ニ應シテ何時モ同一ニ生セシムル者ヲ我ニ有スト云フ我ノ意識ヨリシテ生スル所ノ快樂ハ此享樂ノ中ニテ至高ナル源由ノ一ニシテ天ノ以テ吾人ヲシテ享ケシムル所ナリ此欲蓋シ世界ニ充滿シテ陸續活動ヲ生セシムル秘密ナル淵源ニテ既ニ稚兒ノ嬉戯ニ現ハレ又壯年ノ一層大イナル事業ニモ表ハルハナリ故ニ稚兒能其自己ノ肢節ヲ動カシ得若クハ管束シ得ル時少年角力ノ戯ニ其同輩ノ技巧ニ勝ルノ術ヲ知ル時壯年ノ人其同輩ノ行爲ヲ管束シ得テ他人ノ意ヲ屈シ自己ノ意ニ從ハシムル時此ノ如キ時少長トナク皆新ダニ勢力ヲ得テ悦フハ恐ラクハ同一ナルヘシ而テ其快樂ハ其獲ル所ノ新メナルト依テ以テ生シタル効驗ノ陽ハニ浩大ナルトニ準スルコト一般ナリトス

此本元ノ  
強力變動  
ヲ論ス

權勢ノ愛ハ人心ニ旺スル諸本元ノ中至強ノ一ニシテ其坐位ヲ占ルヤ深ク人性ノ基礎ニ在リ吾能某ノ事ヲ爲ス吾能他人ノ爲ス所ノ事ヲ爲ス吾能他人ヨリモ多ク之ヲ爲スト是即チ吾人ノ努力ニ於ケル自然ノ次序進路ニシテ又兼テ吾人ノ享樂ニ於ケル程度増息ナリ今ソレ見戲ノ玩具ニ於ケル文明ト陋夷トヲ論セス万国ノ爭勝ニ於ケル皆是強力ト強力ト相競フニ非ル莫シ而テ之ヲシテ然ラシムル者ハ權勢ノ愛ニ非スシテ何ソカノ蹊路ナキ山嶽ヲ攀チ茫渺ナル沙漠ヲ涉リ其強力遂カニ我ニ勝レタルヲ顧ミス獵夫ヲシテ其自然ノ主ナル毛茸ノ士族ヲ探尋スルニ至ラシムル者ハ權勢ノ愛ニ非スシテ何ソカノ貔貅ノ大軍ヲ師ヒ他國ヲ攻略シ新疆ヲ拓カストシテ勇士ヲシテ唾手事ニ從ハシムル者ハ權勢ノ愛ニ非スシテ果シテ何ソヤ

又他ノ事  
業ニ於テ  
之ヲ觀ル  
ヲ論ス

又日常平和ノ事業ニ於テモ是ト同一ナル衝動力ノ他力ト相混スルコト許多ナルハ如何恐ラクハ一層伴象ナリト雖ヒ人ノ舉動ノ動機ハ斯ニ存スルコト莫キヲ得ムヤカノ科學ノ人ノ若キ夜々衆星ノ運行ヲ觀テ天象ノ組織硬難ナル問題ヲ離解シテ之ヲ單純精微ノ元理ニ歸セシム而テ其新メニ理法ヲ發明シテ由來久シク人間ノ講究ヲ攪亂セシ秘密ヲ窺フニ至テハ即チ其人カノ物質世界ヲ己レカ意ニ從ハシメ竟ニ此權力ヲ占メタルヲ以テ其意識ニ於テ悅樂ヲ生スルコト豈ニ少クナラ



ムヤ、是又、カノ説家ニ於ケルモ、同シク然ル者アリ、其言語ハ、人民ノ生活ト、一國ノ安危トニ、關スル所ニテ、或ハ之ヲ譴責シ、或ハ之ヲ庇護シ、或ハ萎靡半睡ノ情意ヲ振作シ、以テ、聽衆ノ忠心ヲ起シ、勇氣ヲ鼓シ、怨惡ヲ増サシメ、或ハ、其憤怒ヲ鎮シ、其憂慮ヲ慰シ、其悲憐ヲ長シ、其危懼ヲ生セシム、此時ニ當リ、目前ノ衆人ノカ爲ニ、鼓動セラレ、己レカ探ル所ノ權ニ、服從セルヲ見、其心腸ニ、存スル情ト混シテ、大捷ヲ獲ルノ快樂ヲ、増加スルニ至レハ、其意識ニ、感スル所ハ、如何ソヤ

知識ノ欲  
ニ補助  
タル論ス

權勢ノ欲ハ、他ノ行爲ノ諸本元ニ補助タルコトアリ、或、事例ニテハ、蓋シ、之カ基礎タルコトアリ、凡テ新ダニ、真理ヲ曉リ得ル毎ニ、此心ニ、勢力ノ増加スル所以ナルヲ以テ、此欲特ニ知識ノ欲ニ補助マリトス、故ニ、之カ爲ニモ、又其欲自己ノ爲ニモ、殊ニ甚シキニ至ルナリ、凡テ吾人、愈多ク知レハ、愈多ク、愈能之ヲ爲スハ、尋常ノ事ナリ、故ニ、心ニ獲ル才能ハ、一ノ意味ニテ言ハ、其他猶大イニ獲ル所アラムトスルヲ、助ケ成スノ器械トナルナリ、吾人ハ、吾人ノ發明ニテ、知ル所ノ、天地間ノ諸力、諸元行ヲ資リテ、我カ助ケニ、供スル爲ニ、一ノ様法ニ依テ、我カ指揮ニ服セシメ、又我カ

自己ノ躬行ヲシテ、科學ノ啓示スル定理ニ、一致セシムルコトヲ、得ル者ナリ、故ニ、此心、凡百理法ノ講究ニ勞シ、真理ヲ探頤スル、倦劬ニ處シテ、常ニ努力シテ、止マサル者ハ、カノ或、意味ニテハ、知識ノ増ス毎ニ、勢力モ亦、隨テ増スト云フノ、保證アルニ因ルナリ、カノ世ニ流行シテ、尋常ニ之ヲ倍根ニ歸スル箴言ニ、知識ハ、勢力ナリト、肯定セルハ、是カ爲ナリ

自由ノ愛  
スニモ補  
タル論  
ス

或、著家ノ説ニテハ、自由ノ愛モ、又少クモ、權勢ノ愛ヨリ發スル者ナリ、何トナレハ、是吾人、我カ好ム所ヲ、爲スヘキノ欲ナレハナリ、何ニテモ我ヨリ自由ヲ奪フ者ハ、我カ權力ヲ限ルナリト、是ト同ク、或、道德學家ノ著述家ハ、徳ヲ樂ムモ、一ノ目的ニテハ、此同一源由ニ係ハレリト云フ、事實ヲ表章セリ、故ニ、人若惡習ニ慣ヒ其心、之カ管轄ヲ受ル時ハ、自ラ管束スルノ勢力ヲ失ヒ、其心、卑劣ナル情欲ニ服從シ、而テ此ノ如ク、勢力ヲ失フ時ハ、其意識、汚辱ニ陥リ、常ニ苦楚ヲ帶フルナリ、又一方ニハ、其人、縦ヒ、周匝ノ惡習、響動ニ染ミ易キモ、又自己自然ニ、罪業ナル縱肆ニ、流ル、ノ偏僻アルモ、勉メテ、其正義ヲ固守セムト、欲スル時ハ、其相反セル響動ト、新タニ戰フ毎ニ、常ニ、最後成巧ノ質子ヲ、捕ルカ如ク、戰捷ノ期モ、遠キニ在ラ